

# 第8回 日本聴覚障害学生 高等教育支援 シンポジウム



## 12/2

## 愛媛大学

### PEPNet-Japan

- 主催 日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク (PEPNet-Japan)  
国立大学法人 筑波技術大学
- 共催 国立大学法人 愛媛大学
- 協力 四国学院大学 / 松山大学
- 後援 文部科学省 / 独立行政法人 日本学生支援機構 (JASSO) / 愛媛県 / 松山市 /  
NHK 松山放送局 / 愛媛新聞社 / 四国新聞社 / 徳島新聞社 / 高知新聞社

## も く じ

|                                    |    |
|------------------------------------|----|
| 開催要項                               | 2  |
| 挨拶                                 | 4  |
| プログラム                              | 8  |
| 会場案内                               | 10 |
| 分科会                                |    |
| 分科会1「基礎講座：愛媛大学の取り組みから」             | 14 |
| 分科会2「実践！職場でのエンパワメント」               | 26 |
| 分科会3「見て学ぼう！みんなの書き方・打ち方」            | 29 |
| 分科会4「解決！コーディネート現場の悩み」              | 35 |
| 全体会                                |    |
| 特別講演「高等教育における障害学生への合理的配慮について」      | 42 |
| ランチセッション                           |    |
| ランチセッション概要                         | 44 |
| 会場図                                | 44 |
| 相談コーナー　トーク＆トーク                     | 45 |
| ミニセミナー                             | 46 |
| 聴覚障害学生支援に関する実践事例コンテスト2012          | 48 |
| 聴覚障害学生支援に関する機器展示                   | 49 |
| 参考資料                               |    |
| 日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PEPNet-Japan） | 54 |
| 日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク　連携大学・機関活動紹介   | 63 |
| 聴覚障害学生支援に関する実践事例コンテスト　発表内容紹介       | 87 |





## 第8回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム

### ✿ 開催要項 ✿

名 称 : 第8回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム

目 的 : 高等教育機関で学ぶ聴覚障害学生への支援については、近年多くの大学が聴覚障害学生の受講する授業に対してノートテイカーを配置するなどの体制作りを進めている。日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PEPNet-Japan）では筑波技術大学を中心に、特に聴覚障害学生への支援体制を充実させ、積極的な取り組みを行っている大学・機関と共同で、聴覚障害学生支援に関するノウハウを積み重ね、先駆的な事例の開拓を行ってきた。本シンポジウムでは、全国の大学における支援実践に関する情報を交換するとともに、PEPNet-Japanの活動成果をより多くの大学・機関に対して発信することで、今後の支援体制発展に寄与することを目的とする。

日 時 : 2012年12月2日（日）9:30～16:00

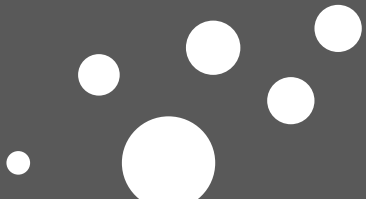
会 場 : 愛媛大学（松山市文京町3番）

主 催 : 日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PEPNet-Japan）  
国立大学法人 筑波技術大学

共 催 : 国立大学法人 愛媛大学

協 力 : 四国学院大学  
松山大学

後 援 : 文部科学省  
独立行政法人 日本学生支援機構（JASSO）  
愛媛県  
松山市  
NHK松山放送局  
愛媛新聞社  
四国新聞社  
徳島新聞社  
高知新聞社



大会長：高橋 信雄（愛媛大学）

事務局長：白澤 麻弓（筑波技術大学）

実行委員：松田 正司・立入 哉・岩川 保・苅田 知則・平尾 智隆・原田 美藤・  
太田 琢磨・石田 隼人・二宮 雅美・黒田 友貴・相川 祥穂・松田 聡子・  
植山 廣紀（愛媛大学）  
松崎 丈（宮城教育大学）  
石原 保志・及川 力・小林 正幸・佐藤 正幸・石塚 陽二・三好 茂樹・  
大杉 豊・河野 純大・磯田 恭子・中島亜紀子・石野麻衣子・五十嵐依子・  
小林 洋子（筑波技術大学）



## 第8回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム



### 第8回シンポジウムの開催にあたって

国立大学法人 筑波技術大学長

日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク 代表

村上 芳則

「日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム」が回を重ね、第8回目の今回は愛媛大学との共催により「松山」で開催されることになりました。参加者の皆様を心より歓迎致します。このシンポジウムは、聴覚障害学生の高等教育に関する大会としては、我が国で最も大きなものです。愛媛大学の柳澤学長を始め、準備頂いた高橋大会長、実行委員の方々、協力いただいた皆様に、心よりお礼申し上げます。

今回のシンポジウムでは、「職場でのエンパワメント」や「コーディネート現場の悩み」などのテーマを設定するとともに、愛媛大学における支援の取組みの報告などの分科会が企画されています。近年、聴覚障害者の大学進学が益々増加し、数多くの大学等において教育環境や情報保障の改善、そして授業担当教員による教育方法の工夫がなされるようになってきました。しかし、まだまだ現場では様々な疑問や問題点、悩みを抱えているのが実情です。このような状況下での今回のシンポジウムであり、参加された皆様にとって有意義な1日となりますことを確信しています。

さて、本学は本年開学 25 周年を迎えました。聴覚、視覚障害者のみを受け入れる我が国で唯一の高等教育機関、3年制短期大学として開学以来、1503 名の卒業生を社会に送り出すなど、社会参画・貢献できる人材の育成等に多くの成果を上げています。7年前に4年制大学として再出発し、一昨年4月には4年制大学としての第1期生の卒業に合わせ「大学院」がスタートしました。昨年、学生からの要望の多い「教職課程」の開設、さらには、韓国からの「研修生、留学生」の受入れを実現させるなど、多様な教育の需要、言い換えれば『多様な教育の課題』に応えられる大学を目指しています。

また、本学の重要な機能の一つに他大学支援があります。開学以来、「障害者高等教育研究支援センター」が中心となり、本学の教育・研究活動の成果及び経験を広く提供することにより、情報保障など障害者の教育環境の改善に関して支援を行ってきました。一昨年からは、「教育関係共同利用拠点」としての認定を受け、他の高等教育機関との連携をさらに発展させ、障害学生に対する学修支援の一層の充実を図っています。将来的には、障害者の教育方法や情報保障方法・機器、コーディネート業務などについての専門家を育成することが必要と考え、現在、この支援センターが担う大学院の専攻の設置を計画中です。

本学が「日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク(PEPNet-Japan)」の中で、日本学生支援機構と手を携え、障害学生の支援活動を行っていること、また、聴覚、視覚障害者のみを対象とする大学が、大学院のある大学、教職課程のある大学、留学生を受け入れている大学として位置づいたことは、国内のみならず、海外、特にアジアの障害者の高等教育の在り方、障害のある人々のより良い社会自立の実現に大きな影響を与えています。

その中で、多数の参加者のもとで「第8回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム」が開催されますことは、大変意義深いことであり、開催をご支援いただいた皆様にこの場をお借りして心からお礼申し上げます。

## 第8回シンポジウムにあたって

国立大学法人 愛媛大学長  
柳澤 康信

第8回の日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク全国シンポジウムが筑波技術大学との共催により四国愛媛の地で開催されますことを心からお祝い申し上げます。また、愛媛大学を代表し、全国各地からこのシンポジウムにご参加いただきました皆様を心から歓迎いたします。

愛媛大学では、1998年の国立大学協会の障害者への修学状況等に関する実態報告書の集約を契機として、教育学部に学ぶ聴覚障害学生への支援の取組が始まりました。現在では、キャンパスバリアフリー推進室を設置し、施設のバリアフリー化を始めとし、障がい者修学支援委員会が中心となって、ノートテイク、パソコンノートテイク、板書ノートテイクなど、障がいを持った学生への支援に取り組んでいます。

愛媛大学は、「学生中心の大学」を目指し、学生による学生のための種々の支援を活発に行っています。その取組の一つとして、スチューデント・キャンパス・ボランティア(SCV)があります。SCVは9団体で構成され、障害学生支援もそこに含まれています。教職員と一緒に学生が主体的に課題を解決する活動を行っています。

現在、国においては全ての国民が、障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社旗の実現を目指し、障害者権利条約の批准に必要な国内法の整備を始め、種々の改革が推し進められつつあります。このシンポジウムが、「障害者権利条約」にうたわれる高等教育における「合理的配慮」の一端を切り開いていく取組の一助になることを期待いたします。



## 第 8 回日本聴覚障害学生高等教育支援 シンポジウムの開催にあたって

独立行政法人日本学生支援機構 学生生活部長 関口雅之

第 8 回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウムの開催を心からお喜び申し上げます。

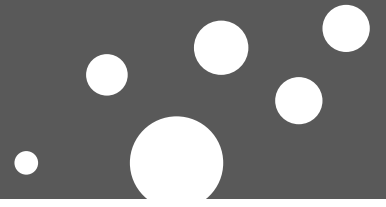
さて、高等教育機関で学ぶ聴覚障害学生への支援については、筑波技術大学を中心に、積極的に取り組まれている大学・機関が協力され、平成 17 年度から運営されている日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PEPNet-Japan）の先駆的な活動によりまして、たいへん大きな成果を挙げられており、全国の障害のある学生への支援に取り組む日本学生支援機構（JASSO）といたしましても、厚く感謝を申し上げる次第であります。

また、昨年の中日本大震災において、PEPNet-Japan が聴覚障害学生支援に積極的に取り組まれている全国の大学・機関と連携され、被災により聴覚障害学生に対する情報保障体制を整えることが困難な大学に対して、「モバイル型遠隔情報保障システム」により、遠隔での情報保障支援をされたことは、今後の災害時における障害学生支援のあり方を考える上でも、たいへん先見的で有意義な取り組みとして高く評価されたことは記憶に新しいところであります。

JASSO におきましては、平成 16 年度からの約 9 年間にわたる障害学生支援の取り組みにおいて、全国的な障害学生修学支援ネットワーク事業等、筑波技術大学にもご協力いただき展開していく中で、さまざまな啓発事業や情報提供を行なってまいりました。政府においては、障害者の権利に関する条約の批准に向けた施策の整備等が進められ、昨年 8 月に障害者基本法が改正されたところであり、障害学生支援のための取り組みは、全ての国民が分け隔てなく共生する社会を実現していく上で、たいへん重要なものとなってきております。

JASSO といたしましても、今後さまざまなネットワークとの連携により、支援の充実を目指してまいりたいと思いますので、皆様のご理解、ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

最後に、本日のシンポジウムが、ご出席の皆様お一人おひとりに実り多いものとなり、ここでの成果を持ち帰られ、実践に生かされることを期待申し上げるとともに、PEPNet-Japan、また、筑波技術大学をはじめ関係の大学・機関、本日まで参加の皆様のますますのご発展を心よりお祈り申し上げます。





## 第 8 回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム

### ✧ プログラム ✧

《分科会》 9:30～11:30

■分科会 1 「基礎講座：愛媛大学障がい学生支援体制構築のあゆみ」

(教育学部 2 号館 1 階 103 教室)

企画コーディネーター : 原田美藤氏 (愛媛大学)

太田琢磨氏 (愛媛大学)

司 会 : 原田美藤氏

アドバイザー : 池田 愛氏 (香川県立聾学校／愛媛大学 2003 年度卒)

天津祐子氏 (島根県立浜田養護学校／愛媛大学 2003 年度卒)

相川祥穂氏 (愛媛大学 4 回生)

植山廣紀氏 (愛媛大学 2 回生)

太田琢磨氏 (愛媛大学)

■分科会 2 「実践！職場でのエンパワメント」 (教育学部本館 4 階 401 教室)

企画コーディネーター : 石原保志氏 (筑波技術大学)

大杉 豊氏 (筑波技術大学)

司 会 : 大杉 豊氏

アドバイザー : 鈴木英司氏 (トランスコスモス株式会社)

森崎めぐみ氏 (聴覚障害当事者 (大手企業会社員: 一般事務職))

石原保志氏

■分科会 3 「見て学ぼう！みんなの書き方・打ち方」 (教育学部本館 4 階 402 教室)

企画コーディネーター : 河野純大氏 (筑波技術大学)

司 会 : 河野純大氏

アドバイザー : 岡田孝和氏 (日本社会事業大学)

越智英恵氏 (愛媛県立松山聾学校)

有海順子氏 (筑波大学)

二宮雅美氏 (愛媛大学)

■分科会 4 「解決！コーディネート現場の悩み」（教育学部 2 号館 1 階大講義室）

企画コーディネーター：松崎 丈氏（宮城教育大学）

司 会：松崎 丈氏

アドバイザー：源田信子氏（関西学院大学総合支援センター）

柴田可奈恵氏（東洋大学共通教務課）

水野里香氏（群馬大学障害学生サポートルーム）

村田 淳氏（京都大学障害学生支援室）

《全体会Ⅰ》11:45～12:15（教育学部 2 号館 1 階大講義室）

11:45～11:55 開会式

11:55～11:15 特別講演「高等教育における障害学生への合理的配慮について」

講 師：松尾泰樹氏（文部科学省高等教育局学生・留学生課 課長）

《ランチセッション》12:30～15:15（大学会館 生協 1 階・2 階）

相談コーナー トーク＆トーク

ミニセミナー

聴覚障害学生支援に関する実践事例コンテスト 2012

聴覚障害学生支援に関する機器展示

松山地域活動紹介展示

PEPNet-Japan 連携大学・機関活動紹介展示

筑波技術大学活動紹介展示

《全体会Ⅱ》15:30～16:00（大学会館 生協 1 階）

15:30～15:50 聴覚障害学生支援に関する実践事例コンテスト 2012 表彰式

15:50～16:00 閉会式





## 第8回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム

### 会場案内

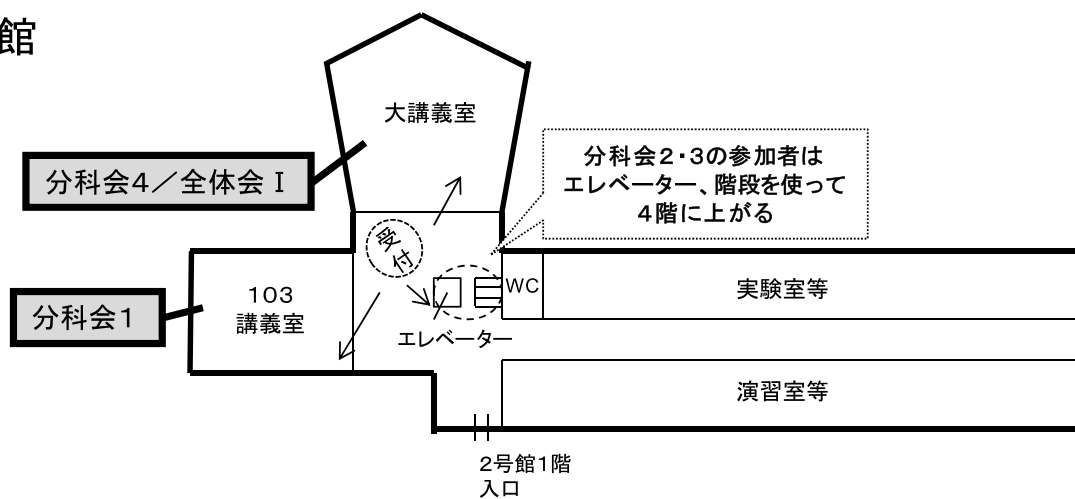
| 時間          | 内容   | 会場   |
|-------------|--|--|
| 9:30～11:30  | <b>分科会</b><br>分科会 1「基礎講座：愛媛大学障がい学生支援体制構築のあゆみ」<br>分科会 2「実践！職場でのエンパワメント」<br>分科会 3「見て学ぼう！みんなの書き方・打ち方」<br>分科会 4「解決！コーディネート現場の悩み」 | 教育学部 2号館 1階 103 講義室<br>教育学部本館 4階 401 講義室<br>教育学部本館 4階 402 講義室<br>教育学部 2号館 1階大講義室 |
| 11:45～12:15 | <b>全体会 I</b><br>開会式<br>特別講演「高等教育における障害学生への合理的配慮について」   | 教育学部 2号館 1階大講義室  |
| 12:30～15:15 | <b>昼食</b><br>※ビュッフェ形式となります。飲食スペースにてお召し上がり下さい。<br><b>ランチセッション</b><br>相談コーナー トーク＆トーク<br>ミニセミナー<br>聴覚障害学生支援に関する実践事例コンテスト 等      | 大学会館（生協）1階・2階  |
| 15:30～16:00 | <b>全体会 II</b><br>聴覚障害学生支援に関する実践事例コンテスト表彰式<br>閉会式   | 大学会館（生協）1階   |

### 愛媛大学構内図

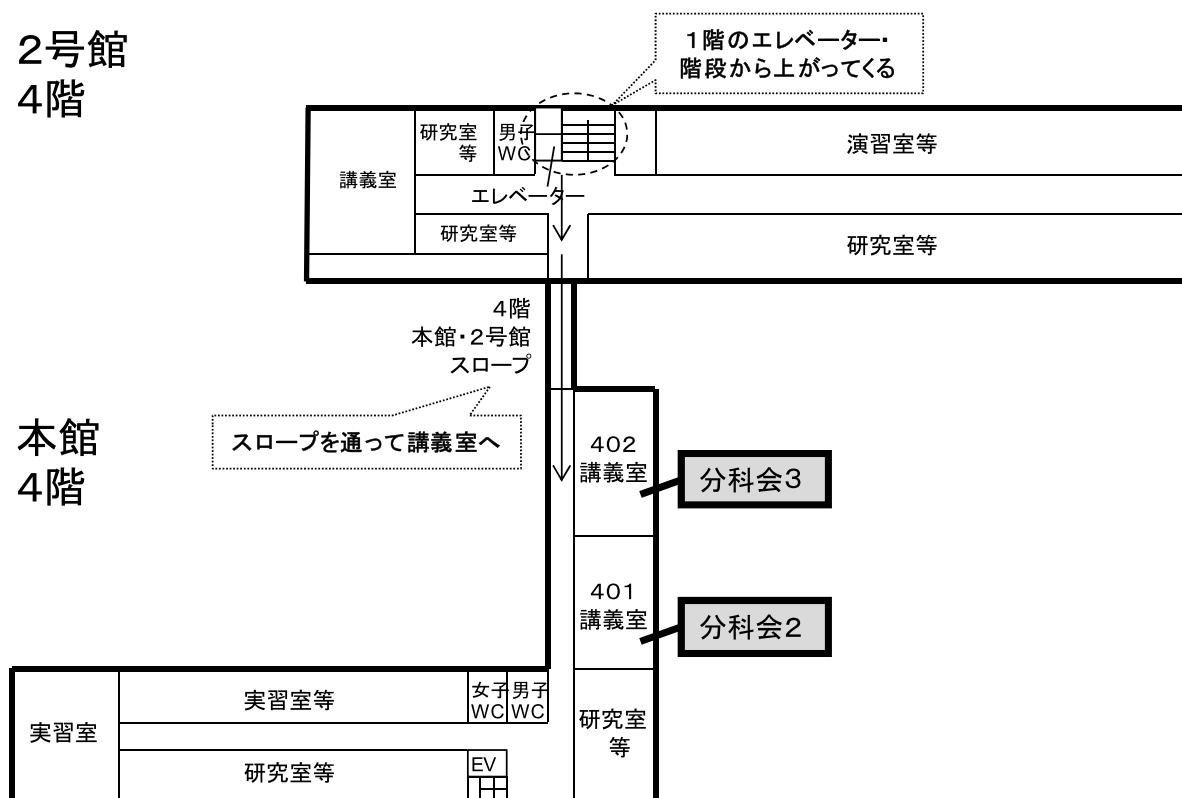


## 教育学部 拡大図


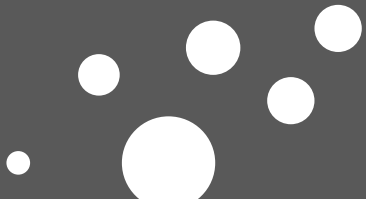
### 2号館 1階



### 2号館 4階







# 分科会



【分科会1】

基礎講座「愛媛大学 障がい学支援体制構築のあゆみ

—学生たちはどう行動してきたのか!?!—

企画コーディネーター：原田美藤氏（愛媛大学 アカデミックアドバイザー）  
太田琢磨氏（愛媛大学 教育学生支援部バリアフリー推進室）

司 会：原田美藤氏

講 師：天津祐子氏（島根県立浜田養護学校 教員／愛媛大学 2003 年度卒）  
池田 愛氏（香川県立聾学校 教員 ／愛媛大学 2003 年度卒）  
相川祥穂氏（愛媛大学 4 回生（聴覚障がい学生））  
植山廣紀氏（愛媛大学 2 回生（支援学生））  
太田琢磨氏

討論の柱

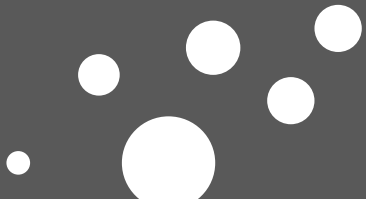
- ①愛媛大学の支援体制はどのようにして構築されてきたか、その思いと具体的アクションを知る。
- ②現在の取り組みと課題、これからの目標について過去の歴史を振り返りながら考察する。
- ③「大学版モコゲーム」を使い、聴覚障がい学生の講義での場面を体験し、聴覚障がい学生の立場を理解する。

企画趣旨

愛媛大学の障がい学生支援の拠点は「バリアフリー推進室」である。障がい学生や支援学生が自由に出入りする環境と支援設備は今や障がい学生支援において、全国的にも先駆的取り組みが行われている大学として知られている。

そこでの活動は学生を中心とした支援活動が行われ、幅広い障がい学生の集う場所でもある。この学生たちを支えて言えるのが専任スタッフ3名である。この内、1名が聴覚障がい有するスタッフとして在中していることも特色としてあげられる。(2012年6月NHK「みんなの手話」にて紹介)

また教育学部には特別支援教育という講座がある。多様な障害に対応できる専門家が、学生の活動を支えていることも恵まれた環境にあると言える。



愛媛大学は日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PEPNet-Japan）の連携大学としてネットワーク発足当時から加盟し、本年度の PEPNet-Japan の運営委員長をはじめとする 8 名ものスタッフが何らかの事業に関わり、広く活動していることも学内支援の充実に繋がってきたと感じる。

しかし、現在の支援環境に至るまでの道のりは長く、地道な多くの学生たちの歩みの積み重ねがあったからこそ今がある。ボランティア学生が長い間支え続けた支援に転機が訪れたのが 2000 年の時であった。聴覚障がい学生の声が形となり、副学長に要望書を提出したことがきっかけとなり、聴覚障がい学生の存在とボランティア学生の実態が明らかとなった。その後学生たちの声を受け、現在の「障がい者修学支援委員会」の源流となる「障害者学習支援研究・調査委員会」が 2001 年に発足し、大学の問題として大きく動き始めたのである。

今回この歴史を構築してきた卒業生の熱い思いと、その思いをどのようにして形にしていたのか、そしてどのように受け継がれていったのか、明確にしていく事が現在も存続している「バリアフリー推進室」の姿を知ることになると考える。どのような構築段階であれ、参加者の皆様の具体的な支援体制作りの方略の手がかりとなれば幸いである。

最後に 2006 年度から共通教育の授業として位置づけられている科目についてご紹介したい。ここでは障がい学生支援者の育成を主眼とした講義が行われている。特に聴覚障がい理解と、情報保障の実践を中心に幅広く諸外国の福祉の取り組みも含めた障がい者理解とを行ってきた。この中で聴覚障がい者理解を深める「モコゲーム」（NP0 モコクラブ制作）を使った聴覚障がい者の体験学習を取り入れている。これは 2008 年には NHK「みんなの手話」で初めての聴覚障がいを体験するゲームとして、大学での講義の様子などが紹介された。

今回は二作目となる「大学版モコゲーム」の制作にあたり、その中から講義における聴覚障がい学生の体験をその聴力レベル別に行い、同時にノートテイクの体験も行う時間を設けている。体験を通して理解を深め、支援に役立てていただけると幸いである。



## 第8回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム

「聴覚障がい学生支援システム構築に向けて」

天津祐子氏（島根県立浜田養護学校／愛媛大学 2003 年度卒）

### 聴覚障がい学生 支援システム構築に向けて

2004年3月 愛媛大学卒業  
天津 祐子

### 愛媛大学入学当初

- 友人、先輩との出会い  
同期生に聴覚障がい学生  
先輩、専攻科に聴覚障がい学生

入学当初、講義における支援体制なし。

### だから

- 聴覚障がい学生自身が、サポーターを呼びかける。



・募集に限界  
・週15コマ前後の講義全てにおいて、サポーターを見つけること困難  
・サポーターを求める学生は複数いる。  
=同じ時間帯にサポーターも複数必要

- 一緒に講義を受ける同期生がサポートをする。



・「何もしないわけにはいかない」という気持ち  
すぐ横で、講義の情報が入らない友人がいる  
・謝金が支払われることにもためらい

### 大学生活を過ごす中で

- 聴覚障がい学生が、学校に働きかけていることを知る。
- 謝金は、対等な関係であるために必要なこと、今後の支援システム構築に向けて必要なこと。

しかし、  
実際に講義を受ける聴覚障がい学生、サポートする学生が望むような状況には、なかなか変化しない現実

### 大学生活を過ごす中で

- はじめは、好意(というよりも、共に講義を受ける友人をほっておけない気持ち)から始めた講義のサポート



聴覚障がいの友人、サポートする学生の間で、  
いつの間にか生まれた 負担感  
いつの間にか生まれた 申し訳ない気持ち  
いつの間にか生まれた 遠慮の気持ち

## このままでよいのか？

- 聴覚障がい学生の増加
- どうにかしようとしてくださる先生方の存在(学外への愛媛大学のPR)
- 次第に増す「どうにかするべきだよな？」という声
- 聴覚障がいを持つ友だちや先輩、後輩との話、姿
- 教育実習でのこと

★支援システムの必要性を痛感  
★サポートを受ける、サポートをする本人ではない  
コーディネーターの必要性

7

## このままでよいのか？

★支援システムの必要性を痛感

★サポートを受ける、サポートをする本人ではない  
コーディネーターの必要性

8

## 具体的に動いてみる

- 理解のある先生方、スタッフの存在
- 支援システム構築に向けて、具体的な動きが少しずつ始まっている。

そこに、サポート学生の思いはあるか？

- サポート学生の声も届けなければ!!(半ば勢い)
- 聴覚障がい学生だけの問題ではない!!
- 一緒になって訴え続けなければ!!  
「こんなに困っている。」「悩んでいる。」  
「無理なら、まずは私がやる。」

9

## 2003年度(4回生)

- 学生コーディネーターの配置
    - ・聴覚障がい学生とサポーターへの  
連絡、調整
    - ・大学(学務部)との連携
    - ・ノートテイク支援方法の講習
- ※コーディネーターの負担[時間、手間、連絡代]
- ・急な連絡に対応できない
  - ・多くの時間を連絡、調整に要する
  - ・個人の携帯による連絡

10

## 振り返って

- できることから始める
- 仲間が存在
  - ★一緒になって考え、取り組んでいける仲間
- はじめの小さな一歩
  - ⇒ 10年経った今、全国的組織へ
- 伝え続けていく、訴え続けていく
  - ★エネルギー、思い
  - ★アピール

11

みんなが心地よく過ごせる  
キャンパスライフを目指して・・・。

ありがとうございました。

12





## 第8回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム

### 「聴覚障害学生の立場から ー情報保障制度確立に向けてー」

池田 愛氏（香川県立聾学校／愛媛大学 2003 年度卒）

#### 聴覚障害学生の立場から ～情報保障制度確立に向けて～

2004年3月卒業  
池田 愛

1

- 入学前
  - ・地域の学校を卒業
  - ・情報保障の重要性について認識していなかった
  - ・他大学の先輩から情報保障について教えてもらう
- 入学時
  - ・入学式で手話通訳をつけてほしいと依頼する
- 入学後
  - 「このままでは講義に全くついていけない！」
  - ・情報保障についての重要性について自覚

2

#### 入学後の情報保障に関して

- ボランティア学生の確保
  - ・特別支援教育専攻の先輩、同級生を中心に
- 備品（ノート、ペン等）の確保
  - ・特別支援講座の先生方の協力で
- 予算の確保
  - ・十分ではなかったが、予算を確保していただいた

3

#### 具体的取り組み①

- ボランティアの確保
  - ・学内の掲示板にポスターをはる
  - ・外国語は留学生や過去受講した人に
  - ・ボランティアの確保ができなかった時は同じ講義を受けている人に
- 謝金
  - ・支援を受けた障害学生が計算して支払う
  - ・わずかな額であるため心理的な負担が大きかった

4

#### 具体的取り組み②

- 愛媛大学ろう・難聴学生懇談会
  - 毎週集まり、情報保障について話し合う
  - 全学的な障害学生支援に関する要望書を作成・提出
- 4年間の学生生活において一番必要なこと  
「情報保障」
- 個人、ボランティアの努力だけでは限界がある
- そのためにできることは何か？

5

#### 副学長への要望書提出

- ・現状
- ・他大学の状況
- ・求めること  
(予算の確保、コーディネーターの配置、  
技術・情報交換等)
- <恵まれた環境>
  - ・情報保障に関する知識、経験をもつ聴覚障害の先輩の存在
  - ・特別支援教育の専門家の先生方のご指導
  - ・特別支援教育を専攻する友人、先輩の支え …

6

### ○当時の課題

- ・全ての講義にノートテイクを確保することが難しかった
- ・ノートテイクに関する知識・技術の未熟さ
- ・謝金、備品などの予算確保
- ・講義場面に適した情報保障の選択（手話通訳、ノートテイク等）

学生がコーディネートを担うようになる  
負担が大きすぎる  
十分な連絡調整ができない



職員としてのコーディネーターの配置 必要！

7

### 今思うこと

- ・何もない時だったからこそ試行錯誤できた
- ・もっと活動してもよかったのでは・・・
- ・困った時は声をあげることが大切
- ・待っているだけでは何も始まらない
- ・同じ障害をもつ仲間の大切さ
- ・支えてくれた仲間の大切さ

8



## 第8回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム

### 「障がい学生支援ボランティア（CBP）の活動（2009—2012）」

相川祥穂氏（愛媛大学 教育学部 4回生）

植山廣紀氏（愛媛大学 法文学部 2回生）

第8回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム  
分科会1「基礎講座 愛媛大学の取り組みから」

### 障がい学生支援ボランティア （CBP）の活動 （2009—2012）

発表者

相川 祥穂（愛媛大学教育学部4回生）

植山 廣紀（愛媛大学法文学部2回生）



愛媛大学障がい学生支援ボランティア（CBP）

1

### 障がい学生支援ボランティア（CBP）とは

- Campus
- Barrier-free
- Promoters

学生が主体となって活動を行っている  
障がい学生支援ボランティア団体



愛媛大学障がい学生支援ボランティア（CBP）

2

### CBPの目的・目標

- 目的
  - － 障がいのあるなしに関わらずすべての学生がよりよい大学生生活を送れるように活動する
- 目標
  - ① 支援学生を募集・養成する活動を行い、障がい学生支援を充実させる
  - ② 障がい学生と支援学生の交流の場を設ける
  - ③ 学内のバリアフリー化を推進する



愛媛大学障がい学生支援ボランティア（CBP）

3

### CBPの活動①

- 支援学生募集活動
  - － 入学式で新入生に支援学生募集を呼びかけ
  - － 学内でのポスターの掲示やビラ配布
  - － 全学メールと電子掲示板による広報（今年度後期）
  - － はぐはぐ通信の作成・発行



愛媛大学障がい学生支援ボランティア（CBP）

4

### CBPの活動②

- 各種基礎講座
 

基本的にCBPが担当。

  - － ノートテイク基礎講座1&2
  - － パソコンノートテイク基礎講座1&2
  - － 講義支援講座（肢体）
  - － 生活支援講座（肢体）
  - － 手話基礎講座



愛媛大学障がい学生支援ボランティア（CBP）

5

### CBPの活動



ノートテイク基礎講座1の様子  
（昨年度）



愛媛大学障がい学生支援ボランティア（CBP）

6

## CBPの活動



ノートテイク基礎講座Ⅰの様子  
(今年度)



愛媛大学障がい学生支援ボランティア(CBP)

7

## CBPの活動

### ・手話基礎講座

2009年度より:相川とバリアフリー推進室の太田が共催する形で開講

2012年度後期はCBPが主催する形で開講



愛媛大学障がい学生支援ボランティア(CBP)

8

## CBPの活動



手話基礎講座Ⅰの様子



愛媛大学障がい学生支援ボランティア(CBP)

9

## CBPの活動③

### ・バリアフリー調査

ー学内の物理的バリアを調査

ー2010年、2011年に夏期休業を用いて  
城北キャンパスのバリアフリー調査を実施

### ・障がい学生にアンケート

→学生代表者会議に提出



愛媛大学障がい学生支援ボランティア(CBP)

10

## CBPの活動④

### ・学生代表者会議

ー学長と学生が直接会い、大学生活をよりよくする案や要望を直接提言

ー11名の代表者のうち  
「障がい学生支援ボランティア代表者」という枠

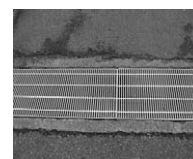
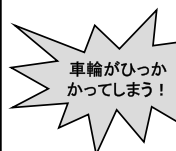
(愛媛大学憲章の「学生中心の大学」づくりの一環)



愛媛大学障がい学生支援ボランティア(CBP)

11

## CBPの活動



愛媛大学障がい学生支援ボランティア(CBP)

12



## 第8回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム

### CBPの活動⑤

#### ・意見交換会

- ー 障がい学生と支援学生、また支援学生同士の交流のために、年2回(前期・後期おわり)開催



愛媛大学障がい学生支援ボランティア(CBP)

13

### CBPの活動⑥

#### ・他大学交流

- ー 2010年度より毎年、他大学と交流

#### ー 昨年度

- ・ 11月 筑波技術大学
- ・ 11~12月 松山大学(連携事業)
- ・ 3月 筑紫女学院大学(NCP)



愛媛大学障がい学生支援ボランティア(CBP)

14

### 他大学との交流

- ・ 東京農業大学(2010年8月)



- ・ 東北福祉大学(2010年11月)
- ・ 筑波技術大学(2011年11月)  
(PEPNet-Japan学生企画にて)



愛媛大学障がい学生支援ボランティア(CBP)

15

### CBPの活動

- ・ 筑紫女学院大学(2012年3月)



愛媛大学障がい学生支援ボランティア(CBP)

16

### 他大学との交流

- ・ 松山大学(2011年11~12月、連携事業)
- ・ 愛知教育大学・日本福祉大学  
(2012年9月)

#### ↓愛知教育大学(2012年9月)



愛媛大学障がい学生支援ボランティア(CBP)

17

### CBPのこれから

#### 課題点

- ・ 支援学生募集の方法
- ・ まだまだ悩まされる学内のバリア
- ・ なかなか集められない障がい学生の声

#### 目標

- ・ 効果的な広報の仕方を
- ・ 物理的/バリアと心理的バリアをなくす
- ・ 障がい学生の意見を活動にも活かす



愛媛大学障がい学生支援ボランティア(CBP)

18

ご清聴ありがとうございました



愛媛大学障がい学生支援ボランティア(CBP)

19



## 第8回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム

### 「愛媛大学の障がい学生支援」

太田琢磨氏（愛媛大学 教育学生支援部 学生支援課 バリアフリー推進室）

### 愛媛大学の障がい学生支援

愛媛大学 教育学生支援部 学生支援課 バリアフリー推進室  
太田琢磨



### 愛媛大学の支援の特色

1. 学生中心の大学作り
2. コミュニケーション
3. エンパワメント支援



2

### 1. 学生中心の大学作り

- 支援学生養成講座(CBPの学生が担当)
  - ノートテイク・パソコンノートテイク・手話
  - 肢体不自由学生講義支援・生活支援
  - その他講座
- コーディネーターの役割
  - 障がい学生対応・支援学生調整及び対応
  - CBPの活動のバックアップ
  - 他部署との連携作り



3

### 2. コミュニケーション

- 話しやすい環境作り
  - 自由なレイアウト
  - 可動式機の導入
- 様々な連絡手段
  - 電子メール
  - 文字チャット(Google Talk)
  - ビデオ通話(Google hangout)



4

### 3. エンパワメント支援

- 当事者が自分の障がいを様々な角度から捉え、自分の持つ潜在的ニーズを把握できるようになること
- 潜在的ニーズを理解し今必要な支援を他者に訴えていくコミュニケーション能力を身につけること
- 同じ悩みや課題を持つグループの中で互いが影響を与え合いながら成長していくようになること
- 社会に出てから遭遇する様々な障壁を乗り越え、自ら行動を起こす実践力を身につけること



5

### エンパワメントの3つの段階とは

1. 自己変革
  - 当事者が自分の潜在的ニーズを発見する段階
2. 集団変革
  - 同じニーズを持つグループの力を強めていく段階
3. 社会変革
  - 社会に対してニーズを明らかにし、理解を求めていく段階



6

## 聴覚障がい学生ミーティング

- 支援活動
  - 支援学生を育てるためには
  - 支援を充実させるためには
- 企画作り
  - 企画作りの方法・調整方法を学ぶ
- 社会に出るために
  - メールの書き方の学習
  - 様々なマナーについて学ぶ



## コーディネーターの専門性

- 解決への道を作るのはコーディネーターではなく、障がい学生自身である
- 答えを与えるのではなく、当事者が持つ潜在的ニーズを当事者自身が受け入れ、その後どうするべきかを考えていくプロセス作りを行う
- 短期目標だけではなく、学生の入学から卒業、そして社会に出た後を踏まえた長期的目標を立て、支援を行う
- 自らの力で様々な障がいを乗り越えていく力と思考能力を身につけられるように支援をする





### 【分科会2】

#### 「実践！職場でのエンパワメント」

司 会： 大杉 豊氏（筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター准教授）

アドバイザー： 鈴木 英司氏（トランスコスモス株式会社 ノーマライゼーション推進部）

森崎 めぐみ氏（聴覚障害当事者（大手企業会社員：一般事務職））

石原 保志氏（筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター長）

#### 分科会の柱

- ① 職場でのコミュニケーションの重要性について考える。
- ② 職場で聴覚障害者が遭遇する困難場面を疑似体験し、イメージの共有を図る。
- ③ 困難場面で聴覚障害者が取るべき行動と、その方法を具体的に意見交換する。
- ④ 聴覚障害学生が大学時代に身につけておくべき知識と技術について議論する。
- ⑤ 大学におけるエンパワメント指導の取り組み方を考える。

#### 企画趣旨

職場でコミュニケーションが通じないことに起因する困難場面に遭遇したときに「その場しのぎ」的に解決できたとしても、主体性や社会性など本質的な問題は残るのではないだろうか。この分科会は、2011年に実施したモデル事業「聴覚障害学生エンパワメント研修会」で開発したプログラムより「就職に備える：職場での困難」を取り上げ、上記に設定した柱に沿ってロールプレイとディスカッションを中心に構成する。そして、学生の皆さんが就職に備えて今のうちに身につけておきたい知識と技術がどんなものであるか、大学で支援に関わる部署が担える役割はどんなものがあるか、「エンパワメント」をキーワードに展開する。

#### スケジュール

|             |               |
|-------------|---------------|
| 9:30-9:40   | 趣旨説明、アドバイザー紹介 |
| 9:40-10:20  | ロールプレイ(40分)   |
| 10:20-10:30 | 休憩            |
| 10:30-11:30 | ディスカッション(60分) |

## 講師紹介

**鈴木 英司 氏**

**（トランスコスモス株式会社**

**ノーマライゼーション推進部 障がい者雇用推進課長）**

◆障害者雇用支援経験年数

10 年

◆その他経歴

トランスコスモスに新卒入社後、プログラマー、SE としてシステム開発に携わる。

その後、研修課長として、社内階層別研修の企画、運営に携わり、併せて新卒採用の面接官を担当。

障がい者雇用支援との関わりは、全社の障がい者雇用 に特化した部署の立ち上げ担当となってから始まり、障がい者の採用から職場環境の整備、社員啓蒙活動などを推進し、現在に至る。特例子会社の設立（平成 17 年）も担当した。

◆障害者雇用支援者としてのコメント

弊社は、障がいのある社員のうち、約 6 割が聴覚に障がいのある社員です。

日々、職場で聴覚に障がいのある社員と接するなかで、今回、学生の皆さんに何かお役に立てる情報提供ができれば幸いです。

◆企画に向けての一言

学生の皆さんがロールプレイを体験されたあと、どんなディスカッションになるか楽しみ（ワクワク、ドキドキ）です。



### 森崎 めぐみ氏（聴覚障害当事者（大手企業会社員：一般事務職））

職務経験年数：社会人8年目（人事・企画・経理・給与・厚生・労務・健康管理・システムプログラム・社会保険・労働保険・チームリーダー等）

その他経歴：臨床心理学専攻大学卒業

社団法人 日本産業カウンセラー協会認定 産業カウンセラー

社団法人 日本アロマ環境協会認定 アロマセラピーインストラクター、アロマセラピスト

国際クレイセラピー協会 認定ICAクレイセラピスト 等

NPO法人土曜クラブ ボランティアスタッフ

「聞こえない子を持つパパとその家族のための手話講座」講師

全国早期支援研究協議会

「パパと一緒にハッピーサイン〜手話で子育て〜」執筆

「わかる！できる！おやこ手話じてん」編集協力 等

聴覚障害当事者としてのコメント・企画に向けての一言：

会社員8年目となり、中堅という立場になりましたが、未だに模索しながらの毎日です。聞こえない人にとって働きやすい環境とは？聞こえないという障害を同僚に、上司にどう理解してもらうか？正しい仕事の対応の仕方をどう習得してもらうか？様々な人がいるだけに毎日、良い意味で戦いの連続です。もちろん失敗もたくさんあります。だからこそ、得たものがある。失敗こそ、成長への糧と思います。そんな気持ちを忘れずに日々チャレンジしながら進んでいます。また、「種を蒔いて、水やりをする。それを繰り返していたらいつかは芽が出て、実が実るはず」そんな可能性を信じて、地道にコツコツと、そして楽しみながらまたまわりへの感謝の気持ちを忘れずに魅力あふれる社会人としていられるように努力を継続しようと心がけて仕事をしています。困難にぶつかった時に、完璧な答えというのはなかなか難しく、私が思う大事なことは「自分」をしっかり持つこと。そして、それをまわりへ発信していく力だと思っています。まだまだ8年目、ここまでくれば良しというものはなく、職場の数、人間の数だけ、困難や、問題はあと思っています。自分が予想だにしていない困難や機会もこれからあると思います。そんな時にどうしたらいいのか？どこに心の場所を持つべきか？まだまだ未熟者な私ではありますが、みなさんと一緒に、短い時間ではありますが、企画の中で一緒に「自分も相手も会社もHAPPY」な方法を提案しあいながら、考えていけたらと思います。よろしくお願い致します。

### 石原 保志氏（筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター長）

専門は聴覚障害教育学。前身の筑波技術短期大学時代から約20年あまり聴覚障害学生の就職支援を担当し、多くの卒業生を社会に送り出している。卒業生へのフォローアップのみならず、聴覚障害者を受け入れた企業からの相談にも数多く対応している。

本企画では、今までの経験をふまえてこれから社会に出て行く皆さんへのアドバイスや、高等教育機関での聴覚障害学生に対するキャリア支援のヒント、企業が求める人材についてなど、アドバイスをしたい。

＜学生へのアドバイス＞

自分の障害を客観的に理解したり、或いはエンパワメントを高めていくためには、学生時代に学内のみならず、学外の方との交流やアルバイトなど、いろいろな経験をするをお勧めします。重要なのは、同じ障害を持っている同世代の人達や経験豊富な先輩方などと交流し、自ら情報を得るために動いていくことだと思っています。この経験が、社会に出てからのあなた自身を成長させることにつながるでしょう。

## 【分科会 3】

### 「見て学ぼう！みんなの書き方・打ち方」

企画コーディネーター・司会：河野純大氏（筑波技術大学産業技術学部 准教授）

アドバイザー：岡田孝和氏（日本社会事業大学 聴覚障害者大学教育支援プロジェクト  
プロジェクトマネージャー）

越智英恵氏（愛媛県立松山聾学校 教員）

有海順子氏（筑波大学 障害学生支援室）

二宮雅美氏（愛媛大学 バリアフリー推進室）

- 分科会の柱**
- ①大学で行われている手書きノートテイク・パソコンノートテイクを体験する。
  - ②さまざまな大学の事例紹介を通して書き方・打ち方の工夫を学ぶ。
  - ③アドバイザーからのコメントや議論を通して各大学での実践へ繋げる。

#### 企画趣旨

近年多くの大学で情報保障の必要性が認識され、手書きノートテイクやパソコンノートテイクなどが実施される大学が増加している。それぞれの大学では障害学生支援室などが中心となり、聴覚障害学生の在籍学部や人数、確保できる支援学生数などを考慮して情報保障手段を選択し、養成講座の実施や日々の運用、技術向上のための情報交換会などに取り組んでいるが、聴覚障害学生に伝えることのできる情報の量や内容・質に関する悩みを抱えていることが多い。

そこで本分科会では、手書きノートテイク・パソコンノートテイクで保障される情報の量や質の向上を目指して、まず実際の大学の授業を題材として参加者が情報保障を体験し、お互いの工夫や普段の実践事例を紹介し合う。実践事例の紹介では、事前に同じ題材を用いて手書きノートテイク・パソコンノートテイクを行った映像と共に、そこで行われている工夫について複数の大学での取り組みも紹介する。

そして大学在学時に情報保障の利用経験・実施経験が豊富なアドバイザーからの利用学生のニーズやスキルアップの方法などに関するコメントや参加者どうしの意見交換を通して、それぞれの現場で明日からの支援で参考となる実践上の工夫を持ち帰ることを目的とする。

#### 【分科会の流れ】

- 9:30 主旨説明・アドバイザー紹介
- 9:40 手書きノートテイク・パソコンノートテイク体験(1回目)
- 9:50 複数の大学からの実践事例の紹介・意見交換・アドバイザーからのコメント
- 11:10 手書きノートテイク・パソコンノートテイク体験(2回目)
- 11:20 まとめ



## 第8回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム

### アドバイザー紹介

おかだのりかず

岡田孝和氏（日本社会事業大学 聴覚障害者大学教育支援プロジェクト  
プロジェクトマネージャー）

初めまして、岡田と申します。支援は大学院修士1年から利用し始めました。今でも初めてノートテイクをつけたときの衝撃は覚えています。手書きノートテイクを半年、手話がわかるようになってからは手話通訳を活用して勉強してきました。留学中も様々な種類の支援を活用し、現在は仕事上PCテイクを利用することもあります。

スキルアップのために必要なことは、字の見やすさや、まとまりなどの表面に現れる部分だけに着目するのではなく、利用者がどのような意図を持ってこの支援を使いたいのか、授業に臨んでいるのか、根本的なところを理解し、利用者とするいは教員も交えて「チーム」になって動くことではないでしょうか。

また聴覚障害学生は、支援者のスキルアップや支援の調整に積極的に関わって欲しいと思います。なぜなら、それは、自分の学ぶ権利を守っていくことと同義だと思うからです。支援者任せでは本来受け取れる量と質で情報を得ることは難しいのではないかと思いますし、支援者のモチベーションも続かないでしょう。結果的に、自分が損をすることにもなりかねません。社会に出たときに必要な知識を身につけられるよう学ぶのは自分の責任です。そのために、使えるサービスを自分流にアレンジし支援者を育てる力を身につけてほしいと思います。

おちはなえ

越智英恵氏（愛媛県立松山聾学校 教員）

皆さん、初めまして。在学中は、基本的に講義には手書きノートテイク、ディスカッションやグループ活動ではクラスメートに手話通訳をお願いすることもありました。情報保障には100%の情報を伝えて欲しいのが本音ですが、限界があるので、重要なことを漏らさないで伝えて欲しいと思っていました。テイカーは学部や学年が様々で、各講義の内容の専門の人、専門外の人もいて、聞き慣れない専門用語でつまずいたり、先生によっては書きにくかったりする様子が見られた時もありました。テイカーは聞きながら書いていくので、頭をフルに使っていて大変だと感じていました。スキルアップには、テイカーと聴覚障害学生のそれぞれの意見を代表者会に出して、まとめたものが聴覚障害学生の会議のときに配布され、改善に向けて意見をまとめて代表者会に出したこともあります。テイカーにはスキルアップ研修で、研修担当者が意見をもとに研修内容を考えているので、他のテイカーの工夫や改善について学ぶこともできました。

大学を卒業して以来、ノートテイクと離れているので、皆さんのアドバイスに役立てられるか分かりませんが、情報保障について一緒に考えたいと思います。また、現在の大学の情報保障の状況についても知りたいので、皆さんからも話を伺えることを楽しみにしています。よろしくお願いします。

ありうみじゅんこ

**有海順子氏（筑波大学 障害学生支援室研究員）**

初めまして。有海順子と申します。今年4月から筑波大学障害学生支援室で、障害のある学生の支援に携わっています。私は大学1年生の時から聴覚障害学生支援に携わり、主にパソコンノートテイクによる支援を行ってきました。支援を行う中で心がけていたことは、聴覚障害学生や同じ支援学生など周りとのコミュニケーションを日頃から取ることです。聴覚障害学生をはじめ、支援に関わる多くの関係者との信頼関係なくしてよりよい支援は生まれないのではないかと思います、コミュニケーションを大切にし、その中で聴覚障害学生のニーズを把握したり、支援学生同士でアドバイスをし合ったりしてきました。

スキルアップについては、タイピング練習や聞きながら打つ練習を独自に行ったり、地域や市内の小中学校での支援に参加して、いろんな支援者の方法を学んだり、多くの聴覚障害児・者との関わりの中で、個々のニーズに合った支援をするための工夫やスキルを身につけたいと努力してきました。個々のニーズに合った支援を行うには、相手のニーズを的確に把握し、そのニーズに対応する柔軟さが必要だと思っています。

今日の分科会で、皆さんとともに「よりよい支援」について考え、互いに成長できることを楽しみにしています。

にのみやまさみ

**二宮雅美氏（愛媛大学 バリアフリー推進室）**

こんにちは。愛媛大学教育学生支援部バリアフリー推進室の二宮雅美です。愛媛大学を卒業して、今年の4月から現在の職場で働いています。主に支援学生のコーディネートを担当しています。私自身も大学2回生のときから手書きノートテイクとパソコンノートテイクの支援活動をしていました。出来るだけ利用学生にとって分かりやすい情報保障をすることを大切にしていました。ノートテイクを見て講義の内容が分かるかどうか聞いたり、改善できることを探してニーズに沿えるよう心がけました。

現在はバリアフリー推進室の室員として、聴覚障がい学生と関わる中で、支援のあり方について考えを深めています。また、新しく活動を始めた支援学生をサポートする中で、私自身もより良い支援について日々学ばせていただいているところです。

本日の分科会では、各大学の特色や、一人一人の工夫について学ぶことを楽しみにしています。皆さんで効果的な情報保障について考え、それぞれの大学で支援活動充実のために生かせることを期待しています。



分科会3

見て学ぼう！  
みんなの書き方・打ち方

1

支援活動の中で

情報量が少ない...

大切な情報は  
伝えられているのか...

他大学の様子が知りたい!!

2

本分科会の内容

- 大学の授業を題材として、  
手書きノートテイク、パソコン  
ノートテイクを体験する。
- 実践事例の紹介を通して  
書き方・打ち方の工夫を学ぶ。

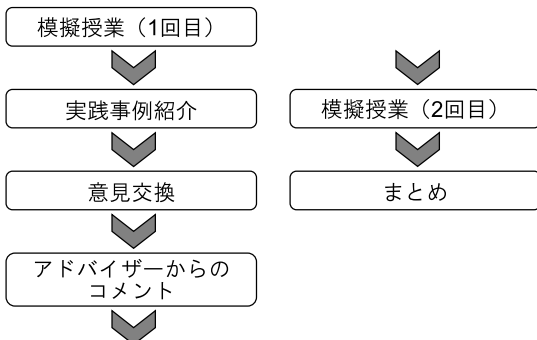
3

本分科会の目的

コメントや議論を通して、  
明日から実践できる  
支援の工夫を持ち帰る。

4

本分科会の流れ



5

模擬授業（1回目）

- 4分程度の模擬授業を  
手書きノートテイク／パソコンノートテイク
- 講義名：哲学
- テーマ：福祉国家の優生学

6

## 模擬授業（1回目）

<概略>

- 優生学とは、悪質の遺伝形質をなくし、優良なものを保存することを研究する学問である。
- 福祉国家であるスウェーデンでは知的障害者同士の結婚を認める一方、1970年代まで優生学を背景に強制的な不妊手術が実施されていた。
- これは、福祉国家が人々の「生の保障」の責務を引き受けることにより、様々な問題が生じることを示す一例である。
- なぜそのような問題が生じてしまうのか。

7

## キーワード

「福祉国家」 「生の偶然性」  
「保障」 「国家」  
「経済的な有用性」

8

## 実践事例紹介

9

## 意見交換

10

## アドバイザーからのコメント

### 聴覚障害学生OB

- ・岡田孝和氏  
（日本社会事業大学 聴覚障害者大学教育支援プロジェクトプロジェクトマネージャー）
- ・越智英恵氏（愛媛県立松山聾学校 教員）

### 支援学生OB

- ・有海順子氏（筑波大学 障害学生支援室研究員）
- ・二宮雅美氏（愛媛大学 バリアフリー推進室）

11

## 模擬授業（2回目）

- ・1回目の模擬授業と同じ内容です。
- ・これまでの事例紹介や、コメント・議論を通して、何に気を配りながらノートテイクをするのか意識しながら、やってみましょう。

12





### まとめ

明日からの支援に向けて...

- 今日、見て学んだことを周囲に伝える。
- 今回知った工夫を取り入れて、支援をする。

- 他の支援学生、聴覚障害学生と話をする。
- 授業が終わるたびに意見を出し合う。

➡ 全体のスキルアップへ

13

## 【分科会4】

### 「解決！コーディネート現場の悩み」

企画コーディネーター・司会：松崎 丈氏（宮城教育大学）

アドバイザー：源田 信子氏（関西学院大学総合支援センター）

柴田可奈恵氏（東洋大学共通教務課）

水野 里香氏（群馬大学障害学生サポートルーム）

村田 淳氏（京都大学障害学生支援室）

#### 分科会の柱

- ① 日々のコーディネート業務上で生じる悩みや問題を取り上げ、様々な視点での判断や解決方法について情報交換を行う。
- ② 大学の規模や支援体制の状況など、様々な条件に応じた解決策について検討し、各大学での支援体制に活かせるようなコーディネート業務のノウハウの整理を行う。

#### 企画趣旨

近年、障害学生支援室等を設置したり、障害学生支援を中心的に担うコーディネーターを配置したりする大学が増えつつある。また、障害学生支援のコーディネート業務を担う担当者（以下コーディネーター）同士が、大学をこえて情報交換したり、研修を受けたりしながら、業務の進め方やコーディネート上の困難への対応方法などを整理できる機会も設けられるようになってきた。しかし、支援業務の中で生じる課題や悩みには、コーディネーターのアイデアや判断で解決していけるようなものから、学内の他部署等と連携し、大学組織の特性に合わせて対応することが求められるものまで、様々な問題が含まれている。また、コーディネーターは、大学によって学内での位置付けや支援組織、専門性や経験などが多岐に渡っており、情報交換や交流で他大学から得たノウハウを持ち帰って支援実践に生かすには、一工夫が必要であるというのが実情である。

こうした状況を受け、本分科会では、多くの大学でコーディネーターが直面しているであろうトラブルや課題を取り上げ、その対処法について幅広く意見・情報交換を行うとともに、様々な立場で支援業務に当たっている現役のコーディネーター・支援担当職員をアドバイザーに迎え、効果的であった解決策とその要因を、大学の支援組織のあり方と関連付けながら丁寧に探っていく。また、聴覚障害学生にとって本来必要な支援のあり方について、教育的な視点からも顧みること、各大学の状況に応じた支援の取り組み方について、検討する。

#### 【分科会の流れ】

9:30 趣旨説明

9:45 アドバイザー紹介・事例紹介

10:05 コーディネート上の悩みへの対処法についてのディスカッション

11:15 まとめ



## ＜アドバイザー紹介＞

源田 信子氏

関西学院大学 総合支援センターキャンパス自立支援室  
障害学生修学支援コーディネーター

### 【聴覚障害学生への支援担当年数】

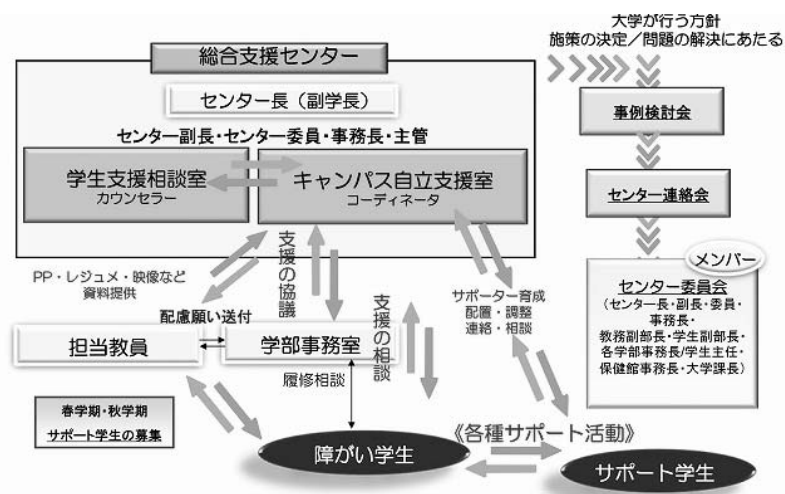
コーディネーター補佐として 4 年 コーディネーターとしては 2 年半

### 【支援担当業務についたきっかけ】

府政福祉分野従事者の家族の中で生活していたことも大きく影響し、設立していた医療機関も備えた知的障害入所施設へ、経理業務で出入りした事がきっかけとなり、より障害者支援に遣り甲斐を感じていました。関西学院大学で障害学生修学支援の課が立ち上がった事が転機となり、障害学生修学支援に 2006 年から関わらせて頂いています。

### 【大学の支援組織】

- ・スタッフ数：6 名
- 管理職 1 名
- コーディネーター 2 名
- 派遣職員 1 名
- アルバイト職員 2 名



### 【大学の支援の理念や特色】

関西学院大学は建学理念とするキリスト教主義に基づき、“Mastery for Service（奉仕のための練達）”をスクールモットーに、知性を、そして自らが持つすべての豊かさを、隣人のために用いることを強調し、共に学ぶ学生同士、支援を行っています。

### 【支援担当者としての最近の悩み・企画に向けて一言】

サポート学生の確保やゼミ形式での聴覚障害サポートのあり方などに課題を抱えながら、いろいろ悩み取り組んでいます。この分科会で皆様とも悩み等を共有し、解決策を一緒に考えさせて頂き、私も共に学ばせて頂きたいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。

柴田 可奈恵氏

東洋大学 教務部共通教務課 職員

【聴覚障害学生への支援担当年数】

6 年

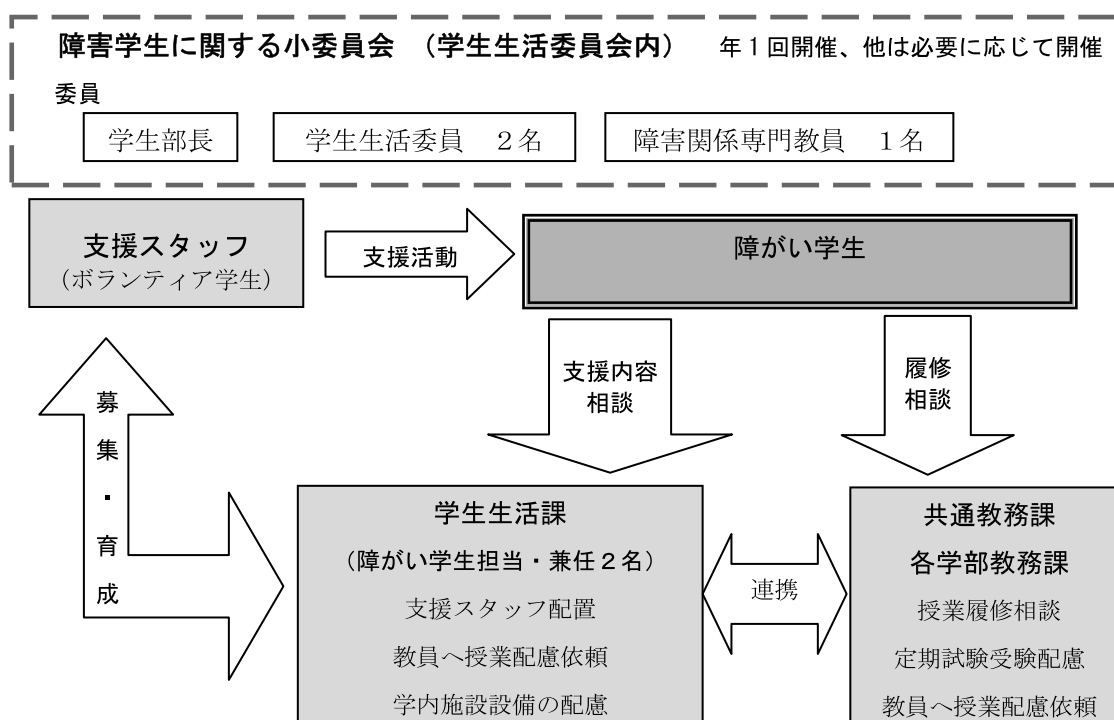
【支援担当業務についたきっかけ】

平成 15 年 7 月～平成 21 年 3 月まで学生部学生生活課に所属、平成 18 年 7 月頃～同部署で障がい学生支援担当を兼任しました。その後、教務部経済学部教務課を経て、平成 22 年 6 月に新たに作られた組織である教務部共通教務課（文・経済・経営・法・社会学部の 5 学部学生の教務事務を取り扱う）に配属となり、教務の立場から障がい学生支援プロジェクトを立ち上げ、学生部との連携で障がい学生支援の強化を図っています。

【障がい学生支援体制】

本学では、学生部学生生活課が障がい学生支援の主管部署となっています。

学生部には運営組織「学生生活委員会（各学部代表教員で組織されている）」があり、その中の小委員会の一つとして「障害学生に関する小委員会」が設置されています。



【シンポジウムに参加するにあたって】

本学の障がい学生支援体制はまだこれからというところです。今、苦労されているみなさんと分科会で勉強させていただくことで、本学らしい支援体制づくりを考えていければと思っています。よろしくお願いいたします。



## 第8回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム

水野 里香氏

群馬大学 障害学生サポートルーム 専門支援者

### 【聴覚障害学生への支援担当年数】

1年4ヶ月

### 【支援担当業務についたきっかけ】

それまで手話通訳者として地域等で従事してきましたが、高等教育機関での情報保障と支援からその課題を知ること、より高く専門的なニーズに対応できる支援者になりたいと考えたことがきっかけです。

### 【大学の支援組織】

※障害学生支援室として運営している現場が、障害学生サポートルーム。

#### ・スタッフ数

室長 1名

副室長 1名

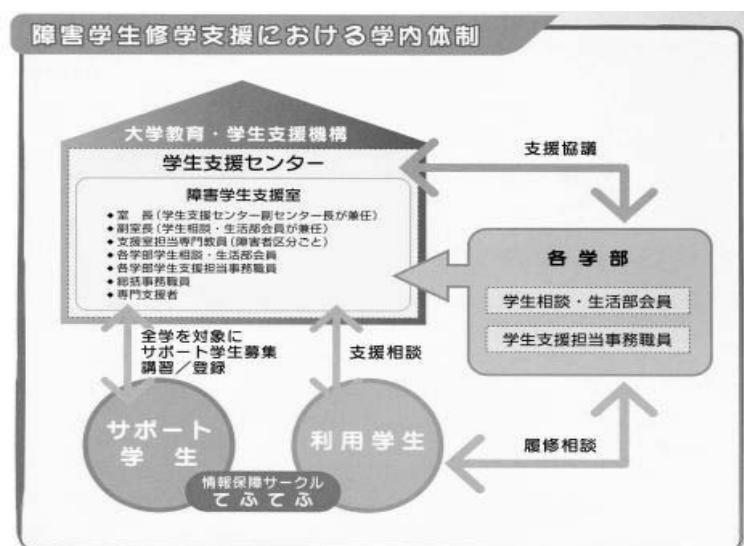
各担当専門教員 4名

各学部学科 学生相談・生活部会員 6名

専門支援者

(障害学生サポートルーム職員) 5名

事務職員 10名



(群馬大学障害学生サポートルーム ウェブサイトより引用)

### 【大学の支援の理念や特色】

障害学生支援室の構成員である担当専門教員は、室長をはじめ専門の知識を持った室員が障害学生との相談や学校側への働きかけなどを行い、学びの環境を整えます。構成員だけではなく、障害学生をサポートしてくれるサポート学生、そして利用学生と関係を築きながら、もちろん各学部とも連携しつつ支援を実施しています。

### 【支援担当者としての最近の悩み・企画に向けて一言】

障害学生支援の経験は浅い立場ではありますが、障害学生全般に対する支援者であり情報保障業務の従事者でもあることでの実践と、当サポートルームのこれまでの積み上げを手札に、みなさまと一緒に考えることができればと思います。

村田 淳氏

京都大学 障害学生支援室 障害学生支援コーディネーター

【聴覚障害学生支援の支援担当年数】

5 年

【支援担当業務についたきっかけ】

京都大学重点アクションプラン 2006～2009 の学生支援事業「身体障害学生支援強化事業」により、障害学生支援を専任とする職員として 2007 年度に現職に就いています。これまで、障害学生支援室（当時：身体障害学生相談室）の立ち上げと障害学生支援体制の構築に従事してきました。また、支援現場で基盤となる修学支援を構築・運営するとともに、学内外で障害学生支援に関連する仕事に携わっています。

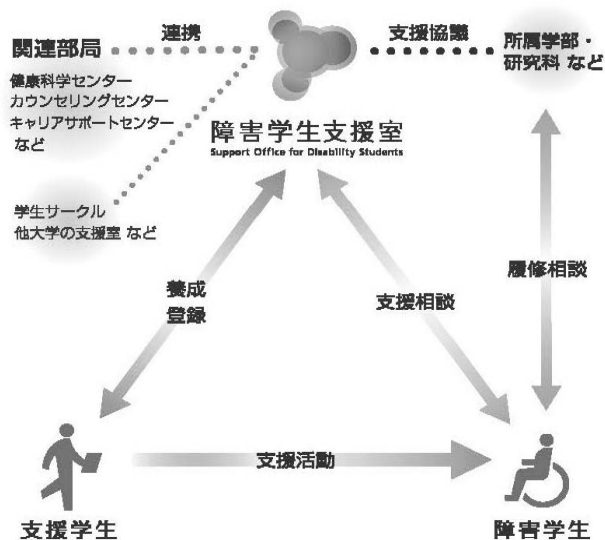
【大学の支援組織】

・ 支援室のスタッフ

支援室長 1 名（兼任）

支援室員 3 名

（コーディネーター、アシスタント、事務職員）



京都大学障害学生支援室パンフレットより引用


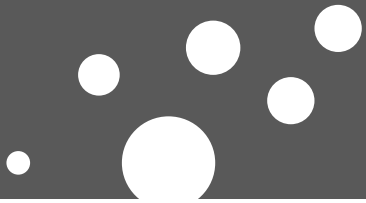
【支援室の理念・目的】

障害の有無に関わらず学修・研究できる大学環境を目指しています。学生の主体性を重視するとともに、学部・研究科や関連する学内外のリソースと連携しながら、修学支援を実施しています。また、卒業後の社会を見据えて、支援に関わる学生（障害学生、学生サポーター）の人間的な成長を意識しながら、日々の相談・コーディネートを行っています。

【企画に向けてのコメント】

本学の障害学生支援体制もまだまだ十分なものとは言えませんが、現状をお話することで少しでもご参考になるのであれば幸いです。シンポジウムへの参加を通じて、私も学ばせていただきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。





# 全体会

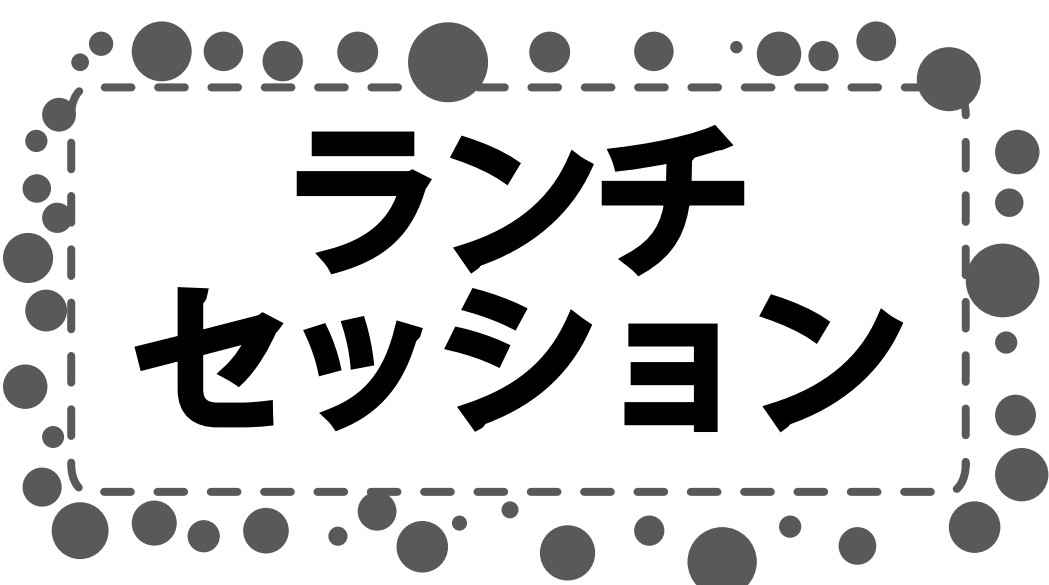
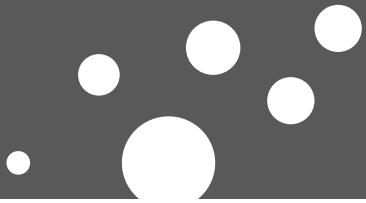




特別講演「高等教育における障害学生への合理的配慮について」

講師：松尾 泰樹氏（文部科学省高等教育局学生・留学生課 課長）

[illegible]



# ランチ セッション



## 第8回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム

### ✿ ランチセッション ✿

○相談コーナー トーク＆トーク

○ミニセミナー

○聴覚障害学生支援に関する実践事例コンテスト 2012

○聴覚障害学生支援に関する機器展示

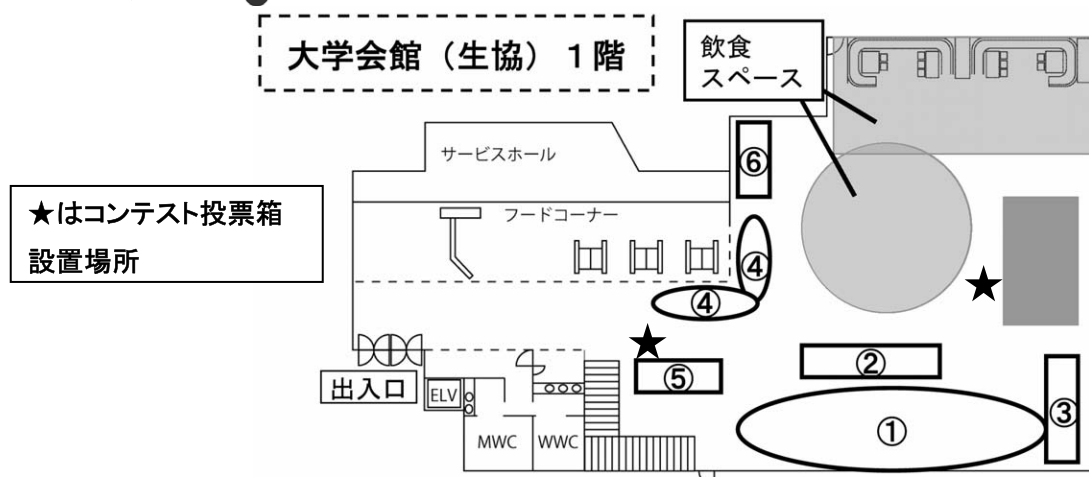
○松山地域活動紹介

愛媛大学教育学部特別支援教育講座「聴覚言語障害コース」／

愛媛大学 スチューデント・キャンパス・ボランティア（SCV）／松山大学／

NPO モコクラブ

### ✿ 会場図 ✿



#### <大学会館（生協）1階>

①聴覚障害学生支援に関する実践事例コンテスト  
2012

②PEPNet-Japan 連携大学・機関活動紹介

③松山地域活動紹介

④聴覚障害学生支援に関する機器展示

⑤PEPNet-Japan 活動紹介

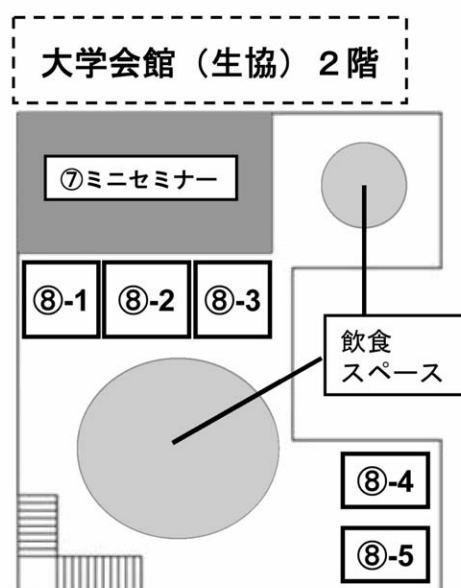
⑥筑波技術大学活動紹介

#### <大学会館（生協）2階>

⑦ミニセミナー

⑧相談コーナー トーク＆トーク

テーマ：学生生活／就職／情報保障／コーディネート  
業務／大学組織



## ✿ 相談コーナー トーク&トーク ✿

相談コーナー トーク&トークは、テーマごとに講師と参加者のみなさんが自由に相談できるスペースとなっています。講師は各分科会の登壇者や、PEPNet-Japan 運営委員など、聴覚障害学生支援の専門家の方々をお願いをしています。日頃のちょっとした悩みや教えてほしいことなど、分科会では時間がなくて聞けなかった疑問もこの場で気軽にトークしてみてください。 ※時間帯により、対応する講師が代わります。

### ⑧-1 学生生活に関すること

聴覚障害学生を対象としたスペースです。大学での勉強方法に戸惑っている・ゼミでのコミュニケーション方法に悩んでいるなど、幅広く話をしましょう。

分科会1の内容への質問も受け付けます。

講師：原田美藤氏（分科会1講師）／天津祐子氏（分科会1講師）／池田愛氏（分科会1講師）／植山廣紀氏（分科会1講師）／相川祥穂氏（分科会1講師）／宮城教育大学 しょうがい学生支援室 しょうがい学生支援コーディネーター／など

### ⑧-2 就職に関すること

聴覚障害学生を対象としたスペースです。分科会2の講師を中心に、就職に向けた準備で必要なことや、会社でのコミュニケーションの工夫など、みなさんで話をしてみませんか。

講師：大杉豊氏（分科会2講師）／石原保志氏（分科会2講師）／鈴木英司氏（分科会2講師）／森崎めぐみ氏（分科会2講師）／新國三千代先生（運営委員）／など

### ⑧-3 情報保障に関すること

支援学生を対象としたスペースです。支援方法やスキルアップ練習など、他大学の学生と情報交換ができます。分科会3の講師の方々から、アドバイスやアイデアを貰えると思いますよ。

講師：岡田孝和氏（分科会3講師）／有海順子氏（分科会3講師）／越智英恵氏（分科会3講師）／高橋明美氏（運営委員）／中野聡子氏（連携大学）／など



### ⑧-4 コーディネート業務に関すること

教職員を対象としたスペースです。分科会4の講師の方々に質問をしたり、担当者同士の情報交換、学生の養成方法に関する意見交換など、気軽にこの場をご活用ください。

講師：源田信子氏（分科会4講師）／村田淳氏（分科会4講師）／水野里香氏（分科会4講師）／柴田可奈恵氏（分科会4講師）／土橋恵美子氏（連携大学）／田中啓行氏（事業協力者）／など

### ⑧-5 大学組織に関すること

教職員を対象としたスペースです。学内の支援体制構築へのアドバイスや、全国的な状況など、じっくりと話をしてみませんか。

講師：青野透氏（運営委員）／金澤貴之氏（運営委員）／倉谷慶子氏（運営委員）／など

## ✿ ミニセミナー ✿

ミニセミナーでは、聴覚障害学生支援の基本的な知識や現状について、聴覚障害学生支援を始められたばかりの方にもわかりやすく講演します。

### スケジュール

| 時間          | テーマ                 |
|-------------|---------------------|
| 13:00～13:30 | PEPNet-Japan 活動紹介   |
| 13:45～14:15 | 聴覚障害学生支援における合理的配慮とは |
| 14:30～15:00 | 四国地区大学紹介            |

### PEPNet-Japan 活動紹介(13:00～13:30)

日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PEPNet-Japan）は、聴覚障害学生支援に関して先進的な取り組みを行う21の連携大学・機関によって組織、運営されています。本セミナーでは、日本の聴覚障害学生支援について概説し、これを支えるPEPNet-Japanの取り組みを紹介します。

講師：白澤麻弓氏（筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター／PEPNet-Japan 事務局長）

### 聴覚障害学生支援における合理的配慮とは (13:45～14:15)

障害者権利条約の批准に向けて国内で議論されている「合理的配慮」。本セミナーでは、全体会Ⅰ「高等教育における障害学生への合理的配慮について」の講演を受けて、大学での聴覚障害学生支援にどのような影響があるのか、またどのような対応が求められるのかを説明します。

講師：金澤貴之氏（群馬大学 教育学部／PEPNet-Japan 運営委員）

### 四国地区大学紹介（14:30～15:00）

四国地区にある松山大学、四国学院大学、愛媛大学などの大学では、聴覚障害学生を積極的に受け入れ、支援を行っています。四国地区大学紹介では、このうち松山大学、四国学院大学の支援についてご紹介します。

講師：松山大学・四国学院大学



## 第8回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム



### 大学会館(生協)1階 12:30~14:30 (投票 12:30 開始~14:30 締切)

本シンポジウムでは、全国の大学が日頃実践している支援の取り組みを発表し、参加者の投票によって優れた取り組みを表彰するコンテスト企画を設けております。会場には、教職員・学生・支援者など15団体の応募者が力を入れて作成したポスター16点が並んでいます。また、PR・啓発グッズ部門には3団体からの応募があり、マニュアルなどを展示しております。

内容をご覧ください、「この取り組みは参考になる!」と思った発表に投票してください。

#### 投票方法

★みなさんの名札の中に投票用紙(2枚)が入っています。会場でポスターをご覧ください、これは良い!と思った発表2つに投票して下さい。投票箱は以下の2箇所に設置しています。

- ①生協1階 階段付近
- ②生協1階 ステージ付近

★本コンテストでは、組織の大きさや完成度ではなく、次のような観点から投票をお願いします。

- ・こんな取り組みを実現したかった!
- ・ぜひ真似したいアイデアだ!
- ・今後の発展が楽しみな内容だ!
- ・日頃の努力が伝わってくる!

★発表いただいた各団体には、以下の賞を用意しています。

- ・PEPNet-Japan 賞
- ・準 PEPNet-Japan 賞
- ・アイデア賞
- ・グッドプラクティス賞
- ・PR・啓発グッズ部門賞
- ・奨励賞

参考になる  
取り組みに  
投票

投票箱

投票用紙は1人2枚  
名札の中に  
入っています



※会場内の手話通訳者は  
青色の腕章を付けています。

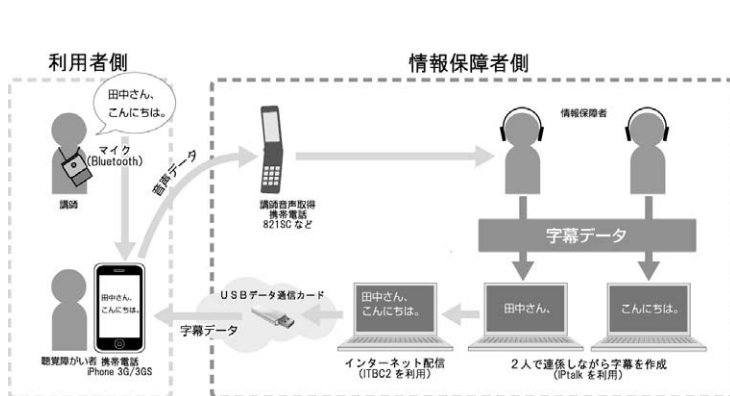
#### 参加団体

**パネル発表部門** 松山大学 障がい学生支援団体 POP/愛媛大学 バリアフリー推進室/愛媛大学 CBP: Campus Barrier free Promoters (障がい学生支援ボランティア)/群馬大学 障害学生サポートルーム/群馬大学 情報保障サークル「てふてふ」/宮城教育大学 しょうがい学生支援室 聴覚しょうがい部会 学生運営スタッフ/宮城教育大学 聴覚障害学生/熊本学園大学 しょうがい学生支援室 /日本福祉大学 障害学生支援センター/日本社会事業大学/大阪教育大学/千葉大学 ノートテイク会/愛知教育大学 聴覚障害学生支援団体てくてく/同志社大学 障がい学生支援室/東京大学 バリアフリー支援室

**PR・啓発グッズ部門** 愛媛大学 CBP: Campus Barrier free Promoters (障がい学生支援ボランティア)/宮城教育大学 しょうがい学生支援室/東北福祉大学 障がい学生支援室

# 聴覚障害学生支援に関する機器展示

## 携帯電話を活用した『モバイル型遠隔情報保障システム』



『モバイル型遠隔情報保障システム』は、携帯電話を通じて話者の音声を遠隔地にいる要約筆記者に送信し、そこで作成された字幕データを携帯電話で受信できるシステムです。教室や体育館などLAN環境のない場所や、パソコンを持ち込むことが難しい環境下でも要約筆記を利用できるようになります。

講師音声を情報保障者に伝えること、そして作成された文字情報を表示することの2つの役割を、1台の携帯電話 (iPhone 3G/4) で担っていることが一つのポイントです。

また、パソコン要約筆記のみならず、音声認識技術との連携も可能です。

現在PEPNet-Japanで取り組んでいる「遠隔情報保障事業」の中でも、本システムを学内の情報保障支援に活用している大学があります。「支援者が教室に移動する必要がない」「離れたキャンパス間でも支援ができる」「学外実習でも活用できる」など、新たな支援技術として事例構築を重ねています。

参考ホームページ: <http://www.a.tsukuba-tech.ac.jp/ce/mobile1/index.html>

筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター准教授 三好茂樹  
(お問い合わせはPEPNet-Japan事務局まで)



## 聴覚障害者の講義受講支援のためのプロジェクトを用いた情報保障の検討



プロジェクタを用いた情報保障



本システムの活用例

聴覚障害をもつ学生が高等教育機関で講義を受ける場面では、聴覚情報を視覚情報へ変換する手話や字幕、ノートテイクなどの情報保障の利用が多くなります。しかし、聴覚障害者にとっては、教員や資料と、聴覚情報を手話や字幕へ変換した情報保障とをあわせて見ることになるため、視覚と視線移動の負荷がより大きくなってしまいます。また、聴覚障害者が情報保障から目を離すことは講義内容の一部を聞き逃すことを意味し、講義理解の妨げとなることもあります。

これらの課題を解決するために、これまでにノートパソコンや携帯機器などを用いて聴覚障害者の手元で情報保障を提供する方法についての研究を進めています。本研究では、聴覚障害をもつ学生が手元に視線を向けていても聴覚情報が十分に保障されるように、プロジェクタで机に映像を提示することによって情報保障を提供する方法について検討しています。机の上に、字幕 (要約筆記・リアルタイム字幕等)、手話通訳、教員、提示資料や板書などの映像を提示することによって、聴覚障害をもつ学生に対して受講支援を行う取り組みについて紹介します。

筑波技術大学 産業技術学部産業情報学科准教授 若月大輔  
(お問い合わせは [waka@tsukuba-tech.ac.jp](mailto:waka@tsukuba-tech.ac.jp) まで)







## 第8回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム



SZKIT

視覚的に操作が見える!

### 聴覚障害学生向けソフトウェア操作教示ツール

Support Software which Instructs Computer Operation for Hearing Impaired Students:SZKIT

聴覚障害学生向けソフトウェア操作教示ツール:SZKITは、聴覚障害学生の個人差に適応し、情報取得能力を向上させる手法及びソフトウェアの開発を目的として作成しました。

聴覚に障害を持つ学生に対しては、従来から様々な情報補償の手段が採られていますが、演習に携わる教員をリアルタイムに支援するものではなく、また、学生個別の指導に特化した手段ではありません。そこで聴覚障害学生を対象とした授業で利用するため、演習に携わる教員のニーズをもとにコンピュータ操作を教示する教育支援ツール、SZKIT(SynchroniZed Key points Instrution Tool)を開発しました。

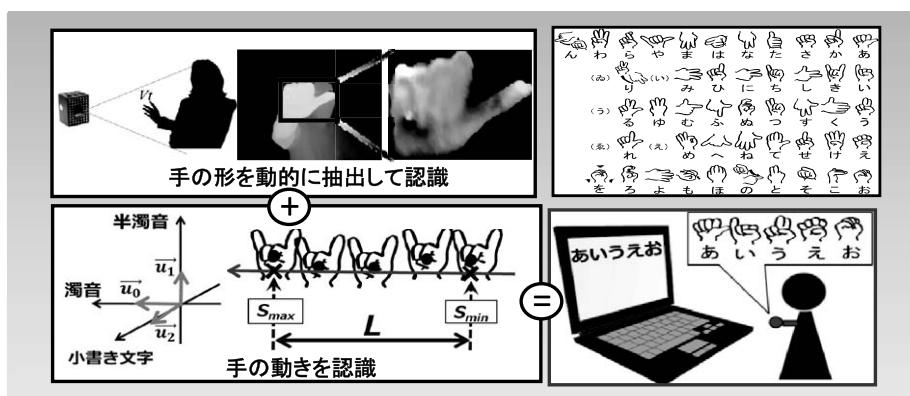


SZKITは、オペレーションに同期した情報を聴覚障害学生に対して提供するもので、マウスカーソル脇に説明文およびクリック状態・特殊キーの押下状態を表示し、複雑なマウス操作が必要なデザイン系ソフトウェアの使い方を教える際に役立てることができます。

お問い合わせ:  
産業技術学部総合デザイン学科講師 鈴木拓弥  
suzukit@a.tsukuba-tech.ac.jp

国立大学法人  
**筑波技術大学**

## 距離画像を用いた動きのある指文字の非接触認識 ～指文字入力インタフェースの実現をめざして～



近年、音声認識技術の発達によって、音声入力の可能な端末が普及してきました。しかし、聴覚障害者のなかには明瞭な発音が困難な人もいるため、音声入力機能の活用は難しいのが現状です。そこで、我々は聴覚障害者が日常的に用いている指文字に着目し、指文字による入力インタフェースの実現をめざして研究を行なっています。これまでの研究では手型が静止した指文字をコンピュータに認識させる研究がほとんどでしたが、本研究では動きのある手型も含めたすべての指文字を認識する方法について検討を重ねています。

まず、赤外線飛行時間を利用して距離画像を撮影できるセンサを使用して、手の部分をリアルタイムに取り出し、手型を認識します。次に、手がどのように動いているのか認識します。これら2つの認識結果を組み合わせることで全ての指文字が認識できるかどうかを検討しています。

筑波技術大学大学院 技術科学研究科 産業技術学専攻 2年 三宅太一

(お問い合わせは a113103@a.tsukuba-tech.ac.jp まで)

## Googleクラウドサービスを活用した支援者のコーディネート・システム 株式会社アストジェイ

利用学生からの情報保障の要望のあった時間帯に、ノートテイクを行う学生テイクや手話通訳者などの支援者を配置する「コーディネート業務」をサポートするシステムをご紹介します。支援者への打診・依頼や回答の確認作業のシステム化、およびコーディネート状況の可視化によって、コーディネート業務の効率化に貢献します。Google クラウドサービスを活用することで、新たなIT投資をすることなく、高機能なWebアプリケーションをご利用いただけます。支援者の側でも、携帯電話・スマートフォンで打診・依頼状況を確認・回答することができ、簡単にご利用いただけます。また、実施記録がデータとして残るので、支援実績の管理ツールとしてもご利用いただけます。



参考ホームページ：  
[http://www.astweb.co.jp/development/google\\_app\\_engine/](http://www.astweb.co.jp/development/google_app_engine/)

問い合わせ先：株式会社アストジェイ 田島 淳 (tajima@astweb.co.jp)

群馬大学障害学生サポートルーム (a\_dis-support@ml.gunma-u.ac.jp)

## 聴覚障害者向け 日常生活用具等の紹介

無線連動式火災報知器



振動式目覚まし時計



振動式デジタル腕時計



ブザーライト 補助警報装置



聴覚障害者の生活を支える便利なグッズは色々あります。

今回は株式会社 自立コムならびに、トーシン・松山補聴器センターの協力により、これらの機器の展示・体験を行います。

【問い合わせ先】  
株式会社 自立コム  
<http://www.jiritsu.com/>

トーシン・松山補聴器センター  
<http://www.toshin-ha.co.jp/>

※会場内での販売は行いませんので、ご注意ください。





# 参考資料

# PEPNet-Japan

Postsecondary Education Programs Network of Japan

## 日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク

### — 聴覚障害学生支援の明日を切り拓く



日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク (PEPNet-Japan) は、2004 年筑波技術大学の呼びかけにより結成されたネットワークです※。事務局は、筑波技術大学障害者高等教育研究支援センターに置かれており、聴覚障害学生を受け入れ、積極的に支援を行っている連携大学・機関とともに活動を続けています。



※設立当初は、日本財団の助成による PEN-International（聴覚障害者のための国際大学連合）の支援を受け、発足しました。現在は、筑波技術大学の実施する「聴覚障害学生支援・大学間コラボレーションスキーム構築事業」内で運営されています。



本事業の目的は、全国の聴覚障害学生が在籍する大学および関係諸機関間のネットワークを形成し、高等教育機関で学ぶ聴覚障害学生への支援体制確立を図ることです。支援にまつわる情報や実践の蓄積と、全国の大学・機関に向けた発信を目指して活動を行っています。

## こんな活動をしています

### 日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム



PEPNet-Japan の活動成果を広く発信するとともに、全国の大学の支援実践について情報交換をすることを目的に、毎年 1 回シンポジウムを開催しています。

### 聴覚障害学生支援コーディネーター研修会



聴覚障害学生支援に関わる知識・スキル向上と、相互のネットワーク形成を目的に、各大学のコーディネーターを対象とした研修会を開催しています。

### 聴覚障害学生エンパワメント研修会



聴覚障害学生のエンパワメントに関わるノウハウの蓄積と共有を目的に、実際に聴覚障害学生を対象としたモデル研修会を開催しています。

### 諸外国視察調査

各国における聴覚障害学生支援の状況を学ぶため、アメリカをはじめとした諸外国視察を行っています。この成果は、報告書等の形で広く発信しています。



### 運営委員会の開催

連携大学・機関から選出された委員により構成された運営委員会を開催し、ネットワークの活動方針や事業計画を協議しています。



### 各種教材の作成・配布

Access! 聴覚障害学生支援 DVD シリーズをはじめとする多様な教材を作成し、全国の大学・機関関係者に広く配布しています。



### メーリングリストの運営

聴覚障害学生支援に関わる方々の情報共有とディスカッションのため、メーリングリストを開設し、運営しています。

### Web による情報発信

作成した教材をはじめ、聴覚障害学生支援に関わる多彩な情報をホームページ上で発信しています。

## これまでの活動成果

### はじめての聴覚障害学生支援講座

Web コンテンツ

はじめて聴覚障害学生を受け入れることになったとき、大学側はどんな準備をすればいいのでしょうか？ここでは、学内支援体制を作り上げていく手順を丁寧に解説しています。



### 実践事例アイディア集

Web コンテンツ

支援者の確保や語学の支援等、支援をする上での工夫を紹介したアイディア集。「こんな時どうしたら？」「他の大学ではどうしているの？」と迷ったときにご覧下さい。



### DVD シリーズ「Access! 聴覚障害学生支援」

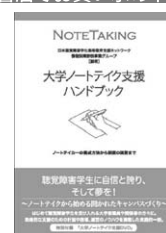
支援に関わる各種トピックスについて解説したDVDシリーズ。支援の手順や意義、聴覚障害学生本人の意識など、さまざまなテーマをドラマやドキュメントで示しています。



### 大学ノートテイク支援ハンドブック

一般書店でお買い求め下さい

「ノートテイクを養成したいけど、どうすれば？」そんな声にお応えして作成したハンドブック。講座開講の流れからスキルアップの方法まで丁寧に解説しています。



### トピック別聴覚障害学生支援ガイド

—PEPNet-Japan TipSheet 集

「聞こえないってどういうこと？」「ノートテイクって何？」など、支援に関わる基本的な知識をまとめた冊子。同じ内容のリーフレットも Web 上で公開しています。



### やってみよう！パソコンノートテイク

—パソコンノートテイク導入支援ガイド

「やってみしたいけど難しそう」そんなパソコンノートテイクに対するイメージを払拭。必要な機器から接続設定・入力の基礎まで、簡単にわかりやすく解説しています。



### 一歩進んだ聴覚障害学生支援

一般書店でお買い求め下さい

はじめて聴覚障害学生が入ることになったときの対応方法から、人材確保、支援体制の強化まで、具体的な事例やノウハウを盛り込んでまとめたマニュアルです。



### やってみよう！連係入力

—パソコンノートテイクスキルアップ！教材集

パソコンノートテイクに必要な連係入力を習得するための教材集。各種練習方法を紹介しているほか、自宅で連係入力の練習ができるソフトウェアも付属しています。



## 大学での手話通訳ガイドブック

—聴覚障害学生のニーズに応えよう！

聴覚障害学生が大学で望む手話通訳とは何かを、座談会や通訳事例を通して説明した解説書。通訳映像を見ながら具体的なニーズについて学ぶことができます。



## 聴覚障害学生のエンパワメント

—モデル研修会報告書

「自ら周囲の人々に働きかけ、必要な支援を生み出す」そんな力を育てていくために、必要なノウハウをまとめた冊子。2011 年に実施した研修会を元に作成しています。



## 支援技術導入リーフレット

ITを活用した支援技術のノウハウをコンパクトに収録したリーフレット。遠隔情報保障に関する技術やビデオ教材への字幕挿入など、5 テーマを公開しています。



## 障害学生支援担当者の職務内容・専門性に関する実態調査報告書

2011 年度に実施した全国調査報告書。全国の大学で障害学生支援を担当している方々の勤務実態や職務の内容、専門的知識・スキルの習得状況等を明らかにしています。



## 音声認識によるリアルタイム字幕作成システム構築マニュアル

音声認識を活用した情報保障のためのマニュアル。復唱者・修正者を介し、字幕を送信する技術について紹介しています。パソコンノートテイクの次のステップにご覧下さい。



## 東北地区大学支援プロジェクト報告書

東日本大震災の発生後、東北地区の大学が学内の支援体制を取り戻すまでの間、遠隔地からパソコンノートテイクを提供する試みを実施しました。本冊子はこの報告書です。



## 聴覚障害学生サポートネットワークの構築をめざして

—アメリカ視察報告書

PEPNet-Japan がこれまでに実施してきたアメリカ視察の報告集。第1～3 回視察の結果をまとめた総集編と、個別のトピックに焦点をあてた特別編を発行しています。



## その他、ホームページをご覧ください

この他、PEPNet-Japan ホームページでは聴覚障害学生の支援に役立つコンテンツを多数公開しています。

- ・聴覚障害学生支援 FAQ
- ・各種研修会報告書 など

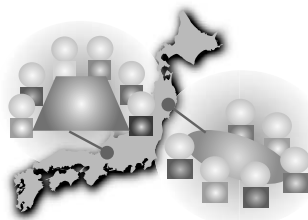


[www.PEPNet-J.org](http://www.PEPNet-J.org)



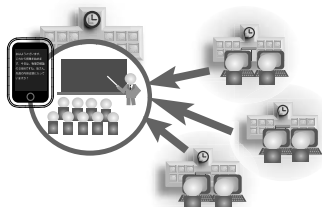
## 現在の取り組み

### 地域ネットワークの形成支援



各種研修会の開催等を通して地域ごとの大学間ネットワーク形成を後押しするとともに、各地域における大学の支援状況について情報を収集を進めています。

### 遠隔情報保障支援ネットワークの構築



東日本大震災における東北地区大学支援プロジェクト経験をベースに、大学が相互に協力して遠隔地から授業支援を提供する体制構築を進めています。

### モデル事例の構築と成果発信

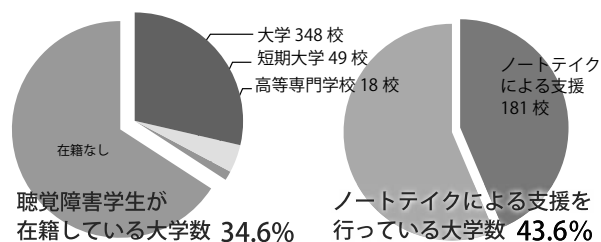
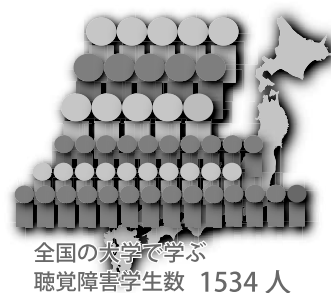


これまで支援が困難であった分野を取り上げ、大学が協力して集中的に知識技術を注入することで、新たな支援事例の創出を図ろうとしています。

## 聴覚障害学生支援の現状

### 聴覚障害学生の在籍状況

現在、全国の高等教育機関（以下、大学）には1500人以上の聴覚障害学生が在籍しています。しかし、彼に対して必要なノートテイクなどの支援を提供できている大学は、半数以下に過ぎません。



(日本学生支援機構, 2012)

### 聴覚障害学生に対する支援



**ノートテイク** 授業中の教員の説明や音情報を文字で書いて伝える方法で、2～3名の支援者が交代でサポートを行います。



**パソコンノートテイク** ノートテイクと同様に音情報をパソコンで入力していく方法です。専用ソフトを用いることで、複数の入力者が協力して情報を伝えることができます。



**手話通訳** 聞こえてくる音情報を手話で伝えていく方法です。ゼミなどで利用されることが多く、外部団体から派遣を受ける例もあります。

## TOPICS

### 東北地区大学支援プロジェクト



2011年に発生した東日本大震災の際には、宮城県内の連携大学・機関の要請を受け、被災地域の聴覚障害学生の安否確認等に協力しました。また授業開始後は、被災地の大学で学ぶ聴覚障害学生に対して、全国の連携大学・機関から遠隔でパソコンノートテイクの提供を行う試みを実施しました。この取り組みには、全国13大学・機関が参加し、4大学で学ぶ聴覚障害学生約20名に対して、のべ300コマ程度の支援を提供しました。

## 連携大学・機関

### 札幌学院大学



聴覚障がい学生と支援学生、教職員の約 100 名が協力して支援技術や手話学習、啓発活動に取り組んでいます。2名の職員(兼務)も学生の相談や活動の対応をしています。支援はノートテイクと PC テイクが主です。

(担当：バリアフリー委員会)

### 関東聴覚障害学生サポートセンター



情報保障体制構築の支援に加え聴覚障害学生の心理面での相談機能の充実を目指しています。大学関係者だけでなく、ろう学校や通訳者からの相談・お問い合わせにも対応しています。

(<http://kantou-saposen.main.jp/index.html>)

### 宮城教育大学



利用学生のニーズに応じて手書きや PC を主としたノートテイクを行い、音声認識通訳等新たな情報保障にも積極的に取り組んでいます。また、学生を中心とする練習会や情報交換会を企画し、支援体制を作っています。

(担当：しょうがい学生支援室)

### 東京大学



バリアフリー支援室では専門知識を有するスタッフが常駐し、障害のある学生・教職員への支援を行っています。聴覚障害のある学生へは、PC テイク等の情報保障や、補聴システムによる聴覚補償等を実施しています。

(担当：バリアフリー支援室)

### みやぎ DSC



宮城を拠点に主に東北地方の高校、大学等の聞こえない・聞こえにくい学生・支援学生・教職員への支援を行っています。活動の柱は、「相談事業」「普及・啓発事業」「養成・研修事業」「ネットワーキング事業」です。

(担当：事務局)

### 放送大学 ICT 活用・遠隔教育センター



放送大学では、現在 68 科目の授業番組(放送時間の 34%)が字幕化されています。今後はインターネット配信の授業番組の字幕化、ラジオのテキスト化に取り組んで参ります。

(担当：ICT活用・遠隔教育センター)

### 群馬大学



全学的な支援体制と障害の専門教員との協働の下、手話通訳技術をもつ職員と聴覚障害当事者の職員が支援技術の講習、コーディネートなどを行っています。定期的にフォローアップを行い、改善につなげています。

(担当：障害学生サポートルーム)

### 静岡福祉大学



本学では、障害の有無に関わらず共に社会参加できる教育環境の実現を目指しています。これにより、学生が卒業時に、自ら必要な支援を第三者に説明し、主体的に最適な環境を作り上げられるようにしています。

(担当：障害学生支援室)

### 愛知教育大学



愛知教育大学では、学生が中心となって、パソコンテイクを主に支援を行っています。週 2 回昼休みに集まったり、遠隔システムを使った連係練習などを行って、よりよい支援を目指しています。

(担当：障害学生支援 WG)

### 立命館大学



立命館大学では、障害学生を含むインクルーシブな大学づくりに向けた支援を行っています。支援室の下に組織されたサポートスタッフが授業支援や支援スキル養成講座や啓発イベントの企画・実施を行っています。

(担当：障害学生支援室)

## 日本福祉大学



障害学生支援センターでは、障害学生の生活からボランティア活動支援まで、様々な相談に応じています。また、学習支援の方法は、障害学生・支援学生・教職員が共に考え、より良い環境の実現を目指しています。  
(担当：障害学生支援センター)

## 大阪教育大学



平成 24 年度から「障がい学生修学支援ルーム」を設置し、教員・事務スタッフが相談・支援にあたっています。支援学生と連携し手話通訳・ノートテイク・パソコンテイク・要約筆記等ニーズに応じた支援を行っています。  
(担当：障がい学生修学支援ルーム)

## 金沢大学



要支援聴覚障害学生は現在在籍しませんが、視覚（視野狭窄）障害学生に対し、ノートテイクを実施しています。また、発達障害について『サポートブック：多様なニーズに対応するため』を全学に配布しています。  
(担当：学生部学生支援課)

## 関西学院大学



総合支援センターは、障がい学生支援を全学的に行うの相談窓口としての機能を持ち、3名のコーディネータが学部と連携し支援にあたっています。ノートテイク、映像の字幕、手話通訳者派遣等を実施しています。  
(担当：キャンパス自立支援室)

## 同志社大学



障害のある学生が、他の学生と等しい条件で学生生活を送れるよう、約 200 名のスタッフが講義保障（PC 通訳・NT）を中心に様々な支援を行っています。他大学や、学外支援団体のサポートにもあたっています。  
(担当：障がい学生支援室)

## 広島大学



各部署の支援委員、教職員、これをサポートする専任教職員 5 名、AL インターン約 20 名、実習生約 40 名が、相談・支援にあたっています。また、最新の ICT を活用した多彩な支援に、積極的に取り組んでいます。  
(担当：アクセシビリティセンター)

## 愛媛大学



愛媛大学では、障がいのある学生を支援するために、「障がい者修学支援委員会」「バリアフリー推進室」「障害学生支援ボランティア」を設置し、学生が主体となって障がいのある学生支援に取り組んでいます。  
(担当：バリアフリー推進室)

## 四国学院大学



CHC センターは、本学に在籍するマイノリティ学生の学生生活をサポートしていくための場所です。聴覚障害学生に対しては主にノートテイク・パソコン要約筆記・手話通訳を実施しています。  
(担当：CHC センター)

## 福岡教育大学



障害のある学生は支援学生とともに支援方法を考え、支援システムを検討・構築する活動を行っています。また、各種講習・研修会を定期的に開催し、学内外へ情報を発信しています。他大生との連携も行っています。  
(担当：障がい学生支援室)

## 日本社会事業大学



聴覚障害当事者の社会福祉従事者の育成を図っています。支援にあたっては学生の自己擁護力と支援活用力の向上を最も大切にしています。支援学生も未来のソーシャルワーカーとして役立つ経験をしています。  
(担当：聴覚障害者大学教育支援プロジェクト)

## 運営組織

### 代表

村上芳則 筑波技術大学・学長

### 運営委員

高橋信雄 愛媛大学教育学部・教授

新國三千代 札幌学院大学バリアフリー委員会・教授

松崎 丈 宮城教育大学教育学部・准教授

高橋明美 みやぎ DSC・スタッフ

斉藤くるみ 日本社会事業大学・教授

倉谷慶子 関東聴覚障害学生サポートセンター・コーディネーター

廣瀬洋子 放送大学 ICT 活用・遠隔教育センター・教授

金澤貴之 群馬大学教育学部・准教授

高橋岳之 愛知教育大学教育学部・准教授

藤井克美 日本福祉大学社会福祉学部・教授

真銅正宏 同志社大学学生支援センター・所長

木立英行 大阪教育大学障がい学生修学支援ルーム・ルーム長

松岡克尚 関西学院大学人間福祉学部・教授

青野 透 金沢大学大学教育開発・支援センター・教授

林田真志 広島大学大学院教育学研究科・准教授

太田富雄 福岡教育大学附属特別支援教育センター・教授

石原保志 筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター・センター長

及川 力 筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター・教授

白澤麻弓 筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター・准教授



We are the ones  
who make a difference

## 事務局

### 事務局員

○白澤麻弓 筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター・准教授

石塚陽二 筑波技術大学聴覚障害系支援課・課長

小林正幸 筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター・教授

佐藤正幸 筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター・教授

三好茂樹 筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター・准教授

大杉 豊 筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター・准教授

河野純大 筑波技術大学産業技術学部産業情報学科・准教授

(○は事務局長)

(2012 年 10 月 1 日現在)

## PEPNet-Japan 連携大学・機関

札幌学院大学

宮城教育大学

みやぎ DSC

群馬大学

関東聴覚障害学生サポートセンター

東京大学

日本社会事業大学

放送大学 ICT 活用・遠隔教育センター

静岡福祉大学

愛知教育大学

日本福祉大学

金沢大学

同志社大学

立命館大学

大阪教育大学

関西学院大学

広島大学

四国学院大学

愛媛大学

福岡教育大学

筑波技術大学



## お問い合わせ先

PEPNet-Japan

検索

## 日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク事務局

〒305-8520 茨城県つくば市天久保 4-3-15

筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター

URL <http://www.pepnet-j.org>

TEL/FAX 029-858-9438

E-mail [pepj-info@pepnet-j.org](mailto:pepj-info@pepnet-j.org)

担当：白澤麻弓（筑波技術大学 准教授）

**PEPNet-Japan**

国立大学法人

筑波技術大学

本事業は、筑波技術大学「聴覚障害学生支援・大学間コラボレーションスキーム構築事業」の活動の一部です。



# 日本聴覚障害学生 高等教育支援ネットワーク (PEPNet-Japan) 連携大学・機関 活動紹介

- 札幌学院大学
- 宮城教育大学
- みやぎ DSC
- 東京大学
- 日本社会事業大学
- 関東聴覚障害学生サポートセンター
- 放送大学 ICT 活用・遠隔教育センター
- 群馬大学
- 静岡福祉大学
- 金沢大学
- 愛知教育大学
- 日本福祉大学
- 同志社大学
- 立命館大学
- 大阪教育大学
- 関西学院大学
- 四国学院大学
- 広島大学
- 愛媛大学
- 福岡教育大学
- 筑波技術大学



2012 年 10 月 1 日現在

# 札幌学院大学

●支援組織名称 札幌学院大学バリアフリー委員会  
http://www.sgu.ac.jp/bfc/

●スタッフ 教職員 14 名、学生スタッフ 100 名

|        |      |     |     |
|--------|------|-----|-----|
| 聴覚障害学生 | 7 名  | 学部生 | 7 名 |
|        |      | 院生  | 0 名 |
| 視覚障害学生 | 1 名  |     |     |
| 肢体障害学生 | 10 名 |     |     |

|      |                              |
|------|------------------------------|
| 設置形態 | 私立大学                         |
| 学生数  | 4, 024 人                     |
| 所在地  | 〒069-8555<br>北海道江別市文京台 11 番地 |

## 学内支援体制

2001 年教職員および学生によりバリアフリー委員会発足。2002 年度から障がい学生支援に関わる諸経費を大学予算で対応。現在、全学的組織である「障がい学生支援連絡会議」の下にバリアフリー委員会が置かれている。

## ノートテイク・パソコンテイク

|                      |  |     |     |
|----------------------|--|-----|-----|
| 提供しているサービス           | ノートテイク、パソコン要約筆記 (IPTalk 使用)、手話通訳 (補助的)   |     |     |
| 利用者数                 | 6 名  | 学部生 | 6 名 |
|                      |  | 院生  | 0 名 |
| ティカー数                | 11 年度実数：前期 NT19 名, PC15 名<br>後期 NT21 名, PC17 名                                     |     |     |
| サービス提供時間数            | 11 年度前期→53 科目×15 回<br>11 年度後期→50 科目×15 回   |     |     |
| 報酬および経費              | 770 円/時間   |     |     |
| 募集方法                 | 掲示板、HP に募集ポスターを掲示、情報ポータルで募集のお知らせ、新年度のガイダンス時にバリアフリー委員会の学生達が手分けして全学部学科に募集説明、活動説明会の開催 |     |     |
| コーディネート方法            | バリアフリー委員会テイク統括部が行う。  |     |     |
| 養成方法                 | 年間を通して月 2 回程度テイク講習会を実施。新学期 2 ヶ月間は、毎週数回実施。先輩学生が講師を務める。被ティカーも助言者として参加する。             |     |     |
| 本学ノートテイク・パソコン要約筆記の特徴 | 先輩学生が後輩学生を育てながら相互に育ち合っている。   |     |     |

## 手話通訳

|           |   |     |     |
|-----------|---|-----|-----|
| 利用者数      | 11 年度<br>前期 2 名<br>後期 0 名                                   | 学部生 | 2 名 |
|           |   | 院生  | 0 名 |
| 手話通訳者数    | 11 年度実数：前期 3 名, 後期 0 名                                      |     |     |
| サービス提供時間数 | テイクと併用：前期 2 科目  |     |     |
| 報酬および経費   | 770 円/時間  |     |     |
| 募集方法      | 手話通訳のみの募集はしていない。  |     |     |
| コーディネート方法 | バリアフリー委員会テイク統括部が聴覚障がい学生の希望を聞いて、配置する。これまではゼミや演習/実習科目で要望があった。 |     |     |
| 養成方法      | 手話学習会を週 1 回実施。  |     |     |
| 本学手話通訳の特徴 | テイクの補助手段およびティカーと被ティカーとのコミュニケーション手段として使用。                    |     |     |

## Check!

学生・教職員の協働により委員会を運営している。障がいを抱える学生と支援学生が主体的に企画・運営を担う。

## みんなでしゃべり場

札幌学院大学バリアフリー委員会では、講義保障のスキルを高めるテイク講習会・手話勉強会の他に、障がい学生支援について様々な角度から学ぶ取り組みも学生が中心に行っています。学外から講師を招いて開催する各種講演会がそうですが、地味ながらももう一つ学生たち自身の力を養っているのが、18:30 から定期的に開催している「みんなでしゃべり場」というディス



カッションの場です。例えば、「聴覚障がい者が困ること、その時私達にできること、設備などの改善」など、授業保障以外のことについても、自分たちの視点で学び合っています。

## サービス向上を目指して

ノートとパソコン要約筆記のティカー養成講座を先輩が講師となって実施している。数名の先輩や被ティカー達も補助者として参加し、後輩のテイクの内容を個別にチェックしたり、助言している。また、先輩達が作成したテキストを引き継いで改訂しながら継続的にティカー養成の向上を図っている。これらはすべてボランティアである。今後の課題は、ティカーの講師や補助者を育てるプログラムを充実させること、講座運営に携わる学生達への相応の待遇を検討することである。

## 参考資料

札幌学院大学バリアフリー委員会のホームページ  
(<http://www.sgu.ac.jp/bfc/>) に活動内容を掲載。

問い合わせ先 大学：教務課学習支援係  
電話 011-386-8111/FAX011-386-8111  
学生組織：sgu\_bfc@sgu.ac.jp

# 宮城教育大学

●支援組織名称 宮城教育大学 しょうがい学生支援室  
http://shienshitu.miyakyo-u.ac.jp/

●スタッフ 教職員12名、学生スタッフ131名

|           |     |        |     |
|-----------|-----|--------|-----|
| 聴覚しょうがい学生 | 12名 | 学部生    | 10名 |
|           |     | 院生・研究生 | 2名  |
| 視覚しょうがい学生 | 1名  |        |     |
| 肢体しょうがい学生 | 2名  |        |     |
| 病弱しょうがい学生 | 1名  |        |     |

|      |                                  |
|------|----------------------------------|
| 設置形態 | 国立大学法人宮城教育大学                     |
| 学生数  | 1655名（学部生1525名、院生130名）           |
| 所在地  | 〒980-0845<br>宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉149番地 |

## 学内支援組織図

|  |                        |
|--|------------------------|
| 支援室  | 専門部会                   |
| 室長 1名<br>（連携担当副学長）                           | 聴覚しょうがい部会<br>視覚しょうがい部会 |
| 室員 8名<br>（専門部会長、関連委員等）                       | 発達しょうがい部会<br>肢体不自由部会   |
| 職員（コーディネーター）                                 | 病弱しょうがい部会              |
| （必要に応じて配置：現在は3名）                             |                        |
| 問い合わせ先                                       |                        |
| MAIL: Support-Coordinator@ml.miyakyo-u.ac.jp |                        |
| TEL/FAX: 022-214-3651                        |                        |

## ノートテイク・パソコンノートテイク・音声認識通訳

|            |   |         |                                |
|------------|---|---------|--------------------------------|
| 利用者数       | 10名   | 支援者数    | 131名<br>(NT130名/PC60名/音声認識20名) |
| サービス提供時間数  | 1568コマ（2011年度）  | 報酬および経費 | 900円/時間（教育実習、校外活動のみ）           |
| 募集方法       | 掲示板に募集ポスターを掲示、募集用リーフレット配布、学内行事におけるPR映像の放映、新入生への広報（入学時資料に募集リーフレットを同封、入学式の式典前に文字通訳のスクリーンを利用してPR映像を放映）、新入生必修講義におけるPR |         |                                |
| コーディネート方法  | コーディネーター3名（教務補佐員）が連絡調整する。聴覚しょうがい学生及び学生ノートテイクの助言・指導を担当する経験の長い学生と連携を図って適切なコーディネートを行っている。                            |         |                                |
| 養成方法       | 学生運営スタッフを中心に、初心者対象、経験者対象の研修会を毎月2回ほど実施。  |         |                                |
| 文字通訳の取組の特徴 | 本学のしょうがい学生支援を、特別支援教育におけるしょうがい児・者支援の実践に必要な不可欠な知識と実行力の養成として位置づけて活動している点。通常の講義の情報保障は学生の手によって全てがボランティアで行われている。        |         |                                |

## 手話通訳

## 聴覚補償

## 字幕挿入

|           |   |  |  |
|-----------|---|--|--|
| 関係者数      | 利用者数 10名（内教員1名）   | 利用者数 3名  | 作業者数 38名   |
| サービス提供時間数 | オリエンテーション、卒業論文・修士論文発表会等単発的支援のみ  | 週8コマ   | 2009年度より、講義において使用する映像物への字幕挿入を開始<br>32本：860分（2011年度）        |
| 報酬および経費   | 外部派遣機関の規定による  | なし   | 900円/15分映像   |
| 方法        | <b>募集方法</b><br>みやぎ通訳派遣センターに依頼。できる限り本学への派遣実績のある通訳者を派遣するよう依頼。                     | <b>補償方法</b><br>①赤外線補聴システム<br>（赤外線ラジエーター《リオン》）<br>②電波を使った補聴システム<br>（パナガイド《Panasonic》） | <b>作成方法</b><br>学内の登録作業者に対して、文字おこしの作業を依頼。その後映像物への字幕挿入を行っている |
| 特徴        | <b>養成方法</b><br>担当教員と一緒に事前検討会及び事後反省会。大学で使用する専門用語の手話DVDを作成し、大学レベルの手話通訳者の養成を行っている。 | <b>補償方法の選択</b><br>講義室の状況、講義の形態、個々の使用している補聴器の種類などによって補償を行う。集団討論に対応可能なシステムも構築した。       | <b>字幕映像への対応</b><br>専任の作業スタッフ1名を置き、一定のルールにのっとり文字映像を作成している。  |

本学は、特別支援教育全領域をカバーできる専門教員が揃っており、その専門的人的資源を最大限に活用するために「しょうがい学生支援室」を設立して、しょうがい学生支援体制の充実化を図っている。また、本学は教員養成大学であり、しょうがい学生支援にかかわることで備わるスキルや知識は、卒後教壇に立った時に児童・生徒に対して発揮される力となる。しょうがいの有無にとらわれない主体的な学びの場となっている。

また、他大学と連携した遠隔地通訳など、最新技術に接すると共に他大学との交流の場を設けることにも力を注ぎ、講義内容・形態から適切な支援方法を選択できるようにしている。しかし周囲の一時的な支援構築に終始しないように、まず聴覚しょうがい学生のニーズを教育的な観点から評価し、求められる支援技術や対応方法を講じることを出発点とし、そのために聴覚しょうがい専門教員とコーディネーターが随時協議して聴覚しょうがい学生一人ひとりの問題状況の把握と支援の方針を共通確認して実施している。

Check!

様々な情報保障手段に触れ  
必要な手段を選択する環境整備



# みやぎDSC

(Deaf Support[Students] Center)

|     |   |
|-----|---|
| 形態  | 任意団体  |
| 所在地 | 〒981-0908<br>仙台市青葉区東照宮1丁目<br>17-1-116 高橋方<br>FAX 022-233-9571 |

- 創設 2003年4月1日
- 代表 松崎 文
- URL <http://blogs.yahoo.co.jp/jyohosaposen>

運営スタッフ

11名  
(兼務あり)

|            |    |
|------------|----|
| 代表         | 1名 |
| 事務局        | 2名 |
| 相談事業       | 3名 |
| 普及・啓発事業    | 3名 |
| 養成・研修事業    | 4名 |
| ネットワーキング事業 | 3名 |

## 事業内容・実績

|         |  |            |                                       |
|---------|--|------------|---------------------------------------|
| 相談事業    | 教職員及び聴覚障害学生対象の相談及びその保護者、関係者等の総合的な相談を行う。                          | 養成・研修事業    | 聴覚障害学生・支援者・教職員それぞれの対象者に合わせた養成・研修を行う。  |
| 普及・啓発事業 | 教育機関や地域に向けた聴覚障害学生支援に関わる広報活動及び啓発行事の開催。対象者の幅を広げ、中高生・保護者等広範囲を対象とする。 | ネットワーキング事業 | 聴覚障害学生支援関係の団体との情報交換・課題の共有・ノウハウの提供を行う。 |

|                       |   |
|-----------------------|---|
| みやぎDSCの活動<br>(2011年度) | <ol style="list-style-type: none"> <li>相談事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>相談 13件</li> </ul> </li> <li>養成・研修事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>大学へのノートテイク養成講座 2回 (受講人数 述べ37名)</li> <li>大学教職員対象の研修 1回</li> <li>聴覚障害学生支援の現状にあわせてノートテイク養成マニュアルを改訂</li> </ul> </li> <li>普及・啓発事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>公式 Twitter のアカウントの開設、ホームページの更新</li> </ul> </li> <li>ネットワーキング事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>PEPNet-Japan、TeamACS、県内聴覚障害関係団体とのつながりを継続中</li> <li>地域支援センター間のネットワークの構築</li> </ul> </li> </ol> <p>* 日本財団・宝塚市難聴言語障害児親の会から高等学校への支援について</p> |
|-----------------------|---|

### その時

PEPNet-Japan が、大震災で聴覚障害学生支援体制の質が低下した宮城県の大学のために、モバイル型遠隔情報システムを構築し、全国の連携大学が遠隔情報保障支援をしてくれた。みやぎDSCは、同システムの構築にあたって、被災した県内大学の担当教職員との連絡調整を行った。宮城教育大学、東北福祉大学、東北生活文化大学、宮城学院女子大学が、支援を受け、被災大学の支援の質は保たれ、大学間との絆も深まった。

- ・聴覚障害学生OB・OGは自主的に動いた。
- ・教員Sは、児童・避難してきた地域住民の支援にあたり、2日後に一時帰宅できた。
- ・会社員Tは、東日本大震災聴覚障害者救援宮城本部で支援物資の整理を手伝った。
- ・他県在住Fは、生活情報を随時流してくれた。

### スタッフの声

大学時代に支援を受けていた者が障害者支援や地域復興を支える者として主体的に活躍したことに、大変嬉しく思いました。

問い合わせ先：所在地参照

# 群馬大学

- 支援組織名称 大学教育・学生支援機構  
学生支援センター 障害学生支援室
- スタッフ 職員5名、うち1名は聴覚障害者（マネージャー）

|        |    |                |
|--------|----|----------------|
| 聴覚障害学生 | 6名 | （内訳）学部生5名、院生1名 |
| 視覚障害学生 | 0名 | 肢体障害学生 0名      |
| 発達障害学生 | 2名 | その他 1名         |

|      |                              |
|------|------------------------------|
| 設置形態 | 国立大学法人                       |
| 学生数  | 約 6600 人（学部・専攻科・大学院を含む）      |
| 所在地  | 〒371-8510<br>群馬県前橋市荒牧町四丁目2番地 |

## 学内支援体制

- ・平成17年6月10日に障害学生への修学支援の基準を統一化して、「群馬大学障害学生修学支援実施要項」を制定し、全学的な取り組みを開始した。
- ・平成22年度から大学教育・学生支援機構の学生支援センターに障害学生支援室を設置して新たにスタートした。
- ・現在は障害学生サポートルーム職員がコーディネートを行い、各学部と連携して支援している。

## ノートテイク・パソコンテイク

| 提供しているサービス          | ■ノートテイク■パソコンテイク   |                     |  |
|---------------------|---|---------------------|--|
| 利用者数                | 6名  | 学部生 5名<br>その他 院生 1名 |  |
| ノートテイク数             | 登録テイク 126名  |                     |  |
| サービス提供時間数           | 聴覚障害学生が希望するすべての授業（ゼミや就職ガイダンスなどの大学が実施する各種講座も含む）  |                     |  |
| 報酬および経費             | 800円/時間（1コマ1,200円）  |                     |  |
| 募集方法                | オリエンテーション等でのチラシ配布や呼び掛け（聴覚障害学生自身の呼び掛けも含む）と定期的な講習会の実施。手話の習得や支援技術の講習を取り入れた養成。地域の文字通訳者等学外にも依頼。  |                     |  |
| コーディネート方法           | コーディネートは障害学生サポートルーム職員。テイクは登録テイクが有償で行う。テイクにはメーリングリストで情報保障の必要な日時等の情報を送り、条件にあったテイクを配置（基本的に半期固定）。テイク自身の履修授業と重ならないよう調整する。1授業（90分）にテイク2名配置。 |                     |  |
| 養成方法                | 登録時に講習7.5時間を行う。障害学生サポートルーム職員と障害学生支援サークルが講師となり実践練習を含めて行う。  |                     |  |
| 本学ノートテイク・パソコンテイクの特徴 | PC テイクは PC 連係入力ソフト（IPtalk）による2名連係入力。講義以外の実習等、学外での情報保障も行う。iPhone などを利用して、障害の程度や環境に応じた学生のニーズに対応している。                                    |                     |  |

## 手話通訳

|           |   |                     |
|-----------|---|---------------------|
| 利用者数      | 3名  | 学部生 2名<br>その他 院生 1名 |
| 手話通訳者数    | 20名程度（学外への依頼含む）   |                     |
| サービス提供時間数 | 聴覚障害学生が希望するすべての授業（ゼミや就職ガイダンスなどの大学が実施する各種講座も含む）  |                     |
| 報酬および経費   | 職員は、給与として支給。外部の手話通訳者には、1時間あたり3,000円支給   |                     |
| 募集方法      | 職員で対応できない場合は、群馬県認定手話通訳者協会と群馬県手話通訳問題研究会に手話通訳者の紹介を依頼。   |                     |
| コーディネート方法 | 障害学生サポートルームの職員がコーディネートを行う。1授業（90分）に2名配置。  |                     |
| 養成方法      | 職員も含め手話通訳者は通訳終了後、活動報告書を提出してもらい、問題点を把握し、次回の改善へつなげている。また、授業で通訳をしている様子をビデオ収録し、それをもとに聴覚障害学生を交えた反省会を定期的に行うことで技術向上に努めている。 |                     |
| 本学手話通訳の特徴 | 職員が手話通訳業務を担う。   |                     |

＜その他＞ ネットィブスピーカーによる語学の授業については、学外からテイクを広く募集するほか、英語の音声認識ソフトを導入している。

### Check!

ガイダンスや事務手続き等、授業以外の大学生活に関わることにしても情報を保障。全学的な統一基準により、どの学部でも質の高い支援体制が可能。

## 情報保障の充実に向けて

＜情報保障サークル「てふてふ」＞

聴覚障害学生と学生テイクの交流と技術向上を目的として、サークルが立ち上げられた。学生同士の交流会のほか、手話サポーター、テイク養成と研修にも協力してもらっている。

＜学生の手話スキルの底上げ＞

手話サロン（初級・上級コース）を設け、学生が手話に触れる機会を提供。上級コースに参加し、障害学生サポートルームが独自に作成した選考試験に合格した者に手話サポーターとして手話ニーズのある聴覚障害学生の実技系（体育など）の授業のサポートをしてもらっている。

## サービス向上を目指して

学生のテイクは卒業し入れ替わってしまうので、新規のテイクの募集にも力を入れている。その際、学生の協力を得て勧誘・紹介をしてもらうなど、学生同士のつながりも大切にしている。聴覚障害者支援について広く知識と問題意識をもってもらえるよう、情報提供していくことも心がけている。

問い合わせ先

学務部学生支援課

（電話 027-220-7136 / FAX 027-220-7620）

障害学生サポートルーム

（電話&FAX 027-220-7114）

# 関東聴覚障害学生 サポートセンター

- 創設 1984 年（創設当初は関東学生情報保障者派遣委員会）
- URL <http://kantou-saposen.main.jp/>

|        |   |                      |
|--------|---|----------------------|
| 形態     | 任意団体  |                      |
| 所在地    | 事務所を持たず、コーディネーターやコンサルタントのノウハウを持ったスタッフのネットワークによって運営。 |                      |
| 運営スタッフ | 14 名  | 会計、広報、相談、養成、コーディネーター |

## 事業内容・実績

|           |  |
|-----------|--|
| 相談事業 1    | 聴覚障害学生本人及び、支援に当たる大学担当者に対し、相談及び情報提供を行う。聴覚障害学生を初めて受け入れた大学からサポート全般についての情報を求める相談のほか、特別支援学校や社会人からの相談も受けている。   |
| 相談事業 2    | これまでも聴覚障害学生からの相談に対しては、サポートサービスを利用した経験の深いろう者スタッフが対応し、心理面のサポートや情報提供にあたってきた。各大学の情報保障体制構築への取り組みは進んではいるが、聴覚障害学生の心理面での支援は不十分で、専門的な支援の必要性が高まってきたことから、メンター機能の充実を図るべく準備をしている。 |
| 養成事業      | 大学からの依頼に応じてノートテイク養成講座を開催する。事前打ち合わせ、カリキュラム構成、養成後のフォローアップも含めてサポートし、大学独自で養成が担える体制作りを目指す。2011 年度 3 大学で実施。  |
| 通訳者の紹介・斡旋 | 大学の支援の一環として依頼に応じて手話通訳者等の紹介、斡旋を行う。<br>また、地域資源の活用などについてアドバイスを行う。   |
| 研修・講師派遣事業 | 地域のサークルや大学等の依頼に応じて情報保障者養成及び指導者養成の研修会等に講師を派遣する。2006 年度以降は大学職員向け研修も実施。   |

|            |   |
|------------|---|
| 普及・啓発事業    | 「聴覚障害者と高等教育」フォーラムの開催や関連誌への寄稿を通して、聴覚障害学生支援の必要性や現状と課題を発信してきた。<br>2006 年度以降は企業向け啓発研修の依頼も受けて実施。   |
| ネットワーキング事業 | 学生当事者団体や地域の要約筆記・手話通訳グループ、通訳派遣機関等との連携や情報交換を行っている。<br>PEPNet-Japan の事業にも多くのスタッフが参画している。   |
| 研修会の開催     | 【2011 年度緊急活動】<br>岩手、宮城、福島各県の小中高に通う難聴児および大学に通う聴覚障害学生またその支援者を対象とした活動を開始した。具体的には被災地の聴覚障害学生や支援者の心の支援のためのグループワークの実施等を計画している。その活動の準備として「被災聴覚障害児・学生の状況に関する講演会」を 10 月に開催した。<br>この活動は日本財団 ROAD プロジェクト「東北地方太平洋地震災害にかかる支援活動助成」により実施した。 |

### Check!

聴覚障害学生のニーズを汲んだ、大学の支援体制作りをサポート

## 長期的な視野で、できることから支援体制づくりを

聴覚障害学生の入試相談と同時に、支援の必要性に気づいて何らかの対応を取る大学が増えてきたことから、サポートセンターでは、一つひとつの大学が支援の経験を培っていくための支援を提供している。入学した聴覚障害学生が卒業するまでの 4 年間、あるいはその後も長く安定した支援を提供できる体制となるよう、長期的な視野に立ち、その大学に合った方法で少しずつ体制を充実させていくための情報提供や研修活動を行っている。その一方で、情報や支援者の確保を求める聴覚障害学生や保護者からの相談も少なくない。大学間ネットワークと共により円滑で充実した支援を目指すとともに、専門的なノウハウを蓄積してきたスタッフの経験や知識を活かした聴覚障害学生向け相談事業においては、学生の卒業後の支援の方法を検討し新たな体制の充実を図っていききたい。



＜教職員研修会の様子＞

### 参考資料

- ◇吉川あゆみ・太田晴康・広田典子・白澤麻弓（2001）  
「大学ノートテイク入門」人間社
- ◇斉藤佐和監修 白澤麻弓・徳田克己（2002）  
「聴覚障害学生サポートガイドブック」日本医療企画
- ◇吉川あゆみ他（2007）  
「大学ノートテイク支援ハンドブック」人間社

### 問い合わせ先

事務局 連絡先 E-mail 上記 URL お問い合わせフォームよりお問い合わせください

# 東京大学

●支援組織名称 バリアフリー支援室

●スタッフ 職員7名

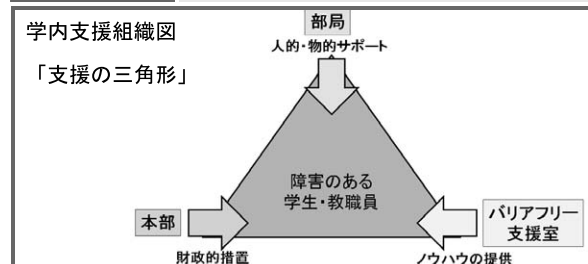
|        |  |     |  |
|--------|--|-----|--|
| 聴覚障害学生 |  | 学部生 |  |
| 視覚障害学生 |  | 院生  |  |
| 肢体障害学生 |  |     |  |

※学生在籍数の詳細については非公表とさせていただきます。

## ノートテイク・パソコン要約筆記

|                      |   |     |  |
|----------------------|---|-----|--|
| 提供しているサービス           | ☑ノートテイク☑パソコン要約筆記  |     |  |
| 利用者数                 | 若干名   | 学部生 |  |
|                      |   | 院生  |  |
| ノートテイク数              | 80名（NT 60名/PC 20名）  |     |  |
| サービス提供時間数            | 年間約4,700時間程度  |     |  |
| 報酬および経費              | 925円/時間（支援室運営経費）  |     |  |
| 募集方法                 | 掲示板への募集ポスター掲示、学部専用HPでの講座開催案内、新入生ガイダンスでの支援室紹介 など                                   |     |  |
| コーディネート方法            | 学期開始時に学生、所属学部等担当者との面談を行い、ニーズを確認したうえで授業ごとのサポート内容を検討・調整する。授業開始後も随時サポート内容の確認・再調整を行う。 |     |  |
| 養成方法                 | ノートテイク講座・パソコンテイク講座を学期開始時に複数回実施。個別講座やフォローアップ研修、学生のニーズにあわせた追加講座も随時行う。               |     |  |
| 本学ノートテイク・パソコン要約筆記の特徴 | 学生の履修科目への派遣だけでなく、学内で行われる研究会や各種研修等の場にも、教員・研究員からの依頼を受けて学生ティーカーを派遣する場合がある。           |     |  |

|      |                         |
|------|-------------------------|
| 設置形態 | 国立大学                    |
| 学生数  | 約28,000人                |
| 所在地  | 〒113-8654<br>文京区本郷7-3-1 |



## その他の支援

|                 |  |
|-----------------|--|
| 機器の貸出・補聴相談への対応  | FM補聴システムなどの支援機器貸出を行っている。補聴相談については、学生からの要望を受け、学内外の補聴相談専門家を紹介する体制をとっている。   |
| 文字起こし・字幕挿入      | 映像教材の文字起こし・字幕挿入をサービスとして提供している。   |
| シンポジウム等での情報保障支援 | 学内で開催される学会・シンポジウム等での情報保障全般について、コーディネーターが相談に応じている。主催者（学内関係者）から依頼や相談があった場合は、内容を確認したうえで、適任の手話通訳者を紹介する他、情報保障依頼にあたっての具体的な対応についても、アドバイスをを行う。 |
| 入学式・卒業式での情報保障   | 聴覚障害学生の有無にかかわらず、手話通訳と、PC文字通訳を実施。   |

Check!

学部等との連携体制「支援の三角形」  
学部等と支援室の連携によるきめ細かい支援

## 意見交換会・交流会の開催

東京大学バリアフリー推進のための学生ネットワーク「B.F.mate」を中心に、障害のある学生とサポートスタッフによる全学のバリアフリーについての意見交換がなされている。

また、バリアフリー支援室（本郷支所・駒場支所）では月2回、学生・教職員を対象に、手話に気軽に親しんでもらうことを目的とした「手話でしゃべらんち」を開催。学内で働く聴覚障害職員も複数参加し、手話によるミニ講演や質問コーナーなどを通じて交流を深めている。



## バリアフリーの東京大学を目指して

東京大学では、東京大学憲章において、バリアフリーの人的・物的支援の整備を行うことを責務としている。また、多様な人々が共に活動する社会こそが、本来の豊かで活力ある社会なのだという認識のもと、障害の有無を含めた様々な属性の人々がつどうキャンパス空間の構築を目指している。

### 参考資料

バリアフリー支援室ホームページ

<http://ds.adm.u-tokyo.ac.jp/>

東京大学バリアフリー推進のための学生ネットワーク「B.F.mate」

<http://www40.atpages.jp/todaibarrierfree/index.html>

### 問い合わせ先

E-mail : [spds-staff@mm.itc.u-tokyo.ac.jp](mailto:spds-staff@mm.itc.u-tokyo.ac.jp)

# 日本社会事業大学

- 支援組織名称 聴覚障害学生支援プロジェクト室  
http://deafhohproject.com/
- スタッフ 教員 1 名、プロジェクトマネージャー 1 名、  
支援者 65 名前後

|        |                               |
|--------|-------------------------------|
| 聴覚障害学生 | 7 名（内訳）学部生 6 名（通信 3 名）、院生 1 名 |
| 視覚障害学生 | 2 名                           |
| 肢体障害学生 | 6 名                           |

## ノートテイク・パソコンテイク

|                     |  |
|---------------------|--|
| 提供しているサービス          | ノートテイク、パソコンテイク、メモテイク、遠隔通訳、文字起こしなど、要望に応じて対応   |
| 利用者数                | 7 名<br>学部生 6 名（通信 3 名）<br>院生 1 名   |
| ノートテイク数             | 65 名（NT 50 名／PC 23 名）  |
| サービス提供時間数           | 週 20 コマ（NT 10 コマ／PC 10 コマ）   |
| 報酬および経費             | 850 円／時間   |
| 募集方法                | 学生支援課が全学的に募集。支援者の友人や口コミでも多くの学生が登録。また、ウェブページ上で募集を掲示し、学生に限らず、学外からも広く支援者を募集している。                      |
| コーディネート方法           | 聴覚障害学生支援プロジェクト室と支援者から選出した学生コーディネーターを中心に行っている。学生支援者については、こまめに情報共有・打ち合わせをしつつ、学生コーディネーターに連絡・調整を任せている。 |
| 養成方法                | 支援者として活動を希望する人を対象に研修を実施。状況に応じ、スキルアップのための研修も実施する。小さな練習会を数多く開催している。                                  |
| 本学ノートテイク・パソコンテイクの特徴 | 学生が自主的な練習会を多く開催している。また自主練習がいつでもできるように Training Lab を設置しており、オンラインでも練習できるようにシステムを構築中である。             |

|      |  |
|------|--|
| 設置形態 | 私立大学   |
| 学生数  | 2,750 名前後（学部生 807 名・大学院生 141 名、通信教育課 1798 名）人          |
| 所在地  | 〒204-8555<br>東京都清瀬市竹丘 3-1-30<br>http://www.jcsw.ac.jp/ |

### 学内支援体制

2009 年 10 月 「聴覚障害者大学教育支援プロジェクト」の立ち上げに伴い、学内の聴覚障害学生支援に関する拠点として「聴覚障害学生支援プロジェクト室」が設置された。

現在、聴覚障害学生支援プロジェクト室は社会事業研究所に属し、聴覚障害学生に必要な支援を提供するとともに、教務課・学生支援課・通信教室・入試広報課等が支援を行う際のアドバイス・リソースを提供している。

## 手話通訳

|           |   |
|-----------|---|
| 利用者数      | 7 名<br>学部生 6 名（通信 3 名）<br>院生 1 名  |
| 手話通訳者数    | 20 名前後（登録制）   |
| サービス提供時間数 | 週 3～4 コマ  |
| 報酬および経費   | 3000～3500 円／時間  |
| 募集方法      | 有資格者を中心に登録いただいている。通訳者同士のネットワークを活用して大学での活動に興味のある方に登録をお願いしている。              |
| コーディネート方法 | 聴覚障害学生の要望に応じて適切な支援者を聴覚障害学生支援プロジェクト室が選定し、依頼している。派遣会社・社団法人等も利用している。         |
| 養成方法      | 大学としての研修等は特になし。聴覚障害学生支援プロジェクト室スタッフが通訳の様子を見て、通訳者と聴覚障害学生のニーズの調整や要望を行うときもあり。 |
| 本学手話通訳の特徴 | 日本手話、対応手話やその他個別のニーズに対応できるように、バラエティに富んだ多くの通訳者に登録をいただいている。                  |

### Check!

聴覚障害学生を「同じスタートライン」に立たせる支援

## 聴覚障害者 大学教育支援プロジェクト

「ろう・難聴者の高等教育の機会の拡充」を目標に、日本財団の助成により 2009 年 10 月にスタートしたプロジェクト。現在は 3 つのプログラムを行っている。

1. 学内学生支援（聴覚障害学生支援プロジェクト室）
2. 手話による教養大学  
聞こえない学生にも、教員との直接対話を通じた深い学び機会を作りたいと設置された科目群。授業は、ろう者の教員・講師によって日本手話を用いて行われる。一般教養科目から、ろう・難聴者に関係の深いものまで幅広い科目が設置されており、取得した単位は卒業単位の一部にできる。
3. ろう・難聴高校生の学習塾  
ろう・難聴の高校生を対象に大学進学を支援する。ろう・難聴者の講師が手話で教えるクラスと、手話通訳・パソコンテイクがついた主に聴者が担当するクラスがあり、自分のコミュニケーション方法、学力に合ったクラスでの受講が可能である。

### 同じスタートラインをめざして

同じスタートラインに立ちたい。  
そして、そこからは自分の足で歩いていきたい。  
そんな聞こえない学生を  
わたしたちは入試から卒業までサポートします。

### 問い合わせ先

日本社会事業大学 聴覚障害学生支援プロジェクト室  
URL http://deafhohproject.com  
FAX 042-496-3064  
（担当者：岡田 n.okada@jcsw.ac.jp）

# 静岡福祉大学

- 支援組織名称 静岡福祉大学学生総合支援センター内  
障害学生支援室
- スタッフ 教員 4 名、職員 1 名

|        |     |     |     |
|--------|-----|-----|-----|
| 聴覚障害学生 | (注) | 学部生 | (注) |
| 視覚障害学生 | (注) | 院生  |     |
| 肢体障害学生 | (注) |     |     |

注：個々の障害形態と学生数についてはプライバシー保護のため原則として公表していません。

## ノートテイク(手書き)・パソコンノートテイク

|                        |  |     |     |
|------------------------|--|-----|-----|
| 提供しているサービス             | ◎ノートテイク(手書き)<br>◎ポイントテイク(手書き)※<br>◎パソコンノートテイク                  |     |     |
| 利用者数                   | (注)  | 学部生 | (注) |
|                        |  | 院生  |     |
| ノートテイク数                | 16 名 (NT 10 名/PC 6 名)  |     |     |
| サービス提供時間数              | 週 19 コマ  |     |     |
| 報酬および経費                | 1,000 円/時間 (+交通実費)   |     |     |
| 募集方法                   | 学内外の掲示板にノートテイク募集案内を掲示。   |     |     |
| コーディネート方法              | 学生教務課職員が連絡調整を担当し、障害学生支援室が協力。                                   |     |     |
| 養成方法                   | 「パソコンノートテイクの技法」(半期 2 単位)を開講するほか、本学教員主宰のノートテイク勉強会を開催。           |     |     |
| 本学ノートテイク・パソコンノートテイクの特徴 | ・本学教員が監修した専用ソフト「まあちゃん」を活用。<br>・聴覚障害学生にとどまらず視覚障害、肢体不自由学生等も利用する。 |     |     |

### Check!

障害学生支援室では、「障害のあるなしにかかわらず、ともに社会参加できる」教育環境を実現するための役割を担います。そうした環境を通じて私たちは、学生が本校を卒業したとき自らに必要な支援とは何か、第三者に説明し、主体的に最適な環境を作り上げていくことができるような方向を目指します。当事者によるセルフマネジメントの力をつけること、それは本学が掲げる「福祉力」の向上にもつながります。

## 文部科学省科学研究費補助金を活用した支援の構築を計画

文部科学省科学研究費(基盤研究B)を活用し、2009 年度から 2013 年度の 5 か年を通じ、「高等教育機関における障害学生『情報コミュニケーション』支援システムの構築」(研究代表者：太田教授)を研究課題として実施中である。支援方法であるノートテイクを聴覚障害にとどまらず、視覚障害、肢体不自由を含む障害学生の情報バリアフリーシステムとして位置づけ、障害種別を超えた総合的な支援を模索している。

|      |                                |
|------|--------------------------------|
| 設置形態 | 私立大学                           |
| 学生数  | 728 人 (2012 年 10 月 1 日現在)      |
| 所在地  | 〒425-8611<br>静岡県焼津市本中根 549 番 1 |

学内支援組織図 学生総合支援センター内  
障害学生支援室(各学科教員及び職員より構成)

## 手話通訳

|           |  |     |     |
|-----------|--|-----|-----|
| 利用者数      | (注)                                    | 学部生 | (注) |
|           |  | 院生  |     |
| 手話通訳者数    | 地域の公的派遣制度(公費派遣と本学費用負担派遣を併用)を活用することもある。 |     |     |
| サービス提供時間数 | 必要時                                    |     |     |
| 報酬および経費   | (公的派遣基準)                               |     |     |
| 募集方法      | 公的派遣機関に依頼                              |     |     |
| コーディネート方法 | 学生本人、学生課職員、障害学生支援室長が公的派遣機関に依頼。         |     |     |
| 養成方法      | (手話通訳の養成はしていない)                        |     |     |
| 本学手話通訳の特徴 | 専門用語が頻出する。                             |     |     |

※ポイントテイクとは、聴覚障害以外の障害学生を対象に、板書の筆写、重点項目の筆記等、授業で伝達される情報のうち、ポイントに絞ったノート記録を指す。

サービス向上を目指して：障害学生支援の課題の一つは、支援費用の持続的な確保にあります。そこで本学では私立大学等経常費補助金の活用はもちろんのこと、県共同募金会への申請等、さまざまな知恵を絞っていますが、基本的な考え方として公的な保障が欠かせないと考えます。障害のあるなしにかかわらず学習権を保障する方向を誰もが当然のこととして認める社会の到来を心から願っています。

参考資料 <http://www.suw.ac.jp/>

問い合わせ先：静岡福祉大学 事務部入試広報室  
TEL054-623-7451 FAX054-623-7453  
E-mail [siryo@suw.ac.jp](mailto:siryo@suw.ac.jp)

# 愛知教育大学

- 支援組織名称 障害学生支援ワーキンググループ (WG)  
情報保障支援学生団体「てくてく」・教務課
- スタッフ WG 教員 5 名・「てくてく」スタッフ、教務課職員

|        |     |     |     |
|--------|-----|-----|-----|
| 聴覚障害学生 | 3 名 | 学部生 | 3 名 |
|        |     | 院生  | 0 名 |
| 視覚障害学生 | 1 名 |     |     |
| 肢体障害学生 | 0 名 |     |     |

|      |   |
|------|---|
| 設置形態 | 国立大学法人  |
| 学生数  | 4366 名 (学部 3976・大学院・367・専攻科 23)                       |
| 所在地  | 〒448-8542<br>愛知県刈谷市井ヶ谷町広沢 1<br>(名鉄本線「知立駅」より名鉄バス 20 分) |

|  |        |
|--|--------|
| 学内支援組織図  | 聴覚障害学生 |
|  | ↓ ↑    |
| 支援学生団体「てくてく」・障害学生支援 WG 教員・教務課                        |        |
|  | ↓ ↑    |
| 情報保障者、事務職員 (学生支援部・教務課・学生支援課、<br>キャリア支援課・入試課、財務部・施設課) |        |

## パソコンテイク・ノートテイク

|                      |   |     |     |
|----------------------|---|-----|-----|
| 提供しているサービス           | パソコンテイク・ノートテイク  |     |     |
| 利用者数                 | 3 名   | 学部生 | 3 名 |
|                      |   | 院生  | 0 名 |
| ノートテイク数              | 85 名 (講義担当 45 名、約 10 名が DVD・ビデオ等の字幕付けの担当)   |     |     |
| サービス提供時間数            | 週 34 コマ (すべて PC テイク)  |     |     |
| 報酬および経費              | 2250 円 / 1 コマ (90 分)<br>(支援学生 1 名につき 1125 円支給。各講義 2 名配置。)   |     |     |
| 募集方法                 | (PC) 新年度のガイダンス等で、全学的に有志の学生を募集している。<br>(NT) 専門性を必要とする英語・第二外国語・数学・理科等の講義は、関係する講座の教員に専門性の高い学生を推薦・紹介してもらっている。 |     |     |
| コーディネート方法            | 学生コーディネーターが、聴覚障害学生のニーズを把握し、各種配置、コーディネート業務を行っている。  |     |     |
| 養成方法                 | 週 2 日 (月・木)・昼休みを利用して、連絡および研修する場を設けており、年数回、休日に練習会を開催している。  |     |     |
| 本学ノートテイク・パソコン要約筆記の特徴 | 携帯連絡システムによる情報交換・中間・事後報告会等の実施を重ねながら、量的・質的向上を図っている。   |     |     |

## その他の支援

|                        |   |
|------------------------|---|
| 学外手話通訳者の派遣             | 授業の形態によって、週 1～2 コマ程度、学外手話通訳者の派遣を依頼している。(パソコンテイク・ノートテイクとの併用も可能。10000 円 / 1 コマ (90 分)、通訳者 1 名につき 5000 円支給。2 名配置。) |
| 視聴覚教材の字幕作成             | 講義で視聴覚教材を使用する場合は、事前にメディアを借り、字幕付けの作業を行っている。  |
| 音声認識システムを用いた支援学生の負担軽減  | 市販の音声認識ソフトウェアを、主に視聴覚教材の文字起こし作業に利用している。  |
| 式典、各種説明会での情報保障         | 式典や、大学が主催する講義以外の各種行事 (教務ガイダンス、オープンキャンパスなど) で、主にパソコンノートテイク・手話通訳による情報保障を行っている。                                    |
| 無線 LAN を用いた離れた場所での情報保障 | 講義中、支援学生が聴覚障害学生の隣に居ることは、聴覚障害学生にとって心理的な負担となる。そのため、基本的に、教室内の離れた場所での、入力支援を行っている。                                   |

Check!

学生のノートテイク・パソコンノートテイク、学外手話通訳者による情報保障

## 聴覚障害学生の充実した学生生活の支援

- (1) 情報保障学生団体「てくてく」の活動 全学的に 52 名の学生が支援活動に係わり、聴覚障害学生とともに学内の支援に関して情報交換・研修を行っている。
- (2) 他大学の支援活動 東海地区の大学より要請があれば研修会を開催し、本学の支援活動のノウハウを紹介している。
- (3) 様々な聴覚障害学生の支援
  - 1) 講義の情報保障 ノートテイク、パソコンテイク、手話通訳による支援が、聴覚障害学生のニーズに応じて実施されている。
  - 2) 講義以外の情報保障 入学式・卒業式などの各種行事、各種実習、ガイダンス時の情報保障も実施している。
  - 3) 教育実習での配慮 聴覚障害学生の小学校教育実習は、附属小学校又は通常小学校での実習を、県内聾学校の小学部実習に振り替えることができる。

### サービス向上を目指して

- ・聴覚障害学生は、特別支援学校教員養成課程に在籍しているため、同課程内の聴者の学生の各種支援に関する問題意識が高いこと等、恵まれた環境にある。
  - ・情報保障者が担当できる時間帯などに制約があり、一部の学生に作業が集中するといったことが生じている。
- 課題を整理し、よりよいサービスを目指していきたい。

参考資料 「愛知教育大学 障害学生支援ガイド」  
「愛知教育大学 聴覚障害学生の情報保障 教員用ガイドブック」  
「愛知教育大学 保障団体『てくてく』 リーフレット」

問い合わせ先 注) ①情報教育講座、②障害児教育講座  
① 高橋 岳之 e-mail: take@aecc.aichi-edu.ac.jp  
② 岩田 吉生 e-mail: yiwata@aecc.aichi-edu.ac.jp

# 日本福祉大学

- 支援組織名称 日本福祉大学障害学生支援センター  
URL <http://www.n.fukushi.ac.jp/shiencenter/index.htm>
- スタッフ センター長1名 センター教員1名、  
専任職員1名、委託職員2名

|        |     |     |     |
|--------|-----|-----|-----|
| 聴覚障害学生 | 56名 | 学部生 | 47名 |
|        |     | 院生  | 0名  |
|        |     | 通信  | 9名  |
| 視覚障害学生 | 32名 |     |     |
| 肢体障害学生 | 93名 | その他 | 69名 |

|      |                          |
|------|--------------------------|
| 設置形態 | 私立大学                     |
| 学生数  | 5347人（院生、通信を含むと12,629人）  |
| 所在地  | 〒470-3295<br>愛知県知多郡美浜町奥田 |

## 学内支援組織図

障害学生支援センターは全学学生支援機構の一機関

障害学生支援センター運営委員会（各学部の教員、教務・就職関係職員、学生生活センター職員で構成）

## ノートテイク・パソコン要約筆記

|                      |  |     |     |
|----------------------|--|-----|-----|
| 提供しているサービス           | ■ノートテイク■パソコンテイク  |     |     |
| 利用者数                 | 38名  | 学部生 | 38名 |
|                      |  | 院生  | 0名  |
| ノートテイク数              | ノートテイク 113名<br>パソコンテイク 23名   |     |     |
| サービス提供時間数            | 103コマ/週（2012年前期）   |     |     |
| 報酬および経費              | ボランティア（奨励金支給）  |     |     |
| 募集方法                 | 入学当初のオリエンテーションやボランティア論等の講義で聴障学生が呼びかけ。各自が掲示板に募集ポスターを掲示。障害学生支援センターのボランティア登録者へ依頼。 |     |     |
| コーディネート方法            | 聴覚障害学生自身が直接依頼するか、障害学生支援センターからボランティア登録者へ依頼する。                                   |     |     |
| 養成方法                 | ボランティア基礎講座（外部講師）<br>ノートテイク相談会、ボランティア講座（学生主催）、サークルによる練習など。                      |     |     |
| 本学ノートテイク・パソコン要約筆記の特徴 | 複数の聴覚障害学生が受講している場合は、OHCを利用。設置は障害学生支援センターで実施。経験ある学生と障害学生が学生スタッフとして、運営・指導に協力。    |     |     |

## ともに考える支援

|               |  |
|---------------|--|
| 障害学生支援センターの設置 | 学習支援や生活支援の方法は、障害学生・支援学生・教職員が一緒に考えます。<br>障害学生の生活から、ボランティア活動支援まで、障害学生支援センターがさまざまな相談に応じています。                  |
| 入学式での手話通訳者設置  | 入学式、卒業式、全学的な講演会、受講ガイダンスなどで設置   |
| 磁気ループの敷設      | 大講義室の全教室（1～5号館）、1101教室、文化ホール、図書館AVホール、半田キャンパス101教室   |
| 字幕            | 講義に利用するVTRについて、学生サークル「くまじ」が字幕付けソフトを利用して字幕を付けている。<br>字幕が間に合わない場合には、ボランティア登録学生が分担して、音声文字化し、プリントアウトして障害学生に渡す。 |
| 手話通訳派遣事業      | 2010年度から、2・3年生の希望者のゼミへ、年15回まで派遣。   |

## 支援サークルの活動

### 学生が「ともに学び、ともに育つ」

- ・点訳サークル「にゅーてんてん」…講義資料等の点訳
  - ・音訳サークル「ふきっこ」…資料の音訳、読み聞かせ
  - ・字幕づけ「くまじ」…教材VTRの字幕づけ
  - ・パソコンテイク「PCT」…パソコンテイク
  - ・学生スタッフ…ノートテイク初心者への指導、機材のセッティング、ボランティア講座への協力、ボランティア団体の連携支援
- ※聴覚障害者団体や視覚障害者団体も、障害学生支援センターの事業に協力しています。

### 参考資料

障害学生のためのキャンパスガイド、  
障害学生支援センター年報（当センター発行）

### 問い合わせ先

日本福祉大学障害学生支援センター  
TEL: 0569-87-2432 FAX: 0569-87-2376  
Email: support-c@ml.n-fukushi.ac.jp



## 金沢大学 大学教育開発・支援センター

●支援組織名称 大学教育開発・支援センター  
http://www.rche-kanazawa-u.jp/

●スタッフ 教員 5 名（専任職員 0 名）

|        |     |     |     |
|--------|-----|-----|-----|
| 聴覚障害学生 | 2 名 | 学部生 | 2 名 |
|        |     | 院生  | 0 名 |
| 視覚障害学生 | 1 名 |     |     |
| 肢体障害学生 | 6 名 |     |     |

|      |                             |
|------|-----------------------------|
| 設置形態 | 国立大学法人                      |
| 学生数  | 10,499 名（平成 24 年 5 月 1 日現在） |
| 所在地  | 〒920-1192<br>石川県金沢市角間町      |

障害学生支援委員会

教育担当副学長（委員長）

大学教育開発・支援センター長

保健管理センター長

学生部担当課長他

## ノートテイク・パソコン要約筆記

|                      |  |     |     |
|----------------------|--|-----|-----|
| 提供しているサービス           | ノートテイク、パソコンノートテイク  |     |     |
| 利用者数                 | 1 名  | 学部生 | 1 名 |
|                      |  | 院生  | 0 名 |
| ノートテイク数              | 17 名   |     |     |
| サービス提供時間数            |  |     |     |
| 報酬および経費              | 950 円／1 時間（学生部予算）  |     |     |
| 募集方法                 | 掲示板に募集ポスターを掲示。学内ポータルにおける募集。                                |     |     |
| コーディネート方法            | 共通教育科目（教養科目）に関しては共通教育学務係が、専門科目に関しては聴覚障害学生の所属している学類学務係が担当。  |     |     |
| 養成方法                 | 学外の講師によるノートテイク養成講座（障害学生支援委員会主催）を年度末に開催。支援学生がいる場合には、前期にも実施。 |     |     |
| 本学ノートテイク・パソコン要約筆記の特徴 | 近隣の他大学から依頼を受けて、ノートテイクによる派遣の実績有り                            |     |     |

## その他の支援

|              |         |
|--------------|---------|
| 入学式での手話通訳者設置 | 学外組織に依頼 |
| 磁気ループの敷設     |         |
| 字幕デコーダーの設置   |         |
|              |         |
|              |         |
|              |         |
|              |         |

Check!

多様な障害に対する、研究に基づく  
有効な支援方策を学内外に提言

## トピック

センター企画の 1 年前期共通教育科目「学生と大学システム」（自由履修）において、15 回のうち 2 回、聴覚に障害のある社会人を手話通訳付きで講師としてお願いしている。授業情報保障が無かった大学での学生生活を振り返っていただき、聴覚障害学生にとって、大学での授業は情報保障がなければ、理解は不可能であることを語ってもらっている。

ノートテイクを、担当時間数に応じて、学長表彰および副学長表彰の対象者として推薦している。

学校教育学類の障害児教育担当教員との連携を図っている。  
大学コンソーシアム石川との連携を常に心がけている。

## サービス向上を目指して

聴覚障害学生の入学は無かったが、視野狭窄の学生が入学し、平成 24 年度より授業情報保障としてノートテイクを行っている。平成 25 年度以降、文部科学省の「大学間連携共同教育推進事業」に採択された取り組みの一事業として、大学コンソーシアム石川加盟高等教育機関におけるノートテイクの合同養成とバンク化に着手する予定である。大学間連携でノートテイクを融通しあい、地域の障害学生支援力を一緒に向上させたいと考えている。

問い合わせ先

教育支援システム研究部門 担当：青野 透  
aono@staff.kanazawa-u.ac.jp

# 同志社大学

●支援組織名称 障がい学生支援室（事務局：京田辺校地学生支援課）  
URL <http://challenged.doshisha.ac.jp/>

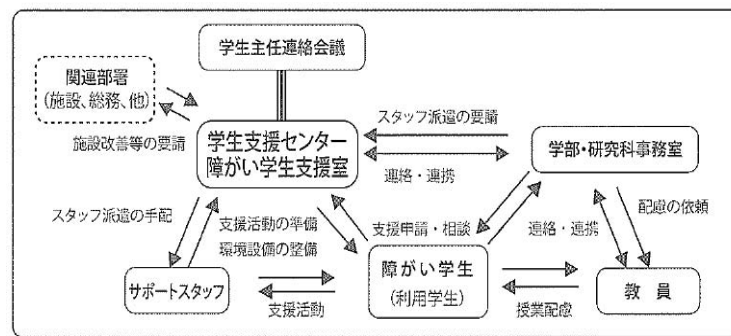
●スタッフ 職員 6 名（うち手話通訳者 1 名）

|         |      |
|---------|------|
| 聴覚障がい学生 | 51 名 |
| 視覚障がい学生 | 10 名 |
| 肢体障がい学生 | 24 名 |
| 内部障がい学生 | 12 名 |

\* その他 重複障がい学生 2 名

|      |   |
|------|---|
| 設置形態 | 私立大学  |
| 学生数  | 28,642 人（2012 年 5 月 1 日現在、大学院生含む）   |
| 所在地  | 【京田辺校地】<br>〒610-0394 京田辺市多々羅都谷 1-3<br>【今出川校地】<br>〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入 |

学内支援組織図



## ノートテイク・パソコン通訳

|                    |  |     |     |
|--------------------|--|-----|-----|
| 提供しているサービス         | ノートテイク（NT）、パソコン通訳（PC）  |     |     |
| 利用者数（聴覚）           | 制度登録<br>8 名  | 学部生 | 8 名 |
|                    |  | 院生  | 0 名 |
| ノートテイク者数           | 2012 春スタッフ登録 274 名（8 月現在）  |     |     |
| パソコン通訳者数           | 2012 春活動者 93 名   |     |     |
| サービス提供時間数          | 2012 春学期：週 81 コマ（NT コマ／PC コマ）  |     |     |
| 報酬および経費            | 880～1,320 円／時間（大学経費）   |     |     |
| 募集方法               | 入学時説明会・掲示板・立看板・HP・案内パンフレット・学生支援課企画の映画や大型ビジョンによる募集  |     |     |
| コーディネート方法          | 障がい学生支援室のコーディネーターが障がい学生の相談窓口となり支援スタッフの募集・養成・派遣・相談等調整を担当。障がい学生在籍学部事務室を始め全学的に入学前から連携をとり対応。 |     |     |
| 養成方法               | 前期、後期にノートテイク・パソコン通訳事前勉強会・入門講座を継続的に開催。その他、随時希望があれば対応。                                     |     |     |
| 本学ノートテイク・パソコン通訳の特徴 | 学期前面談により、利用学生のニーズに合わせた講義保障を提供。学期末に懇談会の実施。複合領域科目として夏期集中講義『「こころのバリアフリー」を考える』を開講（単位付与）。     |     |     |

## ビデオ文字起こし・字幕付け

|           |  |     |     |
|-----------|--|-----|-----|
| 利用者数（聴覚）  | 制度登録<br>8 名  | 学部生 | 8 名 |
|           |  | 院生  | 0 名 |
| 字幕付け数     | 13 本（2012 年春学期実績）  |     |     |
| 報酬および経費   | 880／時間（大学経費）   |     |     |
| 募集方法      | 入学時説明会・掲示板・立看板・HP・学生支援課企画の映画や大型ビジョンによる募集                   |     |     |
| コーディネート方法 | 障がい学生支援コーディネーターが窓口となり、利用学生および担当教員の依頼に応じて対応。字幕付け専用ソフト・PC 有。 |     |     |
| 養成方法      | 勉強会を適宜実施。  |     |     |

## 手話通訳

手話通訳についても対応しております。入学式・卒業式・クリスマス燭火讃美礼拝は、聴覚に障害のある学生・ご父母のため、手話通訳を必ず実施しております。

Check!

全学的な組織による講義保障！  
（学生同士の関わりの中で育む制度）

## コミュニケーション・デバイトの克服

障がい学生のみではなく、支援スタッフにも着目し、学生同士の関わりの中で自然に手をさしのべられるような大学を目指す。

具体的な場の設定・・・2012 年度

・ランチタイム手話

聴覚障がい学生を囲みランチをとりながら手話でおしゃべり

・Challenged キャンプ（2泊3日 岡山県）・・・2012 年度

障害のある学生と共に、聞こえない・暗闇・車いす等の体験を通し、サポートするされるという枠を超えたキャンプ

・「こころのバリアフリー」を考えるー共に生きる社会をめざしてー（複合領域科目）

障がい者を取り巻く状況・実情を踏まえつつ、「コミュニケーションのバリアフリー」をキーワードとして、障がい者とそれを支援する人々双方の気付きに着目しながら、自律的な成長の実現を目指す。

## サービス向上を目指して

約 28,000 人の学生が在学している中で、障がい学生支援スタッフは約 1% という状況である。合格者の第一次手続き者への郵送物に「障がい学生支援制度一案内パンフレット」を封入し、全教職員に「障がい学生支援制度一教職員のためのガイド」を配布しているが、もっと身近な取り組みとしてサポートを行えるよう、啓発していかなければならない。また、障がい学生のキャリア形成・就職支援についてもキャリアセンターと共に取り組んでいる。

参考資料

障がい学生支援制度一案内パンフレットー

問い合わせ先

学生支援センター 京田辺校地学生支援課 障がい学生支援室  
tel 0774-65-7411 fax 0774-65-7024

# 立命館大学

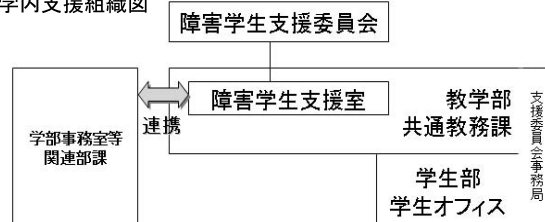
●支援組織名称 立命館大学障害学生支援室

●スタッフ 専門契約職員 1 名、学生スタッフ 41 名

|        |     |     |     |
|--------|-----|-----|-----|
| 聴覚障害学生 | 9 名 | 学部生 | 8 名 |
|        |     | 院生  | 1 名 |

|               |                            |
|---------------|----------------------------|
| 設置形態          | 私立大学                       |
| 学生数           | 35,227 人                   |
| 所在地<br>(法人本部) | 〒604-8520<br>京都市中京区西ノ京朱雀 1 |

学内支援組織図



## ノートテイク・パソコン要約筆記

|                      |   |     |     |
|----------------------|---|-----|-----|
| 提供しているサービス           | ノートテイク、パソコン要約筆記、FM マイク使用等   |     |     |
| 利用者数                 | 3 名   | 学部生 | 2 名 |
|                      |   | 院生  | 1 名 |
| ノートテイク数              | 30 名  |     |     |
| サービス提供時間数            | 週 18 コマ   |     |     |
| 報酬および経費              | 800 円/時間 (1 コマあたり 2 時間)   |     |     |
| 募集方法                 | 講習会を開催し、受講者のうち希望者をスタッフとして登録。専門性の高い授業の場合は教員・学部事務室を通して募集。             |     |     |
| コーディネート・養成方法         | 障害学生支援室にてテイク講習や連携練習を実施。学部・語学など属性に合わせてコーディネート。その際、学生コーディネーターが活躍している。 |     |     |
| 本学ノートテイク・パソコン要約筆記の特徴 | ノート・パソコンテイクだけでなく、教員、受講生への配慮依頼、席の配置、機器の使用などを組み合わせて、最適な方法を追求している。     |     |     |

Check!

### 全学受付窓口の設置

障害学生・支援学生スタッフ・教員・職員の一貫相談受付窓口設置 (障害学生支援室)

## その他の支援

|                |   |
|----------------|---|
| 入学式・卒業式での配慮    | 希望に従って、手話通訳、車椅子の誘導、ガイドヘルプなどを配置。   |
| 視覚障害学生の授業支援    | 教材加工、映像解説、試験時の点訳・墨訳等  |
| 肢体不自由学生の授業支援   | ポイントテイク (ノート作成)、介助、定期試験時の配慮等  |
| 専用パソコン室の設置     | 肢体不自由学生用 (音声入力ソフト・トラックボールマウス等)、視覚障害学生用 (音声読み上げソフト、点訳ソフト、点字プリンタ、拡大読書器) の機器を設置、支援室開室時に使えるように整備。 |
| 学生ルームの設置       | 学生スタッフの活動拠点となる学生ルームを障害学生支援室横に設置。障害学生との交流の場としても活用されている。  |
| 教員への配慮文・手引きの配布 | 授業担当教員に配慮文・手引きを配布し、随時障害学生支援室にて教員のサポートを行っている。  |
| 講習会開催          | ノート・PC テイク、介助等の講習会を年 5 回以上開催。   |

## 学生スタッフ

立命館大学では、従来からボランティアとして障害学生を支援してきた学生と、各種講習会に参加した学生が中心となって、障害学生の支援を行っています。

特徴としては、学生のコーディネーターが、シフト組みや障害学生・支援学生のメンター的な役割を担い、チームを組んで支援を行うなど、学生同士の関係構築に力を入れています。

障害学生と、学生スタッフ両方の成長につながる仕組みづくりに取り組んでいます。

### 取り組み

★ 各種講習会の実施  
ガイドヘルプ講座、PC・ノートテイク講座など

★ 密な連絡体制  
ミーティング、メーリングリストなどで活動状況を把握、連絡体制を取っています。



### 参考資料

HP <http://www.ritsumeai.ac.jp/acd/ac/kyomu/drc/>

### 問い合わせ先

立命館大学障害学生支援室  
Tel 075-465-1952 Fax 075-465-1982  
E-mail [drc@st.ritsumeai.ac.jp](mailto:drc@st.ritsumeai.ac.jp)

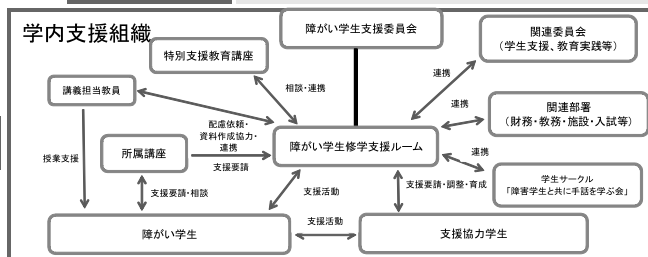
# 大阪教育大学

●支援組織名称 大阪教育大学 障がい学生修学支援ルーム

●スタッフ 教員 2 名、職員 2 名

障害学生数 6 名

|      |                                |
|------|--------------------------------|
| 設置形態 | 国立大学                           |
| 学生数  | 4664 人                         |
| 所在地  | 〒582-8582<br>大阪府柏原市旭ヶ丘 4-698-1 |



## ノートテイク・パソコン要約筆記

|                      |   |
|----------------------|---|
| 提供しているサービス           | ノートテイク パソコンテイク<br>要約筆記 手話通訳   |
| 利用者数                 | 6 名   |
| ノートテイク人数             | 35 名 (NT 33 名/PC 23 名/手話通訳 16 名)  |
| サービス提供時間数            | 週 25 コマ (NT 4 コマ/PC 21 コマ)  |
| 報酬および経費              | 1000 円/時間   |
| 募集方法                 | 掲示板に募集ポスターを掲示、入学ガイダンス時にチラシを配布、支援協力学生による講義室での PR 活動  |
| コーディネート方法            | 学期開始前に学生とコーディネーター、支援ルーム担当者、学生調整担当者が面談を行い、ニーズを確認したうえで、学生調整担当者を中心にコーディネートを行う。<br>また、授業開始前にコーディネーターと支援ルーム担当者が授業担当教員に直接会い、学期を通じて密に連絡・相談を行う。 |
| 養成方法                 | コーディネーターによるガイダンスを障がいのある学生、支援協力学生ごとに学期前に実施。昼休みに手話講習会、パソコン講習会、ノートテイク講習会を開催。   |
| 本学ノートテイク・パソコン要約筆記の特徴 | 支援協力学生には「聴覚障害学生と共に手話を学ぶ会」のサークル構成員が多く、手話通訳のスキルも備えている者の割合が高い。授業内容によっては、急な通訳方法の変更にも対応する。   |

## その他の支援

|                |  |
|----------------|--|
| 文字おこし          | 講義で視聴覚教材を使用するときは、支援協力学生が文字おこしを作成する。<br>【報酬および経費】<br>1000 円/15 分 (映像データ)  |
| 各種行事・説明会での情報保障 | 要請に応じ、必要な行事・説明会にも支援協力学生を派遣し、情報保障を行っている。<br>式典には必要に応じ、外部の通訳士を派遣することもある。   |
| 教職員対象講習会       | 教職員を対象とした発達障がいに関する講習会を実施している。<br>(平成 24 年は柏原キャンパス・天王寺キャンパスにて各 1 回ずつ実施予定) |
| 別室対応           | 発達障がいのある学生に対し、遠隔講義システムの活用と、居場所を確保している。                                   |

**Check! 特任教授によるコーディネート**  
臨床心理士でもある特任教授がコーディネーターとして障がいのある学生と随時面談を行います。  
支援協力学生のサポートにも全面的に協力し、「すべての学生が共に気持ちよく学べる」大学を目指します。

**特別支援教育講座がある大学**  
障がい学生一人ひとりに応じたよりよい支援活動を実施するために、特別支援教育講座の先生方とも常時連携しています。

**歴史と伝統のある学生による支援活動**  
学生サークル「聴覚障害学生と共に手話を学ぶ会」を中心に講義保障活動を展開してきたノウハウや思いを大切に生かしていきます。

## トピック

平成 24 年度に障がい学生修学支援ルームが設置されました。夏休みには「研修合宿」を実施し、聴覚障がい、視覚障がいのある学生と支援協力学生、教職員が参加しました。理解を深め、課題を話し合うことで、ともに成長していきます。

### 【「研修合宿」プログラム】

- ・宮城教育大学特別支援コーディネーターによる講演
- ・視覚障がいのある学生による音楽コンサート (手話通訳学生とのセッション・視覚障がい、聴覚障がい体験)
- ・流しそうめんを食べながらの交流会
- ・夜のミーティング・朝のミーティング

## サービス向上を目指して

障がい学生と支援協力学生が普段からの交流を通じて互いの理解を深め、より質の高い支援活動につなげていけるよう、ミーティングや勉強・研修、休憩時間などに常時できるオープンスペースの確保について、取組を進めている。

### 参考資料

<http://osaka-kyoiku.ac.jp/university/kikaku/news/2012/0701shougailaif.html>

### 問い合わせ先

障がい学生修学支援ルーム TEL・FAX 072-978-3479

# 関西学院大学

● 支援組織名称 ・ 総合支援センターキャンパス自立支援室  
[http://www.kwansei.ac.jp/university/university\\_003952.html](http://www.kwansei.ac.jp/university/university_003952.html)

● スタッフ 職員 8 名（うちコーディネータ 3 名）

センター委員 8 名

|        |                      |     |      |
|--------|----------------------|-----|------|
| 聴覚障害学生 | 10 名                 | 学部生 | 10 名 |
|        |                      | 院生  | 0 名  |
| 視覚障害学生 | 9 名（学部生 7 名 院生 2 名）  |     |      |
| 肢体障害学生 | 13 名（学部生 9 名、院生 4 名） |     |      |

## ノートテイク・パソコンテイク

|                     |   |     |     |
|---------------------|---|-----|-----|
| 提供しているサービス          | <b>■ ノートテイク</b><br><b>■ パソコンテイク</b>   |     |     |
| 利用者数                | 9 名   | 学部生 | 8 名 |
|                     |   | 院生  | 1 名 |
| ノートテイク数             | 240 名（字幕付けスタッフ含む）   |     |     |
| サービス提供時間数           | 2012 春学期 週 84 コマ  |     |     |
| 報酬および経費             | 1000 円/時間   |     |     |
| 募集方法                | 募集ポスター・チラシ・立て看板・<br>教学 WEB サービスにより募集。すでに参加している学生による口コミも活用。  |     |     |
| コーディネート方法           | コーディネータが、ノートテイクの配置・連絡・調整を担当。ML を活用し、代理テイクの確保・連絡等を行っている。   |     |     |
| 養成方法                | ノートテイク養成講座（6 時間）を学期開始前に実施（聴覚障がい学生や先輩テイクが講師として協力）。中間ミーティングで各授業支援方法を見直し、改善案をその学期に活かす。   |     |     |
| 本学ノートテイク・パソコンテイクの特徴 | パソコンテイクは、パソコンテイク 2 人に手書きサポート 1 人を加えた 3 人体制で実施している。授業の情報保障では、パソコンテイクは IPTALK を使用せず、WORD に単独入力し、10 分程度で相手テイクと交替する方式。講演会など、行事の情報保障では、IPTALK を使用することもある。<br>学期末にはアンケートを実施し、毎学期末ごとに意見交換会の場を持ち、制度運営の見直しを行う。 |     |     |

### 参考資料

関西学院大学（総合支援センターキャンパス自立支援室）

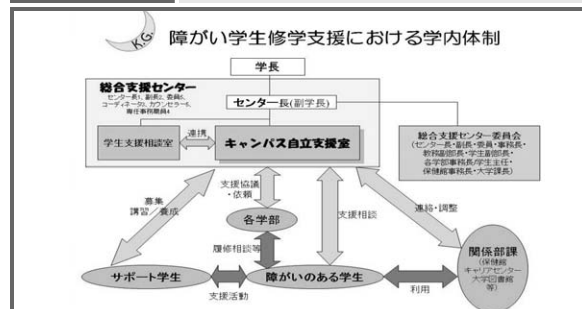
<http://www.kwansei.ac.jp> → キーワード「修学支援」で検索

### 設置形態

私立大学

### 所在地

（西宮上ヶ原キャンパス）〒662-8501  
 兵庫県西宮市上ヶ原一番町 1-155  
 （神戸三田キャンパス）〒669-1337  
 兵庫県三田市学園 2-1  
 （聖和キャンパス）〒662-0827  
 兵庫県西宮市岡田山 7-54



## その他の支援

|  |   |
|--|---|
| カウンセラーとの連携                             | 総合支援センター学生支援相談室のカウンセラーと合同で事例検討会を開催するなど、連携して障がい学生支援を行っている。                         |
| 手話通訳                                   | 講演会などの学内行事に、必要に応じて手話通訳者を配置する。2011 年度は研究演習科目（ゼミ）にも配置している。                          |
| キャリアガイダンス等各種行事への手話通訳・ノートテイク・パソコンテイクの派遣 | 障がい学生から依頼があった場合は派遣する。   |
| 電磁誘導ループ                                | 大教室を中心に設置している。  |
| ビデオ文字起こし・字幕付け                          | 年間 50 本（2011 年度）  |
| 学生フリースペース                              | 支援センター事務スペースに隣接して学生の交流スペースを設置。言語科目として日本手話を選択履修している支援学生もおり、時折、手話によるコミュニケーションが見られる。 |
| 聴覚以外の障がい支援                             | 発達障がい、視覚障がい、肢体障がい等、学生の困り具合に応じて個別対応を行っている。   |

### Check!

#### 建学の精神に基づいた全学的支援

大学の掲げるミッションステートメントと障害者支援基本理念に根ざし、全学的な支援体制をとっています。総合支援センター委員会には 40 名以上の教職員が集まって、支援基本方針等を審議します。

### 問い合わせ先

総合支援センターキャンパス自立支援室  
 西宮上ヶ原キャンパス

〒662-8501 兵庫県西宮市上ヶ原一番町 1-155

電話：0798-54-7034 FAX 0798-54-7044

E-mail: jiritsu-nuc@kwansei.ac.jp

神戸三田キャンパス

〒669-1337 兵庫県三田市学園 2-1

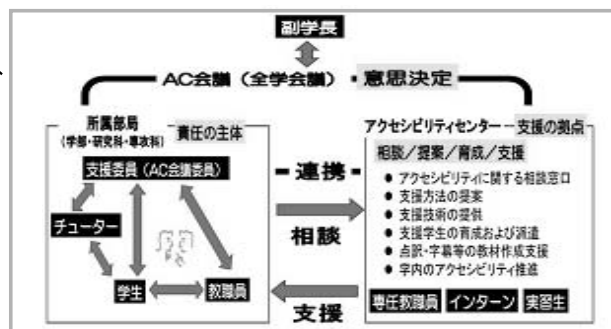
電話：079-565-7903 FAX 079-565-7929

# 広島大学

- 支援組織名称 アクセシビリティセンター
- スタッフ センター長1名、教員3名、情報支援コーディネーター2名、事務系職員2名、ティーチングアシスタント4名、学生インターン20～30名、実習受講生40名程度

|        |    |
|--------|----|
| 聴覚障害学生 | 3名 |
| 視覚障害学生 | 4名 |
| 肢体障害学生 | 6名 |
| その他    | 7名 |

|      |                            |
|------|----------------------------|
| 設置形態 | 国立大学                       |
| 学生数  | 約15000人                    |
| 所在地  | 〒739-8511<br>東広島市鏡山一丁目3番2号 |



## ノートテイク・パソコン要約筆記

|                      |   |
|----------------------|---|
| 募集方法                 | 教養教育科目「障害学生支援ボランティア実習A,B(以下、実習)」を開講/アクセシビリティセンター(以下、ACHU)でインターン(※AL資格取得者)を採用。<br>※AL:アクセシビリティリーダー           |
| コーディネート方法            | 当該部局をACHUが支援。ACHUは、実習生、インターンの派遣コーディネートを行う。  |
| 養成方法                 | アクセシビリティ関連講義(教養教育4科目:実習、概論、研究)の中で、筆記通訳、要約筆記の方法を指導。派遣のニーズに応じて、ノートテイク講習会を開催。ACHUで技術相談・ケアを行う。                  |
| 本学ノートテイク・パソコン要約筆記の特徴 | ●学内の支援活動を行う授業(実習)を開講。●AL育成プログラムによる人材育成●代筆と筆記通訳の組み合わせにより、3つのタイプのテイクを実施。●リスピーク通訳等、遠隔通訳との組み合わせを試行●USBサブモニタの導入。 |

Check!

入学前から卒業まで、育てる支援  
全学体制、学生教職員一体型の授業支援

## その他の支援

|                        |   |
|------------------------|---|
| 音声認識技術を活用した教育支援        | ●講義音声の字幕化:音声認識技術を活用して、音声字幕付教材を作成(講義音声+字幕+プレゼン画面)。講義終了後、音声字幕付教材をWEB配信。<br>●リスピーク方式による、リアルタイム音声字幕化を試行。  |
| 卒業式での手話通訳              | 必要に応じて実施。   |
| ビデオ教材の字幕作成支援           | 字幕台本を作成し、事前配布。教材によっては動画への字幕付与を行なう。  |
| 筆談ボードの設置               | 各学部の学生窓口に設置。  |
| 障害学生への窓口対応パンフレットの配布    | 各学部の学生窓口、保健管理センター、図書館の職員へ配布。  |
| 補聴システムの設置              | 赤外線・FM・有線補聴システムを活用。   |
| 学生情報システム(ホームページ)での情報提供 | シラバスに視聴覚教材情報の詳細(ビデオ本数、時間)を提示。   |
| 手話講習会・要約筆記講習会の開催       | 年2回(前期と後期に各1回)実施。   |
| アクセシビリティリーダー育成         | <教育課程><資格認定>およびAL資格取得者を対象とした<研修合宿><インターンシップ>で構成される、人材育成・活用プログラム「AL育成プログラム」を実施。<br>学内と地域で、資格取得者のインターン制度(ALI)を展開し、開かれた支援・修学環境のユニバーサルデザイン化を図る。 |

## アクセシビリティリーダー育成プログラム

年齢や障害の有無、言語や文化の違い等の多様性に関わらず、誰もが社会の利便性を享受でき、多様な可能性を開拓できる社会をリードする人材「アクセシビリティリーダー」の育成を推進。

産学官連携の育成協議会を設立し、人材育成と人材活用を社会に開かれた形で展開。



### サービス向上を目指して

- ①知る機会、学ぶ機会の拡充  
「オンラインアクセシビリティ講座」の配信  
全学研修会、各種講習会の開催
- ②教育・人材育成の一環として、以下の科目を開講  
「障害者支援 ボランティア概論」  
「障害学生支援 ボランティア実習A,B」  
「環境情報アクセシビリティ研究」
- ③ユニバーサルな教育支援方法の開発  
次世代の教育支援方法を積極的に模索(音声認識活用など)

問い合わせ先

アクセシビリティセンター

TEL 082-424-6324, E-mail achu@hiroshima-u.ac.jp

URL <http://www.achu.hiroshima-u.ac.jp/>

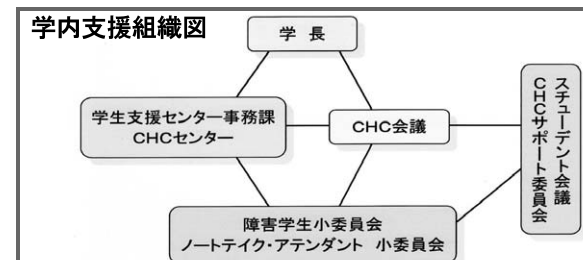
# 四国学院大学

- 支援組織  
人権と文化の多様性に関する委員会 (CHC)
- スタッフ CHC 委員 11 名 (うち学生 2 名) 職員 1 名

|        |                |     |      |
|--------|----------------|-----|------|
| 聴覚障害学生 | 17 名           | 学部生 | 17 名 |
|        |                | 院生  | 0 名  |
| 視覚障害学生 | 3 名 (2 名肢体と重複) |     |      |
| 肢体障害学生 | 14 名           |     |      |

|      |                               |
|------|-------------------------------|
| 設置形態 | 私立大学                          |
| 学生数  | 1,330 人                       |
| 所在地  | 〒765-8505<br>香川県善通寺市文京町 3-2-1 |

## 学内支援組織図



## ノートテイク・パソコン要約筆記

|                      |   |     |      |
|----------------------|---|-----|------|
| 提供しているサービス           | □ノートテイク□パソコン要約筆記  |     |      |
| 利用者数                 | 14 名  | 学部生 | 14 名 |
|                      |   | 院生  | 0 名  |
| ノートテイク数              | 26 名 (NT 22 名/PC 4 名)   |     |      |
| サービス提供時間数            | 週 42 コマ (NT 35 コマ/PC 7 コマ)  |     |      |
| 報酬および経費              | 680 円/時間  |     |      |
| 募集方法                 | 新入生オリエンテーションで、障害学生支援制度を紹介。また掲示板に募集ポスターを掲示するなどしている。  |     |      |
| コーディネート方法            | 学期初めに利用者の登録を確認後、CHC でリンク作業を行っている。新入生には、入学当初からオリエンテーション期間中も仮のサービスを実施している。                  |     |      |
| 養成方法                 | ノートテイク小委員会に属する先輩テイクによるテイク講習会の実施、および外部団体から講師を招き、PC 要約筆記の講習会を行い、テイク技術の向上を目指している。(年 2 回程度実施) |     |      |
| 本学ノートテイク・パソコン要約筆記の特徴 | 最近ではテイク数が減り、あまり実施できていないが、受講生多数の科目や式典の要約筆記などは、IP トークを行うなど、複数利用者への対応も柔軟に行っている。              |     |      |

## 手話通訳

|           |  |     |     |
|-----------|--|-----|-----|
| 利用者数      | 6 名  | 学部生 | 6 名 |
|           |  | 院生  | 0 名 |
| 手話通訳者数    | 2 名 (手話通訳士に依頼)   |     |     |
| サービス提供時間数 | 週 3 コマ   |     |     |
| 報酬および経費   | 5250 円/時間  |     |     |
| 募集方法      | 外部委託   |     |     |
| コーディネート方法 | 学期初めに利用者の登録を確認後、必修、選択必修の順に受講者数の多い科目や、4 年生の演習等に CHC が調整を行い派遣している。                           |     |     |
| 養成方法      | 直接的養成ではないが、カリキュラムとして実施し、まず関心を向けもらうために、教養科目の語学講義に前期に日本手話 I を 2 クラス、後期に日本手話 II を 2 クラス設けている。 |     |     |
| 本学手話通訳の特徴 | 講義のみならず、学内行事においては、入学式、卒業式、各種講演会など手話通訳の配置が常態化している。  |     |     |

### Check!

毎年マイノリティ・ウィークや人権週間を実施。各種講演会や行事で人権啓発を行っている。

## 人権啓発に取り組んでいます。

すべての人が生れながらに平等な存在として尊重され、生きていくことが、日本国憲法などによって、法的には保障されています。しかし実際の社会生活では、必ずしも、誰もが平等な扱いを受けているわけではありません。民族、国籍、肌の色、性別、出生、親子関係、心身の障害、信仰、身体的特徴、性的指向、年齢、言語、食文化など、差別のきっかけになることはたくさんあります。自由な学問研究と教育を行う大学においては、いかなる形の差別も許されません。本学では、自由な教育と研究を確保するために「人権と文化の多様性に関する委員会」(CHC: The Committee for Human Rights and Cultural Diversity) を設け、差別のない大学づくりのために努力をしています。

### サービス向上を目指して

本学の障害学生支援制度におけるノートテイク・サービスは、登録学生が授業の空き時間を利用して実施している。そのため、学部学科、メジャーを超えて広く登録者を募らなければ、偏りなく十分なノートテイクを提供することが難しい。どのような PR 方法でノートテイクを増やすか、興味を持ってもらえるかが、目下の課題である。

問い合わせ先 四国学院大学 CHC

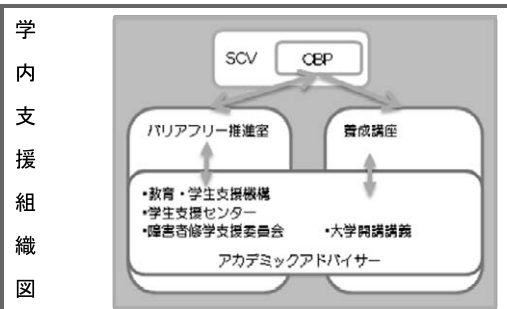
教学事務部学生支援センター事務課内 CHC センター  
TEL0877-62-2111 (内線 423) e-mail: chc@sg-u.ac.jp

# 愛媛大学

|      |   |
|------|---|
| 設置形態 | 国立大学法人  |
| 学生数  | 9728 人（大学院生・研究生含む）  |
| 所在地  | 〒790-8577<br>愛媛県松山市文京町 3<br><a href="http://www.ehime-u.ac.jp/index.html">http://www.ehime-u.ac.jp/index.html</a> |

- 支援組織名称（スタッフ数） バリアフリー推進室（4）  
<http://www.ehime-u.ac.jp/section/bfree/>
- 教育・学生支援機構 学生支援センター（5）
- 障がい者修学支援委員会（10）
- 障がい学生支援ボランティア（Campus Barrier-free Promoters）（14）

|         |     |
|---------|-----|
| 聴覚障がい学生 | 5 名 |
| 視覚障がい学生 | 0 名 |
| 重複障がい学生 | 0 名 |
| 肢体障がい学生 | 5 名 |



## ノートテイク・パソコン要約筆記

|                      |   |
|----------------------|---|
| 提供しているサービス           | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ ノートテイク</li> <li>■ パソコンノートテイク</li> <li>■ 手話通訳</li> <li>■ 代筆（聴覚・視覚・肢体不自由）</li> <li>■ 講義支援（肢体不自由）</li> <li>■ 学生生活支援（聴覚・視覚・肢体不自由）</li> </ul> |
| ノートテイク人数             | 67 名（NT 67 名／PC 43 名）   |
| サービス提供時間数            | 1 人週 15 コマ程度  |
| 報酬および経費              | 900 円／時間（障がい学生支援経費）   |
| 募集方法                 | 掲示板に募集ポスターを掲示。<br>入学式などで活動紹介。   |
| コーディネート方法            | バリアフリー推進室の非常勤職員 3 名が支援分担を調整している。利用学生と支援学生の調整を行い、できる限り専門性、経験のある学生を配置している。ノートテイクは 1 人の利用学生に対して 2 人つく事を原則としており、一方を経験者にするなど、よりよい情報保障が提供できるよう心がけている。                                   |
| 養成方法                 | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 共通教育障害者支援ボランティアⅠ（障がい全般の概論 28 コマ）。</li> <li>2. 共通教育障害者支援ボランティアⅡ（ノートテイクのスキルアップを目的とした講義 15 コマ）</li> <li>3. CBP 開講基礎講座（随時開講）</li> </ol>     |
| 本学ノートテイク・パソコン要約筆記の特徴 | 障がい者修学支援委員会と CBP（障害学生支援ボランティア）による運営。給与等の資金は大学が提供。   |

## その他の支援

|                              |   |
|------------------------------|---|
| 入学式・卒業式の<br>情報保障             | パソコン要約筆記と手話通訳を用意している。   |
| 文字起こし・字幕入れ                   | 講義等で使用する映像資料に字幕がない場合、字幕挿入ソフトを使用して字幕を入れている。  |
| 盲ろう学生への対策                    | 盲ろう学生・肢体不自由学生向けの電子資料作成を行っている。   |
| アカデミックアドバイザー                 | 学外からの専門委員として学生と教職員の FD を担当し、様々な問題解決にあたっている。   |
| スチューデント・キャンパス・ボランティア（SCV）の協力 | 学生ボランティア（SCV）は 9 つのグループより構成されており、その中の障がい学生支援ボランティア（CBP）が支援活動を担っている。また、必要に応じて他団体の連携も行っている。 |
| 支援機器の貸し出し                    | 視覚障がい、聴覚障がい、肢体障がい等、多様なニーズに対応する生活支援機器の紹介、貸し出し、フィッシングを行っている。                                |

### Check!

学生と教職員によるコラボレーション  
障害学生支援ボランティアの主体的な活動が力に！

## 現状と今後の課題

- 愛媛大学の特色は、大学組織である障がい者修学支援委員会・学生支援センター、バリアフリー推進室・支援学生（SCV の一グループである CBP）による、多方向からなる支援が挙げられる。
- バリアフリー推進室と CBP 代表者の会議を基に、支援学生がそれに基づいた活動を展開している。利用学生や支援学生の意見を大きく反映するとともに、双方の学生の育成に貢献することを目指している。
- 障がい者修学支援委員会メンバーは、関係学部から議題に応じて対応出来るよう、専門教員を中心に構成されている。
- 非常勤職員がコーディネート業務を担当するようになり、CBP の負担は軽減された。その分、支援学生に対してノートテイクなどのスキルアップ体制に力を入れられるようになった。
- CBP の顧問は、専門の教職員が担当。
- 幅広い障がい学生に対応できる支援システム構築に向けて、大学全体で取り組んでいる。

### サービス向上を目指して

- バリアフリー推進室、学生支援センター、障がい者修学支援委員会、CBP の協力体制をより強固にし、より充実した支援体制の確立を目指す。
- 支援活動中に発生した利用学生、支援学生のトラブル等に早急に対応できるように、報告書の提出を義務化し、迅速なフィードバックが行えるようにする。
- 利用学生と支援学生同士の自由な意見交換ができる環境を提供する。

### 参考資料

- バリアフリー推進室ホームページ  
URL: <http://www.ehime-u.ac.jp/section/bfree/>
- CBP のホームページ「はぐろぐ」  
URL: <http://haguhagucbp.blog52.fc2.com/>
- 愛媛大学 SCV (Students Campus Volunteer)  
URL: <http://www.ehime-u.ac.jp/SCV/>
- 学生支援センター  
URL: <http://web.csaa.ehime-u.ac.jp/>

### 問い合わせ先 バリアフリー推進室

TEL/FAX: 089-927-8114 E-Mail: [bfree@stu.ehime-u.ac.jp](mailto:bfree@stu.ehime-u.ac.jp)



# 福岡教育大学

●支援組織名称 障害学生支援室

●スタッフ 室長、コーディネーター1名(非常勤)、事務職員2名

|        |      |     |  |
|--------|------|-----|--|
| 聴覚障害学生 | 公表せず | 学部生 |  |
|        |      | 院生  |  |
| 肢体障害学生 | 公表せず |     |  |
| その他    | 公表せず |     |  |

設置形態 国立大学法人

学生数 学部 2860 人、大学院 196 人  
専攻科 23 人、臨時教員養成課程 2 人

所在地 〒811-4192  
福岡県宗像市赤間文教町1-1

学内支援組織図

## ノートテイク・パソコン要約筆記

|                      |                                    |     |     |
|----------------------|------------------------------------|-----|-----|
| 提供しているサービス           | ノートテイク、パソコン要約筆記                    |     |     |
| 利用者数                 | 4 名                                | 学部生 | 4 名 |
|                      |                                    | 院生  | 0 名 |
| ノートテイク数              | 48 名 (NT・PC 28 名/PC のみ 20 名)       |     |     |
| サービス提供時間数            | 利用者が希望するすべての授業                     |     |     |
| 報酬および経費              | 760 円/時間 (共通経費)                    |     |     |
| 募集方法                 | 入学時に新入生向けに案内を配布。<br>掲示板に募集ポスターを掲示。 |     |     |
| コーディネート方法            | 障害学生支援室と学生とが連絡調整を担当。               |     |     |
| 養成方法                 | ノートテイク入門講座・スキルアップ講座を実施。            |     |     |
| 本学ノートテイク・パソコン要約筆記の特徴 | タブレット PC を導入し、無線でのテイクを実施。          |     |     |

## その他の支援

|                       |                                 |
|-----------------------|---------------------------------|
| 入学式・卒業式での手話通訳者設置、字幕提示 | 有り(手話通訳士の資格を持つ教員が対応。字幕は学生による支援) |
| 磁気ループの敷設              | なし。                             |
| 聴力検査、補聴器の調整           | 言語聴覚士の資格を持つ教員が対応。               |
| FM 補聴器の貸出             | FM 補聴器 4 台を準備                   |
|                       |                                 |
|                       |                                 |
|                       |                                 |
|                       |                                 |

Check!

聴覚障害教育専攻があるため、専門的知識・技術を持つ学生が多い

## トピック

- 最初の支援は昭和 51 年度入学生から
- SCS 研修を利用して、国内の他機関との情報交換を行ってきた。
- 国内外の先進的取り組みを行っている機関を 5 ケ国 20 ケ所以上訪問し情報収集に努めてきた。FD 報告書として発行「高等教育における障害のある学生への支援」(H19, 3) など  
<http://www.fukuoka-edu.ac.jp/~dohira/FD/>
- 中学や高校に在籍する聴覚障害児への支援について、福岡高等聾学校が 2005 年より行っている「聴覚障害学生情報サポート講習会」に実施協力している。2010, 2011 年度は遠隔情報保障(筑波技術大学の協力による)を使用して熊本聾学校と中継を実施。
- ノートテイクを学んだ学生が、小学校や中学校の通常学級で学ぶ難聴児への情報保障にもボランティアで通っていた。
- 日本学生支援機構の「障害学生修学支援ネットワーク」の拠点校にも選ばれており、障害学生支援室が企画し、講習会等も実施している。
- 他大学での研修会開催にも協力している。

### サービス向上を目指して

- ・授業担当者による視覚的情報や資料の準備がかなりの程度なされるようになり、以前と比べるとノートテイクの負担も軽減されるようになったが、より理解しやすい提示法や説明を行えるように FD 研修等を実施したい。
- ・支援対象の授業の既履修者、学生の専門に合わせてノートテイクとして授業に配置することで、より容易に内容理解ができるようにしたい。
- ・全学的に取り組めるように、支援組織を充実させたい。
- ・より有効な支援を支援学生、利用学生がともに考えることできるように、学生対象のスキルアップ講習会、支援室登録学生同士のミーティングを充実させたい。

### 参考資料

FD 報告書 (H14, H15, H16, H17, H18, H19, H20)

### 問い合わせ先

障害学生支援室 TEL 0940-72-6062,  
安田紀子 havefun9@fukuoka-edu.ac.jp

国立大学法人  
筑波技術大学

## 産業技術学部

National University Corporation  
Tsukuba University of Technology  
Faculty of Industrial Technology



Higher Education for Hearing Impaired Students

産業技術学部では、  
聴覚に障害のある学生が学んでいます。

### 「伝わる・わかる・できる」学びの間

聴覚障害者を対象とする高等教育機関として、教育を通して聴覚に障害がありながらも社会の各分野においてリーダーとして貢献できる人材を育成し、障害者の社会的地位を向上させるとともに、技術革新が進む情報社会の中で十分に活躍し、社会全体の環境整備に貢献できる専門職業人を育てていくことを目的としています。これらの目的を達成するため、聴覚障害者の持つ能力・適性が十分に発揮でき、職域の開拓に実績と将来性のある「情報」、「技術」、「環境」及び「デザイン」の領域を中心に、芸術、技術、情報面から、聴覚障害者の教育と研究にアプローチします。

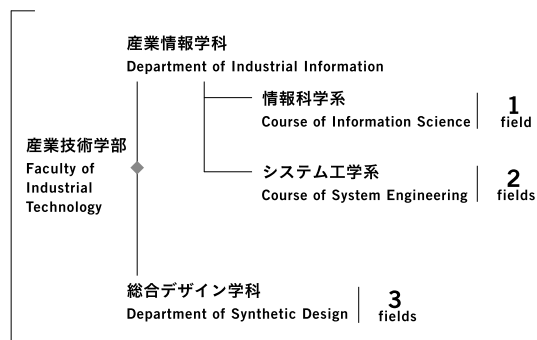
### 産業技術学部の教育理念

社会が求めている産業技術の高度化と複合化に対応できる専門職業人を養成し、「情報処理」、「ものづくり」、「生活環境創り」を通して聴覚障害者の社会参画・貢献を促進するために、産業技術学部では教養教育系科目を担当する障害者高等教育研究支援センターとの連携を図りながら、次の2つを柱として教育課程を編成しています。

- 1 | 専門知識と技術の習得に必要な専門基礎教育を充実し、確実な専門的・応用的能力及び指導能力の育成を図ります。
- 2 | 幅広い学識を習得させ、情報の高度化や技術革新の進展に柔軟に対応できる基本的素養の育成を図ります。

### 産業技術学部の構成

産業技術学部は、産業情報学科と総合デザイン学科で構成されます。産業情報学科では、情報科学とシステム工学の分野において、専門的な能力の育成を図り、快適な社会と生活環境の整備に貢献できる人材を育成します。総合デザイン学科では、ユニバーサルデザインやエコロジーデザインなどへも視点を広げ、社会的自立ができる豊かな感性と創造的表現力を持った人材を育成します。



聴覚障害系

## 障害者高等教育研究支援センター

Research and Support Center  
on Higher Education for the Hearing Impaired



### 円滑な情報アクセスとコミュニケーションを支援

#### コミュニケーション指導

##### 聴覚管理・補聴相談

残存聴力が低下しないよう、学生の聴覚管理を行っています。補聴器フィッティングに関する相談や、自らかこえの程度を把握し補聴器の自己管理ができるよう最新の聴力測定システムを配備した指導プログラムを提供しています。



##### 手話指導

教職員および学生の手話学習支援として、職員や新任教員を対象とした手話研修、入学後間もない時期の学生に対する手話指導を行っています。また、各種情報保障手段の活用等、個別のニーズに応じたアドバイスも行っています。

#### 学内情報支援

##### CATVシステムによる連絡広報

聴覚障害のある学生のために、ケーブルシステムを用いて学内の各所に設置されたテレビモニタに文字または画像情報を配信し、学内広報・各種ニュースを伝達しています。また、非常時には音や光による警報の他、電光掲示板を用いて文字による案内を表示するシステムを構築しています。



#### 教材作成

##### 字幕入りビデオ教材

聴覚障害学生用に視覚教材を豊富に活用した授業を進めるため、字幕入りビデオ教材を多数作成し、本学聴覚障害系図書館に配架しています。教材作成に用いている字幕挿入システムは、質の高い字幕入りビデオ教材を迅速に作成するために本学で開発されたものです。



#### 就職に関する 支援・指導

学生および卒業生に対して就職試験や面接、職場実習、職場適応に関する指導や支援を行っています。また、企業との連携を深めるための諸活動、卒業生の職場適応に関する相談・支援を実施しています。



## 聴覚・視覚障害学生のイコールアクセスを 保障する教育支援ハブの構築

筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター

### <目的>

筑波技術大学障害者高等教育研究支援センターは障害者高等教育拠点として、文部科学省の認定を受けています。事業期間は、平成23年度から26年度までの4年間です。

これは、障害のある学生に対する高等教育を推進するために本センターが全国的な拠点としての役割を果たし、大学における障害学生支援をバックアップするものです。

※[教育関係共同利用拠点]の認定について  
参考webサイト  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/houdou/22/03/1291858.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/22/03/1291858.htm)

ぜひ、ご活用  
ください！



### ■デフ・スタディーズ(ろう者学)の教育コンテンツ開発

ろう・難聴者の様々な生き方や考え方、自立に必要な知識などを指導する「ろう者学」の指導カリキュラムおよびコンテンツ(webサイト)を開発・整備し、全国の大学教職員が活用できるシステムを提供しています



### ■外国語の学習に役立つコンテンツ開発

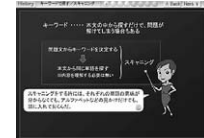
聴覚障害学生がアクセスしやすい学習コンテンツや、聴覚障害学生への語学指導の参考となるコンテンツを開発しています

[これまでの成果物]

①留学希望者対象の留学準備Web講座



②TOEIC試験対策Web講座  
(平成25年度より運用開始予定)



③二次元ドットコードを使用したアメリカ手話の動画教材  
④手話を使った直接教授教材の開発

### ■アカデミック・アドバイザーによる語学指導に関する助言

「アカデミック・アドバイザー」を配置し、他大学からの外国語授業における教育指導の方法や障害特性に応じた学習方法に関する相談に対応します

[平成23年度の実績]

- アドバイスの実施
- 聴覚障害学生対象の英語教育アンケート調査
- 海外におけるアカデミック・アドバイザー体制視察
- アカデミック・アドバイス提供体制の検討協議会の開催

### ■専門的スキルを有する授業支援者(パソコンノートテイク)の養成

他大学においてパソコンノートテイク養成講座を開催する場合、講師派遣や講座運用のアドバイス、開催回数等に合わせたカリキュラム・教材提供などに対応します



### 【お問い合わせ先】

筑波技術大学

障害者高等教育研究支援センター

共同利用拠点事務局

〒305-8520 茨城県つくば市天久保4-3-15

E-mail: [krk-net@ad.tsukuba-tech.ac.jp](mailto:krk-net@ad.tsukuba-tech.ac.jp)

TEL / FAX: 029-858-9483

URL: <http://www.a.tsukuba-tech.ac.jp/ce/kyoten/html/>

資料請求や  
ご利用の相談に  
ついては、こちらまで  
ご連絡ください



✿ MEMO ✿

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

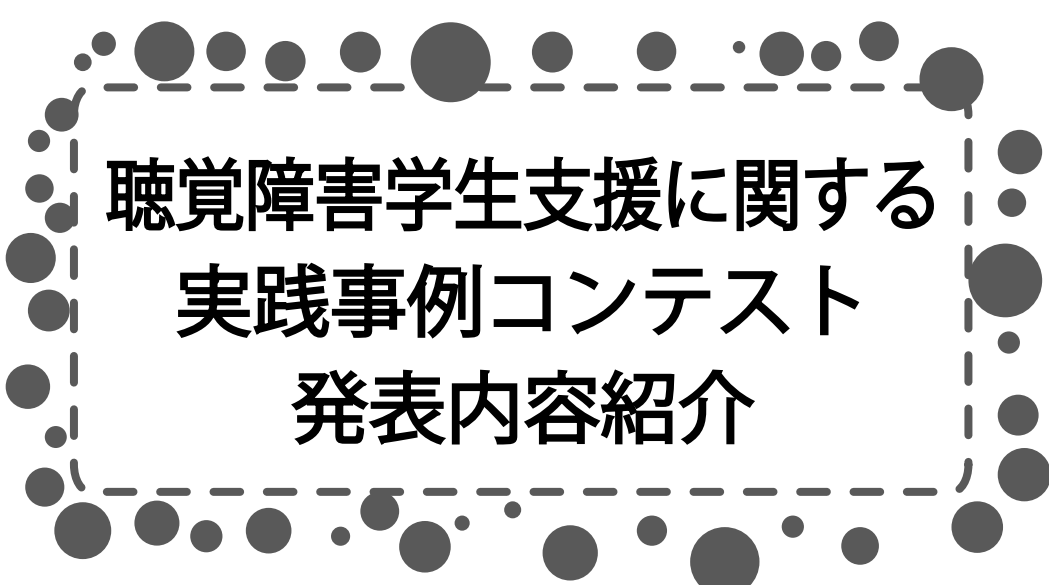
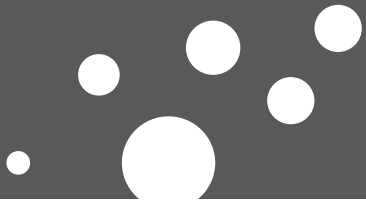
.....

.....

.....

.....

.....



# 聴覚障害学生支援に関する 実践事例コンテスト 発表内容紹介

## バリアフリー推進室 レイアウトの秘密

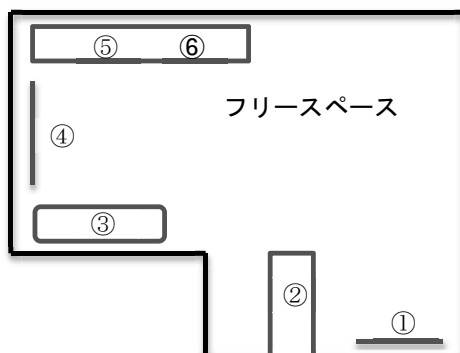


### ■フリーアドレス制のメリット

- ・ 学生との距離が近くなる
- ・ 必要に応じてレイアウトを変更できる
  - ミーティングスタイル
  - 講座スタイル等
- ・ 様々な障がい学生に対応しやすい
- ・ 休憩スペースの確保
  - ソファの背もたれを倒すと、ベッドに
  - パテーションで区切ることで半個室になります



### ■バリアフリー推進室のレイアウト



- ① 入り口
- ② カウンター
- ③ ソファ
- ④ 電子黒板
- ⑤ 字幕編集用 PC
- ⑥ 学生用 PC

#### Q. 机と椅子はどうするの？

可動式の机と椅子が用意されています。譲り合って利用してください。退室時に必ず元の位置に戻してください。

#### Q ミーティングの時は？

プライベートな相談が行われている場合は、立入禁止の札が自動ドアに張り出されます。

これらの予定は推進室前の予定表に貼り出されるほか、Google Calendar からいつでも確認することができます。

#### Q. 部屋の予約は可能？

可能です。ミーティングやグループワークで使用したい場合は、事前に予約を行ってください。

部屋をパテーションで区切って使用することも可能です。

#### Q. 資料はどこにある？

学生が閲覧可能な資料は、カウンターの下の本棚に収納されています。職員しか見られない資料等は鍵のかかったキャビネットに収納されています。

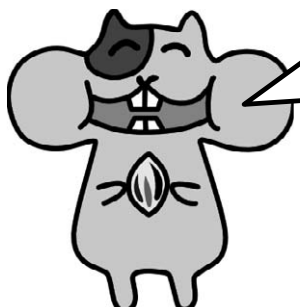
#### Q. インターネットは使える？

無線 LAN でインターネットに接続することができます。希望者に接続用パスワードを発行しています。

#### 問い合わせ先

愛媛大学 教育学生支援部 学生支援課 バリアフリー推進室（担当：石田・太田・二宮）  
TEL/FAX: 089-927-8114 E-mail: bfree@stu.ehime-u.ac.jp

# 愛媛大学 CBP（障がい学生支援ボランティア）



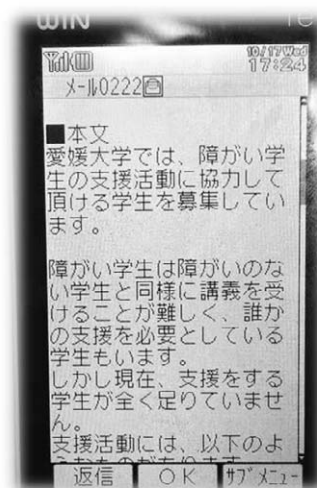
こんにちは！ 愛媛大学 CBP(障がい学生支援ボランティア)のマスコットキャラクター、はぐ太郎です。CBPは、学内のバリアフリー化のために日々、活動しとるんよ～。このポスターでは、昨年の冬から今年の秋にかけての、CBPの新しい取り組みと大きな動きを（伊予弁で）紹介するけんね。

## 支援学生募集活動(2012年4月・9月)

授業での告知やビラ配り、はぐはぐ通信の発行をしたんよ。2012年9月には、バリアフリー推進室に協力してもらって、修学支援システムで全学生に募集メールを送ったんよ～。

その効果は絶大で、一気に 14人も学生の申し込みがあったんよ。今年度通して、通算25人以上登録してくれとるんやけん!!

でも、まだまだ募集しとるよ！ 君も、やってみけん！



## CBPによる支援学生養成講座

CBPの学生が毎学期、養成講座をやっとるんよ。

- ・ノートテイク基礎講座
- ・パソコンノートテイク基礎講座
- ・講義支援<肢体>
- ・生活支援<肢体>

障がい学生自身が積極的に講座にかかわっていることも良いところなんよ。CBPメンバーがみんなの空きコマを調整して開講しとるけん。みんな、陰ながら頑張っとるんよ！

## 他大学との交流

昨年のシンポジウムの後には、松山大学・筑紫女学院大学／障がい者相互支援センター(MCP)・愛知教育大学・日本福祉大学と、毎年、いろんなところと交流して、いっぱい勉強させてもらっとるけん！

ほんと、ありがと～ね！



問い合わせ先

愛媛大学 障がい学生支援ボランティア

代表：植山

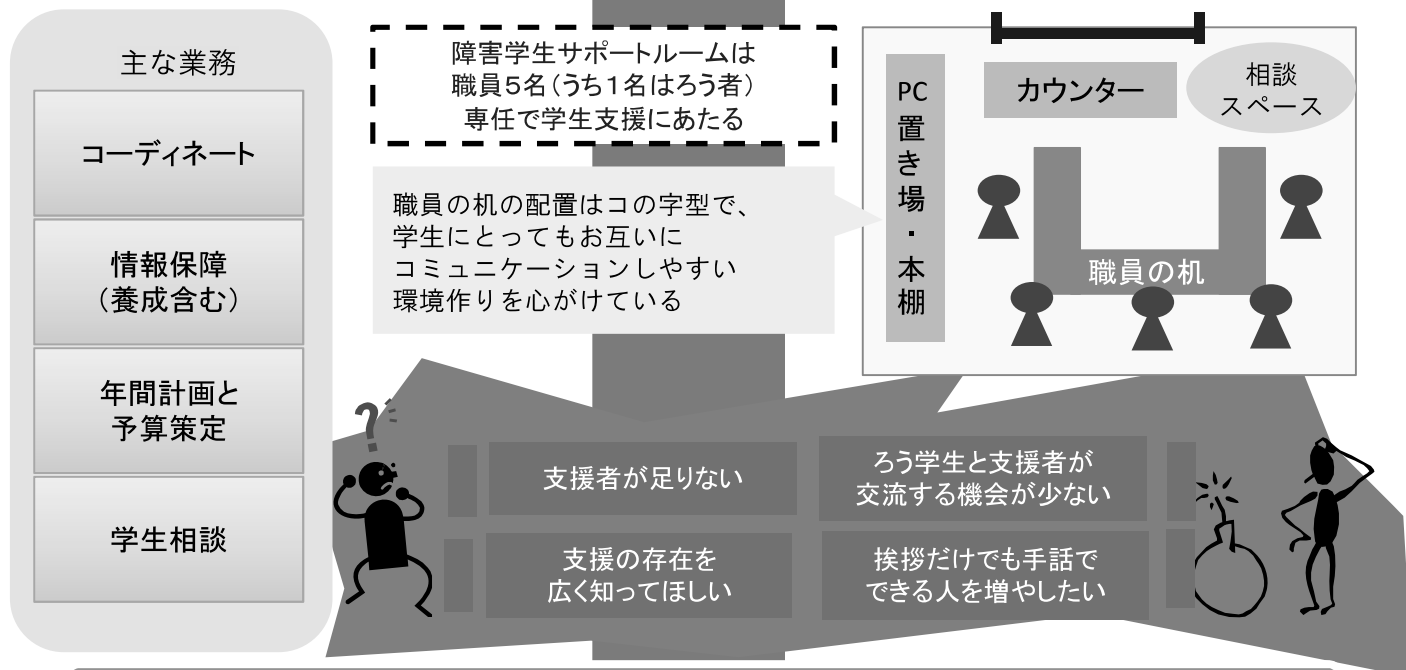
連絡先TEL/FAX：089-927-8114(バリアフリー推進室) Mail：cbp.scv@gmail.com

HP：http://haguhagucbp.blog52.fc2.com/



# 群馬大学障害学生サポートルーム

私たち(専門支援者)にしかできないことは何か？



Googleドキュメント共有、反省会などで職員同士の情報共有を綿密にする

我々はチームだ！

課題はどこ？

課題を共有しよう！

今後に生かす！

## 巻き込む

すそ野を広げる  
学外に広く周知  
(附属の教育施設等)  
国際交流協会  
要約筆記団体  
情報提供施設  
手話通訳関連団体 など

## 任せる

業務を学生にも広げる  
手話通訳研修の協力、  
手話サポーターの養成を  
学生にお願いする  
教員に対して、ビデオを  
借りるのはあえて  
学生に行ってもらおう

## 視線をもつ

自身の仕事を広げる  
職員が授業に  
オブザーバーとして参加  
(情報保障の評価)  
情報保障に入り、  
テイカーや手話サポーター  
のフォローを兼ねた養成

## 「現場目線」を大切にする支援の構築

支援をつけるだけでは完結しない。日々の振り返りが重要。

問い合わせ先  
群馬大学障害学生サポートルーム

E-mail : a\_dis-support@ml.gunma-u.ac.jp  
Tel/Fax: 027-220-7114

# 群馬大学情報保障サークル「てふてふ」

キャンパスライフの向上を自身の成長につなげる



学内に「理解の輪」を  
広げたい

支援に直接  
かかわらなくても、  
私たちの存在を  
知ってほしい！



聴覚障害  
理解

活躍の場  
をつくる

コミュニ  
ケーション  
をとる

てふてふの活動方針

学内での理解と  
啓発を進める



## 茶話会

情報保障に配慮  
しながら進行



参加者が交代でティーク  
現場未経験の  
人にも実践の場を  
提供できる

## ろう難聴学生講演会

手話サポーター、  
ティーカーにとっては  
これまでの成果を  
発揮する実践の場



ろう難聴学生と  
支援学生、互いの  
ことを知りあう機会

## 学園祭への出展

新たな  
支援者の発掘！



障害学生が支援を  
うけて学んでいる  
ことを伝えられる

## 気づく

自分にとって本当  
に必要なツールは  
手話なのだという事  
がわかった。

## 伝える

先輩から受け継いだもの、  
そして自分が後輩に何を伝  
えられるか。伝えてあげるべ  
きことは？それを見つけて  
いきたい。

## 考える

本当に自分の障害を  
受け入れるという事は、  
自分の障害を周りに言  
える事なのだと実感。

てふてふ部長：岩倉



## まとめ

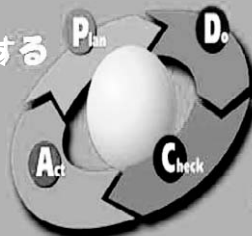
自分の学生生活を  
よりよくすることは、  
大学卒業後にもつながる。  
学内に理解者を  
増やしていく一方で  
自分も成長できる。

計画する

改善

実行する

見直す



「自分らしく生きるためには  
何が必要なのか？」を、  
さまざまな聴こえと背景を  
もつ人とふれあって  
深めていきたい！

問い合わせ先  
群馬大学情報保障サークル「てふてふ」  
部長：岩倉智博

連絡先：（群馬大学障害学生サポートルーム 行）  
E-mail : a\_dis-support@ml.gunma-u.ac.jp  
Tel/Fax: 027-220-7114

宮城教育大学しょうがい学生支援室・聴覚しょうがい部会の学生運営スタッフは、ティカー全体をまとめ、ティカーの養成や聴覚障害学生とティカー同士の情報交換・共有を行なっています。教育大学ということで、教員免許の取得を目指しています。

## 【聴覚障害学生】

### ○取得予定免許○

- ・幼稚園
- ・小学校
- ・中学校
- ・高校

国語、数学、英語、社会、理科、美術、家庭科等

### ・特別支援学校

これまで小学校の免許を希望する聴覚障害学生が多かったが中・高校の免許を希望する聴覚障害学生が増加した。



ティカーとずっと話したいよ

〇〇して欲しいのに

色々な専門分野のティカーが必要になった。

## 【ティカー】

今までは聴覚障害学生の周りにいる学生のティカーが多かったが、4月のティカー募集のPRによって、中学や高校の専門教科（英語、美術、理科、音楽、技術等）を学ぶ学生がティカーの登録をしてくれた。



講義があつて練習会に参加できないよ

こんな時どうしたらいいのかな

ティカーや聴覚障害学生の取得予定の免許が様々なので、練習会を設けても講義が重なり、練習会に参加できない学生が増えました。また、ティカーや聴覚障害学生の悩みについて情報交換・共有する機会が少なく、話し合うことが難しくなったので、情報交換会を設けたりティカーPadを作成することにしました。

## 情報交換会

事前にアンケートを取り、話し合いたいことを整理しました。



当日はティクの仕方や聴覚障害学生とティカーとの間でのコミュニケーション方法(手話)について話し合い、有意義な時間となりました。

## ティカーPad



残念ながら、情報交換会に参加できなかったティカーのために、毎月1回お便りを発行・掲示しています。

すべての聴覚障害学生、ティカーとの情報共有を図っています。

ティクを受ける・するだけの関係にとどまらず、お互いの要望や悩みを知ることで「一体感」が生まれました。これからも、この取り組みを継続し聴覚障害学生とティカーとの関係を深めていきたいと思ひます。



問い合わせ先

宮城教育大学 しょうがい学生支援室 聴覚しょうがい部会 学生運営スタッフ

TEL/FAX: 022-214-3651 E-mail: Support-Coordinator@ml.miyakyo-u.ac.jp

現在、宮城教育大学には**12**人の聴覚障害学生が在籍しています。

情報保障に奔走してきた先輩たちの恩恵を受けながら、それぞれが大学生活を過ごしています。情報保障の選択（情報保障を希望するかしつか、ノートテイクがパソコンテイクか、等）ができるようになった今、きこえない・きこえにくいことでわからない・困ったという自らの状況に対して自分がどう動いていくべきかを考える機会が少なくなっています。

情報保障が充実していく一方で、わたしたち聴覚障害学生にある疑問が生じています。「わたしたち聴覚障害学生は必要以上に受け身になってはいないだろうか？」このような疑問を起点に、本学の聴覚障害学生が取り組んできたことをご紹介したいと思います。

## 学生の声



## 取り組み

### 聴覚障害学生だけの企画



前期聴覚障害学生反省会



第2回聴覚障害学生懇親会

### 実習時のパンフレット作成



聴覚障害をわかりやすく伝え、理解してもらうために3人の学生が実習先で先生方や生徒たちに配布しました。

### 聴覚障害学生用のマニュアル作成

大学で情報保障を受ける上で、わたしたちは毎年のように同じような壁にぶつかることがあります。どのような心構えで情報保障を受け、より上手に情報保障とつきあっていくか、情報保障の枠を超えて自身の聴覚障害とどのように向き合うかなどを考えていけるような力をつけていきたいと考え、主に4年生以上による学生で作成しています。

来年度も数名の聴覚障害学生の入学を想定し、マニュアルを参考によりよい大学生活を送ってほしいという願いが込められています。

#### マニュアルの項目リスト

- ・はじめに  
(マニュアルを作るに至った経緯、歴史)
- ・テイクの受け方の基本的な知識
- ・手書きテイクの場合のテイクの受け方、準備
- ・パソコンテイクの場合
- ・音声認識の場合
- ・講義の形態ごとに紹介  
(実技、ディスカッション、被通訳者が多いとき)
- ・Q&A
- ・教育実習
- ・ひとりひとりの実習の体験談  
(子ども・先生とのコミュニケーションの取り方、授業の進め方)
- ・おわりに

## 今後の課題

- ・聴覚障害学生間での情報共有の充実  
→聴覚障害学生が増えたことに伴い、情報共有が難しくなった現状を解決すべく、学生間の情報交換・交流の場を聴覚障害学生が主体的に設ける。  
→講義をはじめとし、教育実習時や大学外等の場面で、わたしたちのきこえない・きこえにくいことによるさまざまな困難・切実な思いをどのように伝えるか、どのように情報保障を活用するか、といったことについて具体的に議論する。  
→マニュアル作成により、情報共有するとともに先輩たちへ情報や経験を引き継いでいく
- ・聴覚障害学生が主体的に活動する場の基盤づくり  
→本シンポジウムに参加する、交流会を開くなど、その時々に応じて意欲的に活動していけるような場を設ける。



問い合わせ先

宮城教育大学 しょうがい学生支援室 聴覚しょうがい部会 学生運営スタッフ  
TEL・FAX 022-214-3651/E-mail Support-Coordinator@ml.miyakyo.ac.jp



## 熊本学園大学 しょうがい学生支援室

2009 年度に学生課にしょうがい学生支援室を開設以来、肢体、聴覚、視覚、高次脳機能と多様なしょうがいがある学生のサポートを実施しています。2012 年度現在、学生サポーターは 63 名。サポートを利用するしょうがい学生は 7 名在籍しています。



### しょうがい学生支援サポーター養成講座

【年 2 回、春・夏休み期間に実施】

ノートテイクや移動支援、点訳などのしょうがい学生支援を学生同士で支え合うため生まれたのが「しょうがい学生支援サポーター制度」です。サポーターになるには、必ず「しょうがい学生支援サポーター養成講座」を受講し、支援の意義やスキルを学びます。2009 年の講座開始以降 165 名を輩出し、2012 年度現在は 63 名のサポーターが活躍しています。



#### サポーターリーダーミーティング

サポーターを肢体・視覚・聴覚の支援グループにわけ、各グループからリーダーとサブリーダーを選出。スキルアップ講習会や交流会の企画、運営スタッフをしています。



#### サポータースキルアップ講習会

養成講座以外に、支援する学生のしょうがいに合わせてスキルアップのための講習会を開催しています。



#### 顔合わせ会と交流会

授業開始前に、サポーターとしょうがい学生との顔合わせ会・交流会を実施しています。

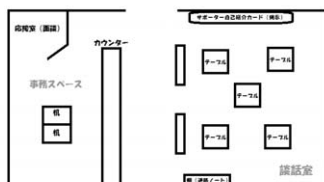
### サポート活動

# つながる

### しょうがい学生支援室・談話室



談話室は、しょうがい学生とサポーター、しょうがい学生同士、サポーター同士などが交流する場所です。



#### サポーター連絡ノート

日々のサポート活動や連絡事項を確認するためサポーター連絡ノートがあります。



常時、職員がサポーター活動のフォローとコーディネートをしています。また、しょうがい学生の相談支援も行っています。

困ったことがあればカウンターに集合！

問い合わせ先

熊本学園大学しょうがい学生支援室 担当：三島・生野

連絡先：Tel.096 - 364 - 5161(代表) Fax：096 - 362 - 8708 Mail：shogai@kumagaku.ac.jp

# 松山大学 障がい学生支援団体POP

「POP」は、「Pieces of Puzzle」の頭文字

人はパズルのピースのように個々が違っている。

1人ひとりが支え合えば、より力が発揮できる！

## 2011年度の活動

- ・松山大学での障がい学生支援開始
- ・支援学生養成開始
- ・手話サークル設立
- ・障がい学生支援団体POP設立

## PCノートテイク連係入力の練習の様子



## 2012年度の活動

- ・支援学生2期生養成開始
- ・手話会の開始
- ・PCノートテイク連係入力の開始

## 手話会の様子



愛媛新聞に松山大学の支援のことが掲載されました！



教職員対象にシンポジウムで学んできたことの報告FDを行いました！



分科会で学んできたこと、これからの支援に欠かせないことなどを報告しました。

集まりいただけたのは、聴覚障がい学生が在籍する法学部の教員、教務課職員、学生課職員。この活動が全学へ繋がっていくことを実現していきたいです。

## 問い合わせ先

松山大学障がい学生支援団体POP 代表 越智達也

連絡先 matsuyama.u.pop@gmail.com (担当者 酒井大輔)



日本福祉大学

# 障害学生支援センター ～ともに学びあい・育ちあう支援～

**交流会(2012年7月5日)**

**サイレントーク!!!**

**みんなおなじ 筆談で話し理解深める**

昨年から「ワールドカフェ」を応用した交流会を行い、今年は13名の学生が参加してくれました。

トーク中のコミュニケーション手段は筆談のみ。聴



←交流会の様子

**ともに学ぶ～支援活動～**

**○情報保障活動○**

ノート・OHC・ポイント・PC テイク、字幕づけ、データ化、手話通訳とあります。昨年度の実績は、

前期：ノート 69 名 OHC54 名 PC30 名

後期：ノート 63 名 OHC45 名 PC 21 名の学生が活動してくれました。

**○I部 聴覚障害者問題研究会 加絵手○**

加絵手(かえで)は主に手話でコミュニケーションをとっています。このサークルは、手話を覚えることだけではなく、聴覚障害に関わる問題について調べ手話で発表するという研究を行っています。

今年度の目標は「歩み寄り」です。障がいのあるなしに関わらず1人1人がお互いの気持ちや思いを受け入れ分かち合いながら、ともに成長していけたらと考えています。



→加絵手の活動写真

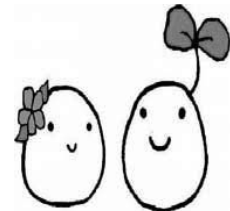
**学長を囲む会(2012年10月11日)**

年に1度行われる、学生が学長と直接会って意見交換できる場です。今年は、テーマ「障害学生と共に築くキャンパスづくり」、障害学生自身が支援に貢献できたことについて考えました。今年は、21名の学生10名の教職員が参加してくれました。



↑学長を囲む会

障害学生・支援学生  
が共に学び・支えあ  
い成長することが、  
日福の特徴です！



**○字幕をつける会 くまじ○**

逆から読んでも分かるように、くまじはビデオ教材に字幕をつけるサークルです。教員からの依頼は全て障害学生支援センターを通して受け、年間50本程に字幕をつけています。質にこだわり、書体や文字の大きさを変えるなど、見やすい工夫に心がけています。また、ボランティアだけにこだわらず1サークルとして楽しく活動しているのが特徴です。

**○パノコンテイクサークル PCT(パクト)○**

講義でのテイクだけでなく、週1回の定例会と随時練習会を行っています。定例会ではタイカーの確認や意見交換を行っています。練習会ではタイピング練習、機材の準備・片付けの練習などを行うことで日々技術向上を目指しています。

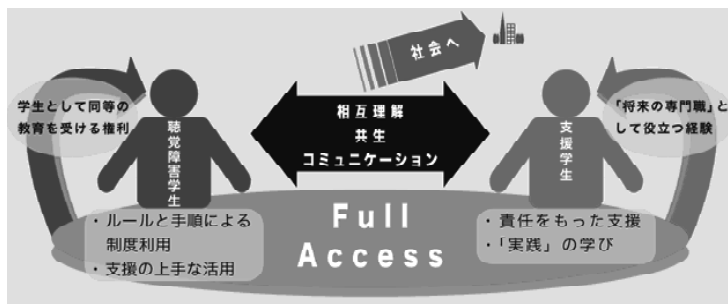
今後は、より聴覚障害学生の意見を取り入れたものにするため交流会やアンケートなどの活動も企画しています。

問合せ先：日本福祉大学 障害学生支援センター  
E-mail: support-c@n-fukushi.ac.jp

# 学生と共同した支援者養成システムの構築プロジェクト

— 権利としての情報へのフルアクセスと、学生としての相互理解・共生・コミュニケーションを目指して —  
日本社会事業大学 聴覚障害者大学教育支援プロジェクト

## 本学の聴覚障害学生支援におけるゴール



本学における聴覚障害学生支援のゴールは、社会福祉領域の専門職として卒業後に活躍できるように、「聴覚障害学生の権利として、授業等の場面での情報への完全アクセス」を保障するとともに、それを基盤とした、「学生同士としてのメンバー間の相互理解・共生・コミュニケーション」を促進することである。

## 必要なものは

- ❖ コミュニケーションベースとしての手話
- ❖ 支援者の増員（聴覚障害学生は7名）
- ❖ 支援スキルのアップ

## アイデア!

- ❖ 手話を覚えてもらおう!
- ❖ バイトや勉強で忙しいから、いつでもどこでも練習ができるといいな!
- ❖ もっと気軽にパソコンテイクに触れてもらいたい!
- ❖ スキルをフォローするものがあればいいな!

## 手話練習会

基本からコツコツ!



- ❖ 聴覚障害学生らが中心になって空きコマに週2〜3回実施
- ❖ 聴覚障害学生、ろう者のプロジェクト室スタッフと手話で会話できるように。

小規模な自主的な練習会もたくさんしています!



## オンライントレーニング作成（現在進行中）



1. 音声データの収集(教科書の読み上げ、雑談、講義調のものなど)
2. windows movie makerで動画ファイル化
3. YouTube にアップ
4. HPの「Training Room」からアクセスして練習

## 社大オリジナル辞書作成（現在進行中）



1. 過去の1年半分のPCテイクログをテキストマイニングソフトで分析。
2. 社大の授業での頻出用語や打ちにくい言葉を短縮
3. PCテイク用パソコンに登録

## Training Labの整備

いつ来ても練習ができる!



iTunes Universityからダウンロードした講義映像が蓄積されている。講師なしでも実践的な練習がいつでも!

入力PCにはタイピングソフトとパーチャルパートナー!



支援者数

2011年度 40名前後(うちPCテイク7名)

2012年度 65名前後(うちPCテイク23名)

聴覚障害者大学教育支援プロジェクト <http://deafhohproject.com/>  
担当: 岡田孝和 n.okada@jcsu.ac.jp





OSAKA KYOIKU  
UNIVERSITY

# 大教大 障がい学生支援のあゆみ

## 学生

**1989**

「聴覚障害学生と共に手話を学ぶ会」  
発足

参加学生が通訳活動を開始  
後にサークルで通訳活動を組織していく

講義保障  
活動部

・通訳のシフト調整  
・通訳者要請講習の企画

交渉部

・通訳活動について大学と交渉  
・2000年講義保障活動部に統合

会計部

・通訳者へ謝金分配

企画部/渉  
外部/出版  
広報部

・手話サークルの運営

**1992～**

**交渉①** ○大学に対し情報開示を要求  
○通訳者の謝金を充実  
・交通費の支給

**交渉②** ○大学と学ぶ会の連携を推進  
・大学が財務管理など  
・学ぶ会が通訳調整・養成など

**交渉③** ○大学の公的支援を追求  
・支援ルームの設置、職員の配置

コミュニケーション不足

## 大学

**1981**

「障がい者受け入れ懇談会」

各分校(天王寺・平野・池田) 初開催  
から、全学的対応に  
障がい学生への理解は不十分だった  
この後、毎年4月に開催(~2004)

**1984**

各分校の環境整備を開始

聴覚障がい・肢体不自由学生の学習  
環境整備に260万円以上を投入(1987)

**1992**

柏原キャンパス統合

これより、毎年、受け入れる障がい学生  
の修学場所に合わせて入学前から  
随時環境整備し、積み増しの施設を  
充実させる



**2004**

国立大学法人化

学内委員会再編により、  
「修学上の支援に係る連絡会議」設置

**2010**

支援ルーム設置申し入れ

特別支援教育講座から、学長宛に  
「全国的状況」を見て、新たに設置すべ  
きとの申し入れ

① 全学対応開始

② 施設充実

③ 組織充実

ルーム設置の社会的要請

学生と大学の連携強化

'12年4月新設



## 障がい学生修学支援ルーム

大学と学生をつなぐ架け橋になる。  
障がい学生の支援に関する窓口を一本化  
'12年8月に合宿実施(音楽会・通訳研修)

音楽会  
ポスター  
参照

今後の方針

ハードは大学が整備する  
ソフトは学生とルームが共に作る

大阪教育大学 障がい学生修学支援ルーム TEL : 072-978-3479 E-mail : sienroom@bur.osaka-kyoiku.ac.jp



OSAKA KYOIKU  
UNIVERSITY

# 大教大 支援ルーム合宿で 音楽会を開催

## 1.合宿開催のきっかけ

本学には、聴覚障がい学生が4人、視覚障がい学生が1人と支援登録学生が約60人在籍しています  
今年度支援ルームを新設するにあたり、支援の心構えや配慮すべきことを共有するため、支援ルームの研修合宿を開催しました

## 音楽会開催のきっかけ

その視覚障がい学生が声楽を専攻しており、日頃の支援に対するお礼として合宿で歌を披露したいという申し出がありました

## 2.開催準備

まず、聴覚障がい学生がいるところで、音楽会を開催することについて検討しました  
聴覚障がい者だから音楽経験が不必要ではないと結論づけ、工夫を考えることになりました

## 情報保障の工夫

- ①歌う前には歌詞をスクリーンに投影しながら、歌詞を朗読する
- ②歌う間、手話通訳を行う  
手話通訳をする学生からは、「歌に手話を付けることに意味があるのか？」との疑問も出ました

## 3.さあ、本番！



歌い手は黒スーツにネクタイ、伴奏者はドレスを着て、リサイタル風に歌いました

歌詞を投影しながら歌詞を朗読し、曲紹介の後、歌と手話通訳を行いました

歌に合わせ、表情と感情豊かな手話がなされて、手話が歌っているようにも見えました

### 支援協力学生は♪

耳栓やアイマスクをしました、どの手段でも歌う人の気持ちが伝わりました

歌と手話のコラボレーションが、とても感動的だった

聴覚障がいの  
ある学生は♪

音楽は工夫すれば楽しめるものだから、聞こえなくても問題ない



## 障がい理解のために

聴衆は、1曲は耳栓をして聴き、1曲はアイマスクをして聴くことにしました



### 演奏者は♪

少しだけ聴覚障がいの方々に歩み寄れた気がした

### 手話通訳者は♪

「歌に合わせて手話通訳？」という不安があった

伝えようという情熱さえあれば、口や表情、手振りなどから、相手に伝わるんだ！

これからも情報保障に工夫した研修合宿の取り組みを続けていきます！

大阪教育大学 障がい学生修学支援ルーム TEL：072-978-3479 E-mail：sienroom@bur.osaka-kyoiku.ac.jp



# 千葉大学 ノートテイク会



## 千葉大学の現状

- ・ノートテイク派遣コマ数の変動が非常に大きい
- ・授業開始時（4月・10月）までコマ数がわからない

|         | 2010年度 | 2011年度 | 2012年度前期 | 2012年度後期 |
|---------|--------|--------|----------|----------|
| 利用学生    | 1人     | 2人     | 1人       | 2人       |
| 派遣コマ数／週 | 1コマ    | 21コマ   | 4コマ      | 10コマ     |
| 登録支援学生  | 35人    | 43人    | 50人      | 50人      |

## 今年度前期：コマ数が少ない中、以下の取り組みを実施

新入生 ⇒ NT 技術の習得 + 情報保障の意義理解

上級生 ⇒ NT 技術の向上 + モティベーションの維持

### 研修会（4月から毎週実施）

NT技術、IPTalk（接続・連携等）の指導

- ・新入生の早期指導
- ・上級生が講師→上級生の技術向上

### 3人体制のNT派遣

上級生2名+新入生1名

- （上級生1名は新入生サポート）
- ・現場で新入生の即戦力を養う

### 入学式でのNT（今年初）

- ・新入生にNTを紹介
- ・情報保障の意義・必要性をアピール

### 学内他団体との連携

留学生支援、就職支援団体のイベントでNT

- ・新入生のNT機会の増加
- ・学生・教職員へ向けてのNT周知

## 今年度後期：コマ数が急増

⇒ 前期の取り組みにより、NT の実施体制が確立！



## 今後の課題

NT 派遣コマ数の急激な増減⇒柔軟な体制実現

- ・NT 技術の継承（新入生指導+スキルアップ）
- ・ノートテイク会の存続（モチベーションの維持）

コマ数に左右されないNT 会の運営⇒一貫したシステム

- ・学内イベントへの参加
- ・メンバー同士の交流（合宿・旅行）



問い合わせ先

千葉大学ノートテイク会 (info@ntkai.skr.jp)

代表：立松奈名子、副代表：斎藤実里、伊藤久美子



# 愛知教育大学 障害学生支援団体「てくてく」

## 学生コーディネーターとは？

愛知教育大学の聴覚障害学生支援団体「てくてく」は学生コーディネーターが主体となり、テイカーの募集や割り振り、パソコンテイクの練習会等を行なっています。

### 「てくてく」でのコーディネーター業務

#### ・テイカー募集活動

4月当初に行われる新入生、在学生向けガイダンスの時に聴覚障害学生と共に活動内容を発表し、募集活動をしている。その時にパソコンテイクで起こした文字をスクリーンに映し出してアピールをしている。

#### ・テイカーの割り振り

新学期に各テイカーが空いている時間をネットを通じて登録する。聴覚障害学生の授業の状況と必要な情報保障手段を相談し、上記の情報と照らし合わせ、以下を条件にテイカーの割り振りを行う。

- ・1日1回、週に2コマ以下とする。
- ・所属、学年が異なる人と組む。
- ・テイクの経験の少ない人は、半期以上通してテイクを経験した人と組む。

#### ・テイカーの集まり、練習会の企画

テイカーのモチベーションの維持、向上を図るため、意見交換を行う集まりや、円滑に情報保障を行うためのスキルアップ練習会などを開催している。

#### ・お昼の集まり

毎週月曜日と木曜日のお昼休みの3,40分を使って、一緒に昼食を取りながら、テイカー同士の交流を中心とした集まり。

#### ・聴覚障害学生、テイカーからの相談受付

聴覚障害学生、テイカーから出る要望のなかで特に相手(教員などを含む)に対して言い難いことをコーディネーターが受け、対策を考える。

### スキルアップ練習会

- ・模擬授業による連携練習
- ・指文字、手話講座
- ・手書きノートテイク講座
- ・支援に使う機器の使い方
- ・遠隔支援システムの使い方の説明

#### 集中スキルアップ練習会

時間の都合上、普段のお昼の集まりでは行うのが難しいことをするために集中的な練習会を大学祭期間中や長期休暇中を利用して行なっている。

#### 遠隔システムを使ったスキルアップ練習会

自宅など、インターネットに接続できる環境なら、どこでも行うことができる遠隔支援システムを使用した、あまり時間に縛られない自由に行える練習の場を設けている。

### 学生コーディネーター経験者の声

- ・自分の科以外のたくさんの学生と交流ができたこと。
- ・聴覚障害学生と触れ合うことで、自分の知らない世界がまだあるんだなという事を知る良いきっかけになった。
- ・シンポジウムなどでいろいろな人の話を聴く機会が増え、多くの刺激を受けたのはとてもいい経験だった。

・急なテイクの要請をお願いをしても、テイカーが二つ返事で引き受けてくれたテイカーが数多くいたのはありがたかった。

・定期的にテイクに入ることでできないテイカーのモチベーションの維持が大変。

・聴覚障害学生、テイカー、大学の事務局・教員といった多方向に渡る連携が必要でとても気を使った。

#### 問い合わせ先

愛知教育大学 情報保障支援学生団体「てくてく」 代表:岩丸雅則

連絡先(e-mail: tekuteku@t.ics.aichi-edu.ac.jp)



同志社大学

# 同志社の実り

～そだてる・つながる・ひろがる～

## 利用学生・サポートスタッフ

幅広い支援スキル  
支えあい互いに学びあえる「自律的成長」

## 情報保障

すべての基礎はここ！  
質の高い日々の支援

## 蓄積還元

現在までの実績  
先輩たちから受け継がれる「良心」

## 社会連携

学内の支援の充実  
あってこそその連携！

### 【お問い合わせ先】

同志社大学 学生支援センター 障がい学生支援室  
E-mail : jt-care@mail.doshisha.ac.jp

# 東京大学バリアフリー支援室 &

東京大学バリアフリー推進のための学生ネットワーク

# B.F.mate

## バリアフリー支援室の活動

- 障害のある学生・教職員への支援のコーディネート
- 「バリアフリー支援連絡会議」「障害のある学生・教職員との意見交換会」「支援実施担当者研修会」などの開催
- サポートスタッフの募集・養成(登録者約80名)
- バリアフリーに関する啓発  
「支援室説明会」「手話でしゃべらんち」などの開催
- 支援機器の貸出
- 施設のバリアフリー化



## 聴覚障害のある学生のためのサポートメニュー

- サポートに関する面談
- 各部局の支援実施担当者を通じた教員との連絡・調整  
(授業時、試験時の配慮など)
- 優先席の確保
- 授業支援(ノートテイク・パソコンテイク・ノート作成)
- 補聴システム等の情報提供・貸出
- 字幕挿入
- 手話通訳者の派遣



## 支援室主催の意見交換会から B.F.mate へ

- 第1回(H20.7) 「ゲームで交流」
- 第2回(H21.2) 「学生自らが障害について語る」  
→学生も加わった企画委員会の開催
- 第3回(H21.7) 「サポートする側、される側の理解のために」
- 第4回(H22.2) 「障害と進路」
- 第5回(H23.7) 「お互いを知る」  
→「学生同士でもっと交流したい!」

「H23年11月 交流会  
サポートスタッフが中心となって企画した学生同士の交流行事」

## 第6回(H24.2) 「学生主催：アイデアコンテスト ～学生によるバリアフリー支援～」



出された  
アイデア

- ◆ バリアフリーゼミの開催
- ◆ 学生コミュニティを作る  
→ 学生主体の企画立案・開催  
→ 日常の活動について情報交換  
→ 他大学との交流

実現のために……

## 東京大学バリアフリー推進のための学生ネットワーク B.F.mate

### What is B.F.mate?

支援室で活動するサポートスタッフを中心に、障害のある学生や福祉系サークルの有志が集まった学生団体です。

- ・東京大学全体のバリアフリーを目指す
- ・バリアフリーへの関心を広げる
- ・バリアフリーに関心を持つ学内・学外の学生をつなぐ

という理念のもと、様々な活動に取り組んでいます。



→「B.F.mate」で検索！

### 学生意見交換会 in 本郷(→)

支援室の主催で行われていた意見交換会を学生の手で運営するようになりました。



利用する人の視点に立った新しいバリアフリーマップの作成を目標に、実地調査を行いました。  
(←)本郷バリアフリーマップ調査

### 全学自由ゼミ「バリアカ!!」

「全学自由ゼミナール」とは、学生が企画し、講師を招いて行う授業で、大学の審査を経て開講が認められると単位が認定されるものです。  
「バリアフリーについてアカデミックに考える」をテーマに、12人(予定)の先生によるリレー講義で、様々な視点からバリアフリーを考えるゼミを学生の手によって運営しています。詳細は別途配布しているチラシなどもご覧ください。



H24年3月

**B.F.mate  
発足**

これまでの活動実績

- 4月 支援室説明会で活動予定紹介
- 7月 学生意見交換会 in 本郷  
テーマ: 他大学の取り組みとバリアフリーマップ
- 8月 東大オープンキャンパスに協力  
ポスターでの活動紹介など
- 9月 本郷バリアフリーマップ調査  
バリアフリー支援室と共同で実施
- 10月 全学自由ゼミ「バリアカ!!」開講
- 11月 テマパークバリアフリー設備見学  
東京ディズニーシー、ラクーア、浅草花やしき  
駒場祭に企画出展  
「福祉系サークル合同展示」
- 12月 PEP Net-Japan シンポジウム参加

今後の計画

- H25年2月 学生意見交換会開催
- 3月 駒場バリアフリーマップ調査

### 【お問い合わせ先】

東京大学バリアフリー支援室: spds-staff@mm.itc.u-tokyo.ac.jp  
東京大学バリアフリー推進のための学生ネットワーク **B.F.mate**: todaibarrierfree@gmail.com

# PR・啓発グッズ部門 応募団体紹介

## 愛媛大学 CBP

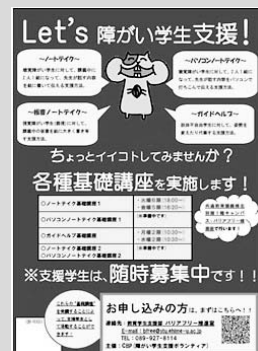
(Campus Barrier free Promoters :  
障がい学生支援ボランティア)

### ◇バリアフリー推進室 ガラスの自動ドア

マジックを使って、ガラスの自動ドアへ自由に書き込みをしています。そのスペースには時期ごとに絵を描いています。支援学生の過ごしやすい部屋になるよう、内側からも絵を描くなど工夫をしています。

### ◇広報(支援学生募集用)ポスター

<問い合わせ先> CBP cbp.scv@gmail.com



## 宮城教育大学 しょうがい学生支援室

### ◇災害対応カードゲーム教材「クロスロード」

東日本大震災の経験を受け、災害時や聴覚障害学生の日常生活に必要な判断力を養うためのカードゲーム教材を新たに作成しました。聴覚障害学生だけでなく、支援学生や教職員も使うことができ、様々な立場に立って考えることができます。

<問い合わせ先> しょうがい学生支援室  
Support-Coordinator@ml.miyakyo-u.ac.jp



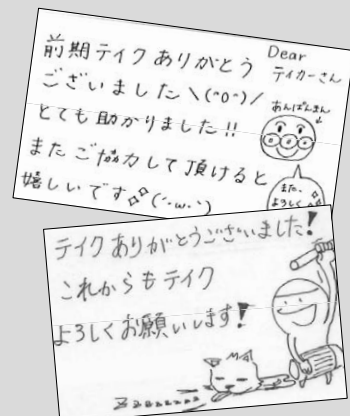
## 東北福祉大学 障がい学生支援室

### ◇ノートテイクー募集ビラ

### ◇ノートテイクの手引き

### ◇ありがとうカード

聴覚障がい学生の支援を行う学生団体「障がい学生サポートチーム テイク☆テイク」が作成したグッズです。「ありがとうカード」は利用学生から、半期のテイクを担当してくれたテイクーに最終講義の時に渡します。



<問い合わせ先> 障がい学生支援室 support@tfu-mail.tfu.ac.jp

## 第8回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム

発行日：2012 年 12 月 2 日

発 行：第8回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム実行委員会

日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PEPNet-Japan）事務局

〒305-8520 茨城県つくば市天久保 4-3-15

筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター

※本事業は、筑波技術大学「聴覚障害学生支援・大学間  
コラボレーションスキーム事業」の活動の一部です。



表紙デザイン：崔鶴、三浦桃子、片岸修斗（筑波技術大学産業技術学部総合デザイン学科 学生）  
鈴木拓弥（筑波技術大学産業技術学部総合デザイン学科 講師）







**PEPNet-Japan**